業務資料 No. 170

外部秘

移住地特定農家経済調査報告書

(昭和44年度)

昭和46年3月

海外移住事業団

RY

国際協力事業団	
受入月日 '84. 9. 13	701
	81.8
登録No. 14870	EM

ま　え　が　き

移住地農家経営の実態を明確に把握することは、営農改善上或いは営農指導上の基礎資料として欠くことの出来ないものである。

このような問題解決の端緒として、昭和37年以来簡易調査を継続実施し、移住地農家経済の実態を極力把握して来たが、この広範囲にわたりかつ多くの農家を対象にした簡易調査と併行し、主要な移住地の農家1～2戸を対象としてさらに個別に詳細な経営調査を行うこととし、昭和41年度より特定農家経営実態調査として実施して来た。

本報告書はこの調査農家から比較的正確に日記帳を記帳した農家7戸を選び、各々一年間の成果を東京本部で集計したものである。

なお、本年度は本調査集計を開始して3年目を迎えたので一部農家については対過年度実績の対比を行ない、経営の年度別動向をとらえてみた。しかし、調査農家のうちには記帳に充分馴れていないこともあり、また調査方法、集計方法等についても逐年改訂を加えていることなどから必ずしも的確な年度別経済動向をつかみ得ないきらいがあった。また、この他本報告書の内容で多少の疑問点があると思われるが、この点は各位の忌憚のない御批判と御助言を御願いする。

最後に本調査に御協力下さった関係各位に深く感謝する。

昭和46年3月

業務第2部長

JICA LIBRARY
1053977[3]

目　次

利用にあたって …… 1

Ⅰ　調査目的 …… 1

Ⅱ　調査対象 …… 1

Ⅲ　調査方法 …… 1

Ⅳ　調査対象期間 …… 1

Ⅴ　調査対象の経営概況 …… 1

Ⅵ　調査結果の表示方法 …… 2

別添　動態計算の各取引図解 …… 8―1

特定農家経済調査日記帳様式 …… 8―2

アンデス移住地　A氏 …… 9

概観――移住地に於けるA氏農家の位置―― …… 11

Ⅰ　経営の概況 …… 12

Ⅱ　経営分析 …… 13

Ⅲ　農家経済総括表 …… 20

附表　月別現金収支取引について …… 26

ガルアッペ移住地　B氏 …… 29

概観――移住地に於けるB氏農家の位置―― …… 31

Ⅰ　経営の概況 …… 32

Ⅱ　経営分析 …… 33

Ⅲ　農家経済総括表 …… 40

附表　月別現金収支取引について …… 46

ガルアッペ移住地　C氏 …… 49

概観――移住地に於けるC氏農家の位置―― …… 51

Ⅰ　経営の概況 …… 52

Ⅱ　経営分析 …… 53

Ⅲ　農家経済総括表 …… 60

附表　月別現金収支取引について …… 66

サンフファン移住地　D氏 …… 69
概観　―― 移住地に於けるD氏農家の位置 ―― …… 71
I　経営の概況 …… 72
II　経営分析 …… 73
III　農家経済総括表 …… 80
附表　月別現金収支取引について …… 86
サンファン移住地　E氏 …… 89
概観　―― 移住地に於けるE氏農家の位置 ―― …… 91
I　経営の概況 …… 92
II　経営分析 …… 93
III　農家経済総括表 …… 100
附表　月別現金収支取引について …… 106
グァタパラ移住地　F氏 …… 109
概観　―― 移住地に於けるF氏農家の位置 ―― …… 111
I　経営の概況 …… 112
II　経営分析 …… 113
III　農家経済総括表 …… 118
附表　月別現金収支取引について …… 128
ピニャール移住地　G氏 …… 131
概観　―― 移住地に於けるG氏農家の位置 ―― …… 133
I　経営の概況 …… 134
II　経営分析 …… 135
III　農家経済総括表 …… 140
附表　月別現金収支取引について …… 146
イグアス移住地　H氏〔参考〕 …… 149

利用にあたって

I　調査目的

移住地農家経営の実態並びに推移を個別農家について、継続的に調査分析し、現地においては、移住地の営農計画、指導の基礎資料として、本部においては、総合的な移住地経営方針樹立及び、移住希望者の啓発資料とする。

II　調査対象

戦後移住の主要な集団移住地を調査地区とし、それぞれの調査地区居住の特定農家を対象として、そのうち一年間継続して、比較的確実に記帳されていると見られる農家7戸を選定し、集計分析した。

III　調査方法

海外移住事業団が作成した日記帳を対象農家に配布し、当事業団現地支部の営農指導関係職員が記帳方法等を指導し農家に1カ年間継続記帳せしめた簿記を調査原簿として当事業団本部にて集計分析したものである。

IV　調査対象期間

氏名	国名	支部名	移住地名	対象期間
A氏	アルゼンチン	ブエノスアイレス	アンデス	昭和43年11月1日〜44年10月31日
B氏	アルゼンチン	ブエノスアイレス	ガルアッペ	昭和43年11月1日〜44年10月31日
C氏	アルゼンチン	ブエノスアイレス	ガルアッペ	昭和43年11月1日〜44年10月31日
D氏	ボリビア	サンタクルス	サンフアン	昭和43年11月1日〜44年10月31日
E氏	ボリビア	サンタクルス	サンフアン	昭和43年11月1日〜44年10月31日
F氏	ブラジル	サンパウロ	グァタパラ	昭和44年1月1日〜44年12月31日
G氏	ブラジル	サンパウロ	ピニャール	昭和43年9月1日〜44年8月31日

V　調査対象の経営概況

1. 経営の概要

氏名	入植経過年数	耕地面積	経営型態	主要収入	換算労働員数
A氏	5年 6月	14,3 ha	蔬菜主体将来は果樹	トマト	1.8人
B氏	9年	8,5 ha	柑橘植林タバコ	柑橘タバコ	2.2人
C氏	7年 6月	5,0 ha	蔬菜主体将来は柑橘類	タバコ、パイアップル	3.0人
D氏	8年 1月	26,0 ha	米作、養鶏、将来は牧畜	陸稲、スイカ、鶏卵	3.3人
E氏	5年 4月	23,0 ha	米作、牧畜	陸稲、牛乳	2.3人
F氏	7年11月	18,5 ha	米作、蔬菜類	水稲、カボチャ、スイカ	6.4人
G氏	6年 8月	8,0 ha	果樹	ブドウ、桃、ポンカン	1.8人

2. 調査対象移住地に於ける一戸当り平均収支との比較

(単位：千円)

項目		アンデス		ガルアッペ			サンフアン			グアタパラ		ピニヤール	
		平均	A氏	平均	B氏	C氏	平均	D氏	E氏	平均	F氏	平均	G氏
粗収入	農業	627	886	1,111	968	356	1,092	1,700	1,070	2919	4298	2079	2354
	農外	113	49	227	73	42	166	33	111	42	36	9	30
	計	740	935	1,338	1041	398	1,258	1,733	1,181	2961	4354	2088	2384
支出	農業経営費	333	494	477	208	82	544	770	571	2284	1,979	1,366	1,089
	農外支出	3	0	89	—	6	47	16	52	0	—	0	0
	計	336	494	566	208	88	591	786	623	2284	1,979	1,366	1,089
所得	農業	294	392	634	760	274	548	930	499	635	2319	713	1265
	農外	110	49	138	73	36	119	17	59	42	36	9	30
	農家	404	441	772	833	310	667	947	558	677	2355	722	1,295
家計費及び公租公課		216	419	334	349	277	361	566	514	402	1,020	303	203
農家経済余剰		(188)	(22)	(438)	(484)	(33)	(306)	(381)	(44)	(275)	(1,335)	(419)	(1,092)

注） 本表の移住地平均は昭和44年度移住地農家経済簡易調査（但し調査期間はアンデス、ガルアッペ43.9〜44.8、サンフアン43.5〜44.4、グアタパラ、ピニヤール、44.1〜44.12）を引用した個別農家について被贈等の収支は農外部門に含めた。

3. 貨幣の表示並びに邦貨換算レート

本報告書は全て次表に従って行った。

項目＼移住地	アンデス	ガルアッペ	サンフアン	グアタパラ	ピニヤール
貨幣の表示	ペ ソ	ペ ソ	$ b	N c r $	N c r $
換算レート	1ペソ=1.03円	1ペソ=1.03円	1$b=30円	1Ncr$=88.46円	1Ncr$=92.28円

Ⅵ 調査結果の表示方法並びに統計表別項目の説明

本報告書は経営の概況、経営分析、農業経済総括表に編成表示した。なお、はじめに経営成果グラフとして移住地（昭和44年度簡易調査より）と本調査農家との経営成果対比を行い、本調査農家の移住地に於ける位置を示した。

1. 経営の概況

当該農家の経営概況を説明した。

2. 経営分析

動態計算及び労働関係を主体として分析した。静態計算は財産台帳が完成されていないので、純利益を動静両面から捉え、誤差を修正することが残念ながら出来なかった。

(1) 動態計算

農業粗収入 ー 農業経営費 ＝農業所得
農外収入 ー 農外支出 ＝農外所得
農業所得 ＋ 農外所得 ＝農家所得
農家所得＋被贈扶助等の収入ー租税公課諸負担＝可処分所得
可処分所得 ー 家計費 ＝農家経済余剰

(2) 静態計算

年度末財産総額ー年度始財産総額＝差引純財産

3. 農家経済総括表

(1) 農業粗収入について

① 未処分農産物の取扱いについて

当年度生産の年度末未処分農産物は当年度の経営成果の一部であるから農業粗収入に加算した。年度始未処分農産物は前年度（過年度）の経営成果の一部であるから、当年度農業粗収入から控除すべきであるが、この調査では生産物を販売または家計消費した場合に当年度生産物と前年度（過年度）生産物を区分して勘定していないので年度末決算の際に一括農業収入に夫々加算ないしは控除する建前とした。

しかし実際には財産台帳が整備されていない農家については農業粗収入に加算ないしは控除すべき未処分農産物の額が算出し得なかった。従って年度のとり方によっては当年度の農業粗収入のなかに前年度（過年度）生産の農産物を多く含んだ農家があることを避け得られなかった。

② 農業現金収入

年度内に販売することによって得た現金総額でこのなかには、①の理由により当年度以前において生産された農産物の販売収入も含んでいる。

なお当年度の農産物代金が未決済のまゝになっているものは農産物が出荷された時点に於いて売掛金として債権に振替え計上し、一方その額を農産物の販売収入に計上処理した。

③ 現物労賃支払

労賃を農業生産現物で支払った場合この評価額を計上した。

④ 家計仕向自家生産物

家計に消費するため仕向けられた自家農業生産物の評価額を計上した。

⑤ 現物外部取引

贈与品として自家農業生産物を使用した場合、この評価額を計上した。

⑥ 修正額

明らかに記帳もれと考えられる農家について正確を期するため他の調査(簡易調査票)と比較検討を行い記帳漏れ額を計算し、修正額として計上した。

(2) 農業現金支出について

当年度内に支払った農業経営上の現金支出額である。但し、前年度後に使用されていると思われる経営用物財を一部含んでいるが明確な区分が出来ないので当年度内の現金支払い額を含み計上した。

また当年度に購入した生産資材代金が未決済又は、未払いになっているものは、購入品の引取り時点で現金支出に計上加算した。一方同時に買掛未払金として債務に振替え処理した。

雇用人夫に労賃を支払うに当って購入生産資材,購入家計用品でもって支払った場合は実質的には、これら物品が労賃に振替ったこととなるので、この購入金額を労賃に振替加算し、一方この金額だけ農業経営費及び家計費より差引かなければならないので、この金額を差引き修正した。また農業経営費でもって支払われた固定資産関係資用は財産的支出であるためこの分を農業経営費より差引き修正した。

(各取引の振替については図式に表わすと別表の通りである。)

② 現　物

農業経営費を支払うに当って現金で支払わず自家生産物で支払った現物は経営内部に於いて販売され支出されたこととなるので、この現物の評価額を夫々農業粗収入及び農業経営費に加算した。

③ その他

地代、自己資本利子、家族労賃は計上せず、また自家生産物が経営内部に仕向けられたもの即ち中間生産物は農業経営費に算入しないこととした。

なお減価償却費については、財産台帳が不備なため残念ながら計上しなかった。

(3) 家計費について

農家の家族が生計を維持するために要した費用を表示した。

家計費は現金支出及び自家生産物家計仕向評価額を加算した合計額である。

なお家計用建物、機具類等の減価償却費は明確に把握し得ないので計上しなかった。

交際娯楽費には贈答用に使用したものは一括加算した。即ち農業現金支出で購入した物、他の家計費で購入した物、及び自家生産物で贈答した物等を交際娯楽費に加算した。

家計費で購入した物品を雇用労賃として支払った場合は、この評価額を差引いて雇用労賃に振替えた。また交際娯楽費を除く家計費で購入した物を贈答に使用したものは、この評価額を夫々の費目より差引いた。この様にして算出した経常家計費に臨時家計費を加えて最終的に家計費を計上した。

注） 掛取引については次の通り処理した。

（農産物掛販売）

	販売時	入金時
所得的取引	収入、農業現金収入	――――
財産的取引	支出、売掛未収金	収入、売掛未収金回収

（生産資材、家計用物品等掛購入）

	購入時	支払時
所得的取引	支出、農業現金支出 現金家計費	――――
財産的取引	収入、買掛未払金	支出、買掛未払金返済

預貯金がある場合は財産的取引の収入で組合口座引出、銀行預金引出等で算出した。

(4) 農外収支について

農業経営以外の収入及び支出額を表示した。

(5) 被贈扶助等の収入について

他出家族からの送金、祝金、香典等交際上の貰物である被贈収入、恩給年金等の扶助収入を加算した合計額で表示した。

(6) 農業経営収支修正について

前述した農業収入及び支出は厳密な意味では正しくないので本項にて一括修正することにした。

即ち、育成中の大動植物の増殖額、年度内に於ける植物の新植による増加額、中小家畜の頭羽数増減額等はこれらの育成管理に経費が投下されているので当然この増減額が農業粗収入に加算されなければならない。

また未処分農産物在庫額については年度始未処分農産物は前年度（過年度）の経営成果の一部であるが本調査に於いて生産物の販売及び家計仕向に消費されたものが、はたして当年度に生産されたものか前年度に生産されたものかを区分し得ないので、年度末決算において未処分農産物在庫増加額（年度末在庫額－年度始在庫額）を算出し加算する必要がある。

農業経営費についても農業生産資材在庫減少額を未処分農産物在庫増加額の処理と同じ理由により農業経営費に加算する必要がある。

以上により本項にて一括修正する建前としたが財産台帳の不備な農家が多いため残念ながらC氏（ガルアッペ移住地）のみ修正するにとどまった。

(7) 現金収支の総括について

農家の年度内現金の動きを総括的に把握するために現金部門についてのみ収入には農業収入、農外収入、被贈扶助等の収入及び財産的収入を、支出には農業支出、農外支出、租税公課諸負担金、家計支出及び財産的支出を表示した。

財産的現金収支の固定資産の「収入」は売却額、「支出」は購入額、準現金の「収入」は引出額、「支出」は預入額、借入金の「収入」は借入額、「支出」は返済額等を夫々計上した。

(8) 経営分析指標について

農業経済の経営内容を端的に示す意味で次の項目について経営分析を行った。

① 農業経営成果

動態計算の結果をとりまとめ農家所得の源泉とその配分を表示した。

なお「純余剰＝農家経済余剰＋加算額－控除額」は静態計算の結果算出される農家の純財産の年度内増減額と一致することとなるが本報告書に於いては静態計算が完全に行えなかったので全て割愛した。

（注） 経済余剰に加算すべき額

ア 固定資産造成家族労賃見積額

イ 資産処分差利益

ウ 付加減価償却費

エ 偶発損失

② 分析指標算出のための原数値

ア 農業純生産＝農業粗収入－（農業固定資本材の減価償却費＋農業流動財費）

イ 農業流動財費＝農業経営費－（減価償却費＋雇用労賃）

ウ 飲食費は主食、副食調味料、嗜好品費の計（但し、タバコ代を除いたもの）

③ 経済総括指標

ア　農業依存度（％）＝農業所得÷農家所得

イ　農業所得による家計費充足率（％）＝農業所得÷家族家計費

ウ　農業所得率（％）＝農業所得÷農業粗収入

④　生活水準指標

ア　一人当り可処分所得＝可処分所得÷年度始家族数

イ　一人当り家計費＝家計費÷年度始家族員数

ウ　エンゲル系数（％）＝飲食費÷家計費

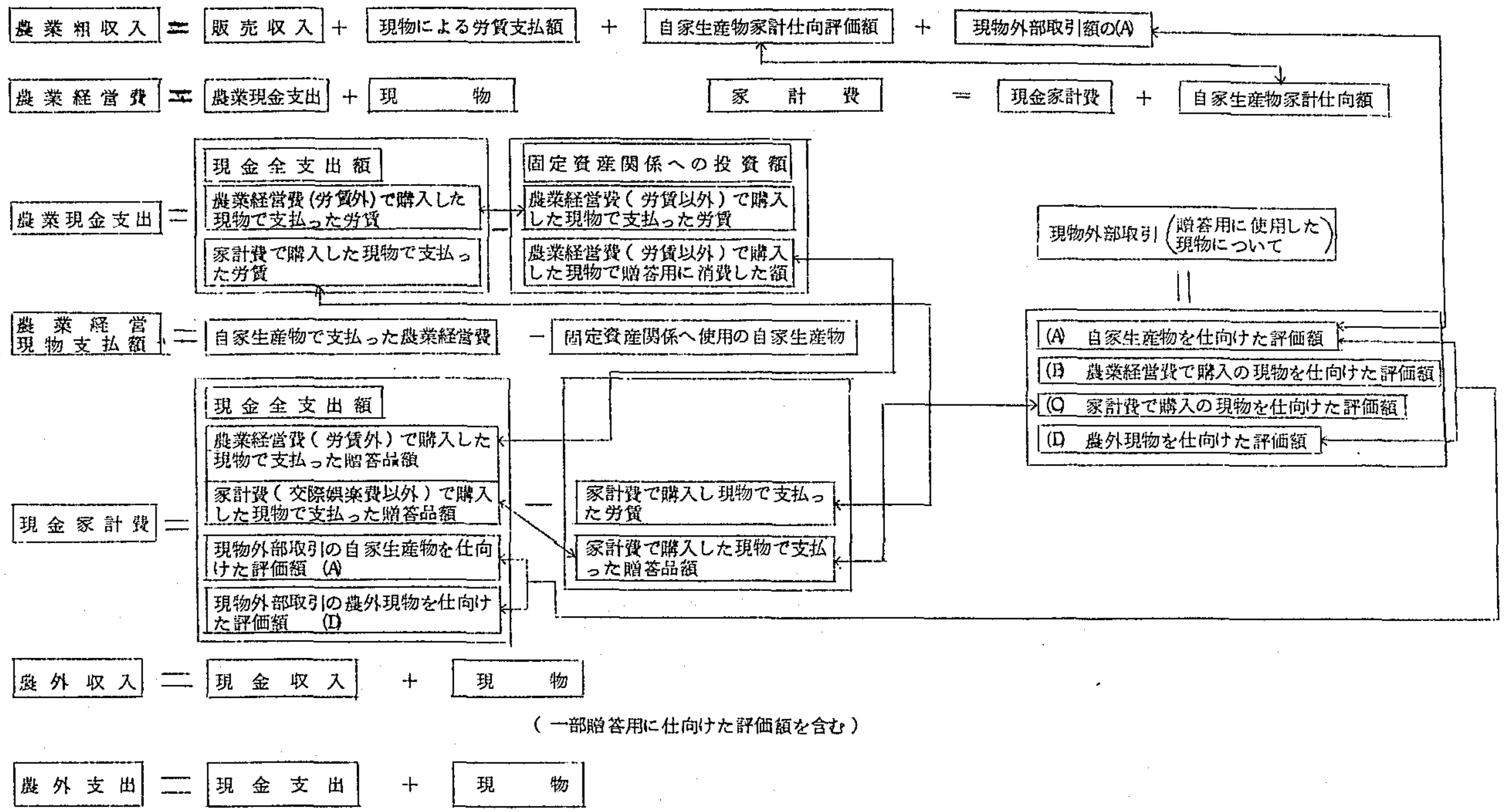
エ　食糧自給率（％）＝自家生産物家計（食糧）仕向額÷飲食費

4.　集計方法

農家が一年間継続した日記帳をもとに現金、現物取引き、及び投下労働時間等を各項目ごとに区分整理し、これを月別に仕訳け、１２ケ月分を合計して当該年度の集計を算出した。

なお日記帳様式は別紙の通りである。

動態計算の各取引図解



農業粗収入
=
販売収入
+
現物による労賃支払額
+
自家生産物家計仕向評価額
+
現物外部取引額の(A)
農業経営費
=
農業現金支出
+
現物
家計費
=
現金家計費
+
自家生産物家計仕向額
農業現金支出
=
現金全支出額
農業経営費(労賃外)で購入した現物で支払った労賃
家計費で購入した現物で支払った労賃
−
固定資産関係への投資額
農業経営費(労賃以外)で購入した現物で支払った労賃
農業経営費(労賃以外)で購入した現物で贈答用に消費した額
現物外部取引(贈答用に使用した現物について)
(A) 自家生産物を仕向けた評価額
(B) 農業経営費で購入の現物を仕向けた評価額
(C) 家計費で購入の現物を仕向けた評価額
(D) 農外現物を仕向けた評価額
農業経営現物支払額
=
自家生産物で支払った農業経営費
−
固定資産関係へ使用の自家生産物
現金家計費
=
現金全支出額
農業経営費(労賃外)で購入した現物で支払った贈答品額
家計費(交際娯楽費以外)で購入した現物で支払った贈答品額
現物外部取引の自家生産物を仕向けた評価額 (A)
現物外部取引の農外現物を仕向けた評価額 (D)
−
家計費で購入し現物で支払った労賃
家計費で購入した現物で支払った贈答品額
農外収入
=
現金収入
+
現物
(一部贈答用に仕向けた評価額を含む)
農外支出
=
現金支出
+
現物

特定農家経営調査日記帳様式

①現金収支表

摘要（品名・等級・取引先・用途など）	単価	数量	単位	収入	支出	※科目
前日からの繰越金						
本日計						
翌日への繰越金						

②対組合取引表

摘要（品名・等級・用途など）	単価	数量	単位	売	買	※科目
組合取引口座残高						

③組合以外掛取引表

摘要（品名・等級・取引先・用途など）	単価	数量	単位	掛売	掛買	※科目

④現物外部取引表

摘要（品名・物交・もらい物の別その用途など）	受・払別	品名	数量・単位	評価額	※科目
	支払				
	受取				
	支払				
	受取				

⑩特記事項欄

⑤作業表　年　月　日　曜　天候　午前　午後　移住地　氏名

	作業者(具)名 性別・所有別	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
家族																									
常用雇																									
臨時雇および請負																									
手伝い 共同作業																									
動力																									
動力畜 作業機械																									
牛馬																									

⑥現物給与の労賃表

雇用形態	自給・購入の別	摘要（品名用途など）	数量・単位	評価額	※科目

⑨雇用契約表

雇用形態	作物名家畜名及び作業名	単価 単位	単価 金額	※科目

⑦自家生産物家計使用表

摘要（品名用途など）	数量単位	評価額	※科目

⑧生産資材使用表

品名	自給購入の別	作物名または家畜名	数量単位	評価額	※科目

特定農家経営調査日記帳（海外移住事業団）

アンデス移住地

A　氏

調査対象期間

昭和43年11月1日～昭和44年10月31日

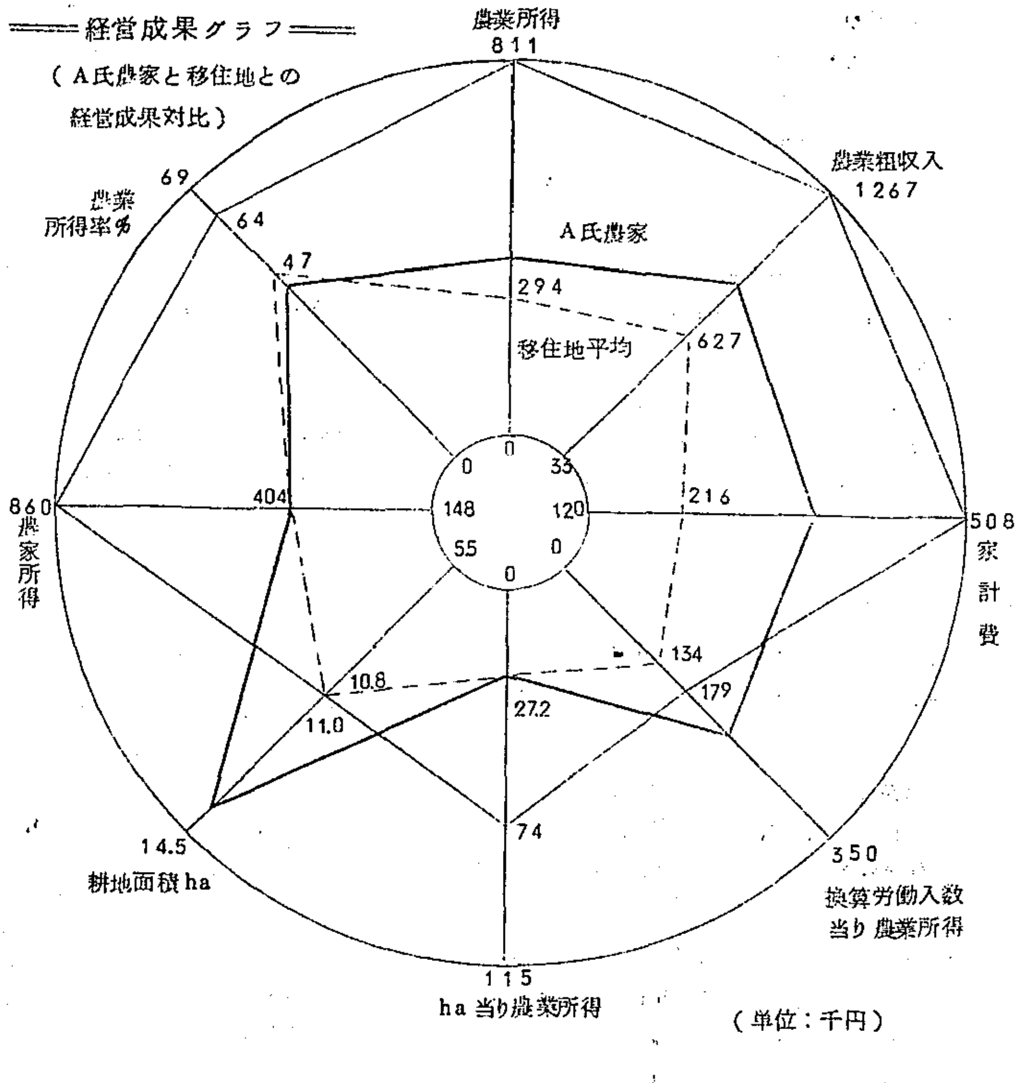
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

概観：移住地に於けるA氏農家の位置



1） グラフの説明

本グラフはアンデス移住地に於ける農業粗収入、農業所得等各項目ごとの規模を表わしたものである。外円は当移住地農家の各項目別の最高値を、内円は同様に各項目別の最低値を、また------線は移住地平均値を示したものである。但し最高、最低値の表示について、農外部門が極端に大きなウエイトを占める農家は除外し、かつ経営収支がマイナスを示す農家は最低値を0と表示した。

2 ） 移住地のトップ農家の位置

——— 線は当移住地に於いて農業粗収入、農家所得の最も高い農家を示し、この農家の農業収入は殆んど短期作物のみでその主な作物（売上高）はトマト（630千円）ニンニク（68千円）メロン（51.5千円）玉ネギ（21千円）等、永年作物についてはブドウを6200本植付ているが未だ収益をあげるに至っていない。

なお家族員数は8人（換算労働員数4.8人）である。

（昭和44年度移住地農家経済簡易調査より）

3 ） A氏農家位置

A氏農家（太い——線）はほゞ移住地平均並である。

耕地面積がかなり広い割に農業粗収入が少なく又——線(上位農家)と比しha 当り農業所得は大きく下廻っている

今後は耕地面積を広げることよりも先づ経営内容を充実することが必要であろう。

換算労働人数当り農業所得は上位農業を上廻る数値を示しており、経営者の不断の努力が察せられる、今後、自家働力の充実と相俟って上位農家をしのぐ経営成果があがるものと期待される。

I 経営の概況

入植年月　　　：昭和39年4月

入植後経過年数　：5年6月

(1) 家族構成

家長32才、妻、長男、次男、三男の5人家族、但し長男、次男、三男とも若年少の為、農作業稼働人員となっていない。（換算労働人数1.8人）

(2) 土地所有並びに利用状況

畑	：	3.5 ha	（トマト 2.0 ha　その他）
樹園地	：	5.8 〃	（ブドウ 2.5 ha　桃 2.0 ha　すもゝ等）
採牧草地	：	5.0 〃	（アルファルファ）
宅　地	：	0.3 〃	
未開墾地	：	4.6 〃	
所有地計	：	19.2 〃	

(3) 建物施設・農機具等

建物施設 ： 住宅1棟（80 ㎡）、畜舎2棟（34 ㎡）、鶏舎1棟（20 ㎡）

農　機　具　　　カルチベーター
家　　　畜　　　乳牛１頭、馬１頭、豚１頭、鶏１５羽

〔財産台帳が不整備のため参考までに昭和４４年度移住地農家経済簡易調査より引用した〕

本農家は家族構成にみるごとく現在稼働力に恵まれていない上、永年作転換のため固定資金の投入が続き苦しい時期ある。

勿論この苦境は長期に亘るものとは見られず永年作物の成木化（収入増）により一挙に改善されるものと期待される。

従ってここ１～２年の資金繰に蹉跌きたさないこと。農業経営費、家計費の節減を可能な限り進めること等が望まれる。

Ⅱ　経営分析

（農業経営成果）

項目	昭和４４年度		４３年度	４２年度
	現地貨	邦貨円	邦貨円	邦貨円
農業粗収入	859.966	885.765	998.056	1.194.337
農業経営費	479.526	493.912	560.836	766.473
農業所得	380.440	381.853	437.220	427.554
農外収入	13.500	13.905	27.233	30.581
農外支出	0	0	2.356	0
農外所得	13.500	13.905	24.877	30.581
農家所得	393.940	405.758	462.097	458.135
被贈等収入	33.900	34.917	28.191	15.836
租税公課諸負担	33.178	34.973	9.895	15.903
可処分所得	394.662	406.502	480.393	458.068
家計費	373.752	384.965	321.971	290.874
農家経済余剰	20.910	21.537	158.422	167.194

（昭和４２～４４年度邦貨換算率1.000ペソ＝1.030円）

農業粗収入及び農業経営費は厳密な意味では正しくない。

即ち動植物の増減額、未処分農産物の在庫増減額、生産資材在庫額及び減価償却費を算出計上しなければならないが財産台帳が不整備のため計上し得ずに農業粗収入及び農業経営費を算出せざるを得なかった。４３年、４２年度分についても同様である。

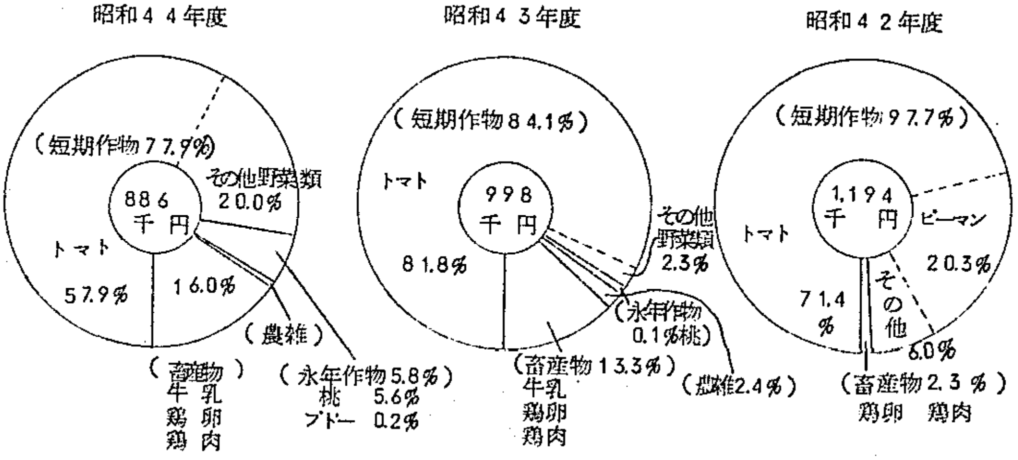
(1) 農業(粗)収入

農業粗収入859,966ペソ(886千円)のうち772,461ペソ(約796千円)が販売(現金化)されており商品化率は89.8%とほゞ前年並である(昭和43年度90.5%)なお農業粗収入はこの3ケ年減少をたどっているが、これは気象災害等によるところもあろうが、特に本農家はトマト(及びピーマン)主体営農から畜産(酪農・養鶏)及び永年作物(ブドウ)に移行しつつありその過渡的なものと思料される。

昭和43年度より若干ながら永年作物の生産(収穫)がみられるようになった。

将来この永年作物の成木化に伴って農業粗収入は大きく伸びることが期待される。

(農業粗収入の各作物別収入比率)

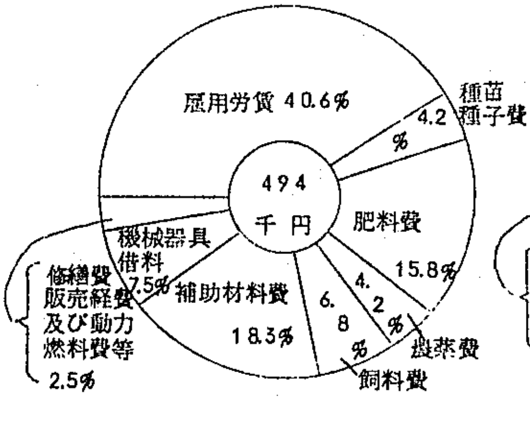


(2) 農業経営費

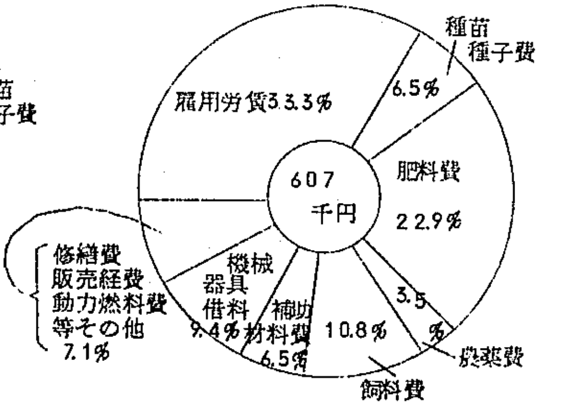
項　目	昭和４４年度		４３年度	４２年度
	現地貨(ペソ)	邦　貨	邦　貨	邦　貨
雇用労賃	194.772	200.615	141.248	264.566
種苗種子費	19.990	20.590	31.796	66.100
肥料費	75.573	77.840	159.156	180.945
農薬費	20.155	20.760	30.627	12.869
飼料費	32.679	33.659	54.840	109.010
補助材料費	87.582	90.209	14.555	13.740
修繕費	750	773	1.201	3.481
機械器具借料	36.020	37.100	77.291	56.568
動力燃料費	2.295	2.364	—	23.075
販売経費	190	196	47.938	901
借入金利息	—	—	—	—
減価償却費	(—)	(—)	(—)	(—)
水利費	8.640	8.899	—	—
その他	880	907	2.184	35.218
計	479.526	493.912	560.836	766.473

農業経営費は４２年より年々減少し本年度は４７９.５２６ペソ（４９４千円）となった。この減少は種苗種子費、肥料費、農薬費、等で蔬菜類（トマト、ピーマン等）の作付面積が減らされたことにあろう。一方対前年比で雇用労賃の大巾な増加がみられるが雇用労働量でこれに見合った増加がないため、労賃の値上り、雇用型態（常雇、臨時雇、請負等）に変化があったものかもしくわ前年度分労賃の繰越し支払いがあったものと思料されるが詳細不明である。

昭和４４年度農業経営費内訳比率



昭和４４,４３,４２年度平均農業経営費内訳比率

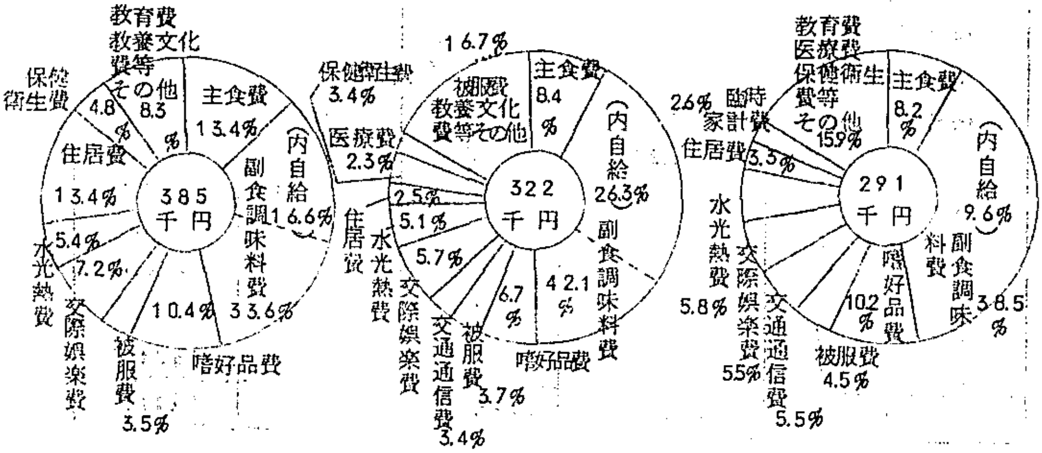


(3) 家 計 費

昭和42年度より年々約10%増となっている。家計費中飲食費の占める割合は57%(エンゲル系数)である。自給率は35%で前年度(46%)に比較して落ちているが、これは主に蔬菜類の減反によるものと思われる。

エンゲル系数	
昭和42年度	50.0%
43年度	56.8%
44年度	57.0%

(家計費内訳比率)



昭和44年度　　昭和43年度　　昭和42年度

労働関係分析

(1) 作業者内訳

家　長	2.905時間 ――――――	47.7%
	(稼働日数360日　8時間労働換算363.1日)	
妻	895.5時間 ――――――	14.7%
	(稼働日数235日　8時間労働換算111.9日)	
人　夫	2.269時間 ――――――	37.2%
手伝受	25.5時間 ――――――	0.4%
計	6.095時間 ――――――	100.0%

〔総雇用労働時間2.269時間中、固定資産造成関係に424.3時間投下されている、農業経営費に於いてこの分の雇用労賃を控除修正した。〕

年間投下労働量は6095時間であるが、これは農業関係以外の労働時間をも総て含めた時間であり、このうち農業労働時間は次表の通り5077.5時間である。

長男、二男、三男とも未だ若年少の為農業稼働力となっていない。

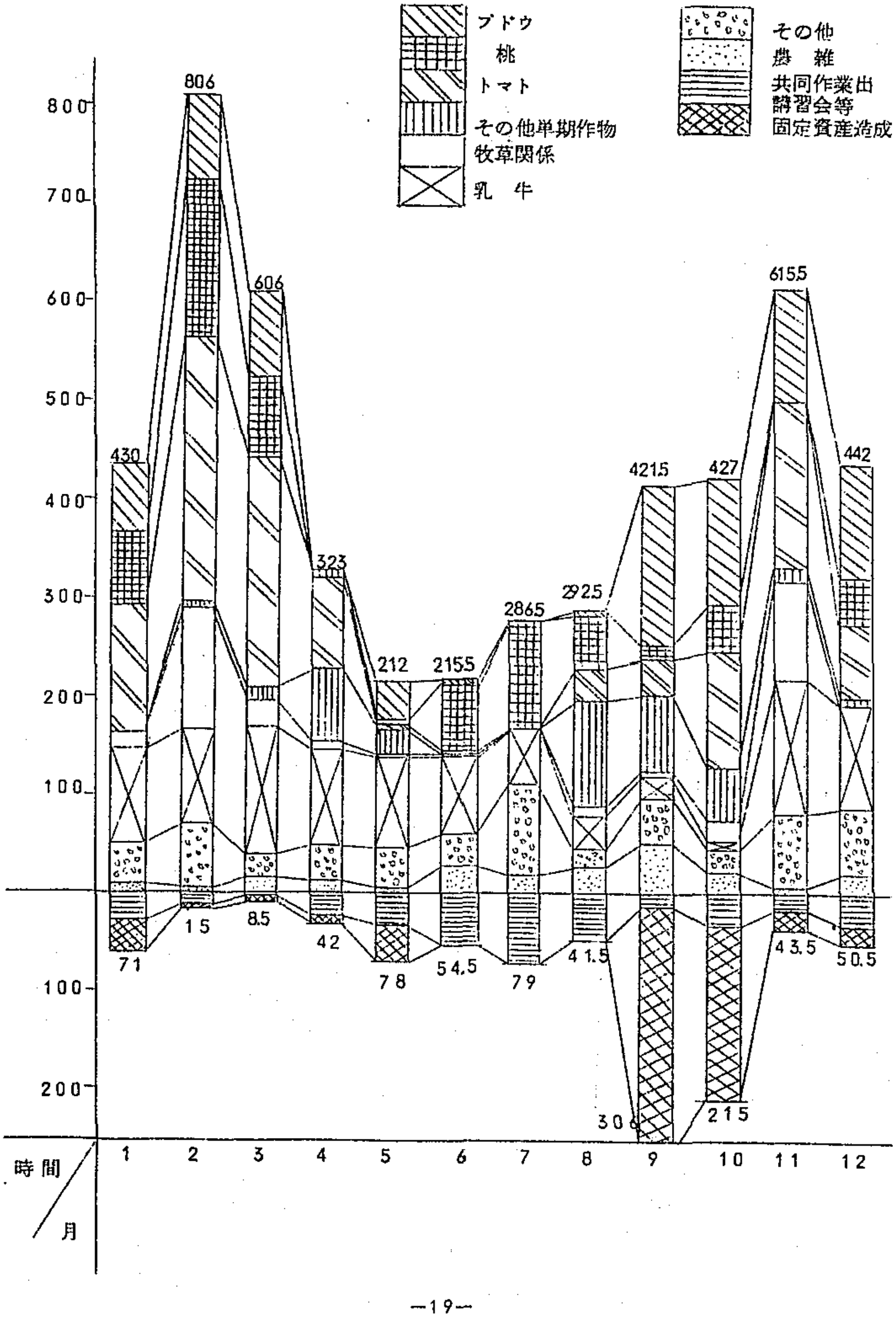
(2) 作物別作業時間

項目		労働時間	日数(8時間換算)	比率(%)
永年作物	ブドウ	850	106.3	14.0
	桃	649	81.1	10.6
短期作物	トマト	1,133	141.6	18.6
	その他	386.5	48.3	6.3
牧草関係		287	35.9	4.7
乳牛 〃		991.5	123.9	16.3
その他		595	74.4	9.8
農雑作業		185.5	23.2	3.0
(小計)		5,077.5	634.7	83.3
共同作業 講習会等		404.5	50.6	6.6
固定資産造成		613	76.6	10.1
計		6,095	761.9	100.0

"短期作物その他"はトマトを除くピーマン等そ菜類である

"その他 は永年、短期作物栽培に関しする作業であるが作目別に分類が出来なかったもので、灌水作業、溝作業、除草作業が含まれる。

"農雑作業"は、農機具類の手入れ整備、倉庫整備等である。


ブドウ
桃
トマト
その他単期作物
牧草関係
乳 牛
その他
農 雑
共同作業出
講習会等
固定資産造成
800
700
600
500
400
300
200
100
100
200
430
806
606
323
212
215.5
286.5
292.5
421.5
427
615.5
442
71
15
8.5
42
78
54.5
79
41.5
306
215
43.5
50.5
時間
月
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12

Ⅲ 農家経済総括（単位：ペソ）

1 農業収入

項目	品名	現金	現物労賃支払	自家生産物家計仕向	現物外部取引	計
永年作物	桃	27,656		12,830	7,650	48,136
	ブドウ			990	400	1,360
多年生作物	—	—	—	—	—	—
短期作物	トマト	495,610		2,305		497,915
	野菜類	35,100		6,440		41,540
	その他	129,760		400		130,160
畜産物	牛乳	78,935		29,910	1,970	110,815
	鶏卵	1,900		20,440	120	22,460
	鶏肉			4,050		4,050
農雑		3,500				3,500
計		772,461		77,365	10,140	859,966

2 農業経営費

項目	全支出額	修正 加算額 現物労賃支払（購入分） 農業経営費より	家計費より	小計	控除 固定資産関係	農業経営費より 現物労賃	現物外部取引	額 り支出 小計	差引加算控除額	修正金額	全支出額	控除額 固定資産関係	修正金額	合計
雇用労賃	239,598				44,826				△ 44,826	194,772				194,772
種苗種畜費	19,990									19,990				19,990
肥料費	75,573									35573				75,573
農薬費	20,155									20,155				20,155
飼料費	32,679									32,679				32,679
補助材料費	87,582									87,582				87,582
修繕費	750									750				750
機械器具借料	36,020									36,020				36,020
動力燃料費	2,295									2,295				2,295
販売経費	190									190				190
借入金利息														
減価償却費														
その他	880									880				880
水利費	8,640									8,640				8,640
計	524,352				44,826				△ 44,826	479,526				479,526

減価償却費は財産台帳が整備されていないので計上し得なかった。

3. 家　計　費

項目		現金	自家生産物家計仕向	計
主食費	米	17,630		17,630
	小麦	1,555		1,555
	粉乳	2,696		2,696
	その他	28,321		28,321
	小計	50,202		50,202
副食調味料費	肉類	4,206	4,050	8,256
	魚類	1,973		1,973
	調味料	10,449		10,449
	野菜類	2,950	7,105	10,055
	食油・バター	2,980		2,980
	缶・びん詰類	6,908		6,908
	牛乳・鶏卵		50,350	50,350
	その他	34,215	400	34,615
	小計	63,681	61,905	125,586
嗜好品費	酒類	1,865		1,865
	ジュース類	605		605
	菓子類	324		324
	果実類	2,450	15,460	17,910
	たばこ	2,971		2,971
	その他	21,897		21,897
	小計	30,112	15,460	45,572
被服費		12,930		12,930
教育費		1,930		1,930
教養文化費		8,045		8,048
医療費		5,512		5,512
保健衛生費		17,982		17,982
交通通信費		5,945		5,945
交際娯楽費		12,891		12,891
水光熱費		20,163		20,163
住居費		50,125		50,125
その他		1,811		1,811
計		281,332	77,365	358,697
臨時家計費		4,915		4,915
合計		286,247	77,365	363,612

家計費修正

項目		現金 全支出額	加算額（現物外部取引の購入分） 農業経営費より支払	家計費より支払	小計	控除額（現金家計費より支払） 現物労賃	現物外部取引	小計	差引加算控除額	修正金額	現物 自家生産物家計仕向	計
飲食費	主食費	50,202								50,202		50,202
	副食調味料費	63,681								63,681	61,905	125,586
	嗜好品費(除・たばこ)	27,141					3,600	3,600	△ 3,600	23,541	15,460	39,001
	小計	141,024					3,600	3,600	△ 3,600	137,424	77,365	214,789
たばこ		2,971								2,971		2,971
交際娯楽費		12891		4,050	4,050				4,050	16,941	10,140	27,081
その他		129,361					450	450	△ 450	128,911		128,911
計		286,247		4,050	4,0,50		4,050	4,050	0	286,247	87,505	373,752

4. 農外収入

項目	現金	現物	修正額	計
収入	13,500	—	—	13,500
支出	—	—	—	—

5. 被贈扶助等の収入

項目	現金	現物	修正額	計
収入	10,000	23,900	—	33,900

6. 農業経営収支の修正

項目			金額
農業粗収入	収入		859,966
	修正額	動物の増減額	—
		植物の増減額	—
		未処分農産物在庫増加額	—
	計		859,966
農業経営費	支出		479,526
	修正額	農業生産資材在庫減少額	—
	計		479,526
農業所得			380,440

農業粗収入算出にあたっては左表の如く農業粗収入、農業経営費の修正をしなければならないが、財産台帳不備のため修正し得なかった。

現金収支の総括

	項目	収入	支出	収支差引額
経常的収入及び支出	農業収入及び支出	772.461	479.526	292.935
	農外収入及び支出	13.500		13.500
	被贈扶助等の収入	10.000		10.000
	租税公課諸負担		33.178	△ 33.178
	家計費		286.247	△ 286.247
	計	795.961	798.951	△ 2.990
財産的収入及び支出	固定資産の購入・売却	2.000	44.826	△ 42.826
	土地		※ 44.826	△ 44.826
	建物施設	2.000	—	2.000
	農機具			
	動物			
	植物			
	借入金の借入・返済	36.000	38.000	△ 2.000
	借入金	36.000	38.000	△ 2.000
	その他	124.461	40.896	33.565
	売掛金	—	2.192	△ 2.192
	買掛金	124.461	88.704	35.757
	計	162.461	173.722	△ 11.261

△ は負債の増加を示す

※ 固定資産関係の支出44.826ペソは雇用労賃から支出したものである

（附表）

月別現金収支取引について

項目			月別	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
収入	所得的収入	農業現金収入	永年作物	—	—	4.770	4.326	1.780	11.060	—	2.720	—	—	—	3.000	27.656
			短期作物	10.000	45.800	25.500	43.100	128.760	46.000	37.040	48.000	40.000	27.000	27.000	182.270	660.470
			畜産物	7.540	13.930	5.100	13.260	4.950	10.605	6.640	8.190	2.885	5.355	2.380	—	80.835
			農雑									3.000		500		3.500
		小計		17.540	59.730	35.370	60.686	135.490	67.665	43.680	58.910	45.885	32.355	29.880	185.270	772.461
		農外現金									2.500		5.000	6.000		13.500
		被贈扶助等現金												10.000		10.000
		計		17.540	59.730	35.370	60.686	135.490	67.665	43.680	61.410	45.885	37.355	45.880	185.270	795.961
	財産的収入	固定資産売却									2.000					2.000
		借入金借入		5.000	—	3.000	5.000			5.000			12.000	3.000	3.000	36.000
		買掛未払		41.818	3.313	7.290				5.500	6.555	4.030	5.175	42.066	8.714	124.461
		合計		64.358	63.043	45.660	65.686	135.490	67.665	54.180	69.965	49.915	54.530	90.946	196.984	958.422
支出	所得的支出	農業現金支出		87.193	35.255	19.257	36.465	78.000	35.315	20.171	9.656	30.714	33.810	57.141	81.375	524.352
		租税公課諸負担						29.678		3.500						33.178
		計		87.193	35.255	19.257	36.465	107.678	35.315	23.671	9.656	30.714	33.810	57.141	81.375	557.530
	財産的支出	売掛未収				575	1.617									2.192
		借入金返済			5.000		3.000	5.000					7.000		18.000	38.000
		買掛支払				3.695			4.200	6.000	42.900		18.238	11.086	2.585	88.704
		計			5.000	4.270	4.617	5.000	4.200	6.000	42.900	—	25.238	11.086	20.585	128.896
	家計支出			19.445	21.098	21.154	20.866	24.049	27.967	32.709	15.024	13.400	17.538	16.181	54.816	286.247
	合計			106.638	61.353	44.681	61.948	136.727	67.482	62.380	67.580	44.114	76.586	84.408	158.776	972.673

ガルアッペ移住地

B　氏

調査対象期間

昭和43年11月1日～昭和44年10月31日

[illegible]

B 号

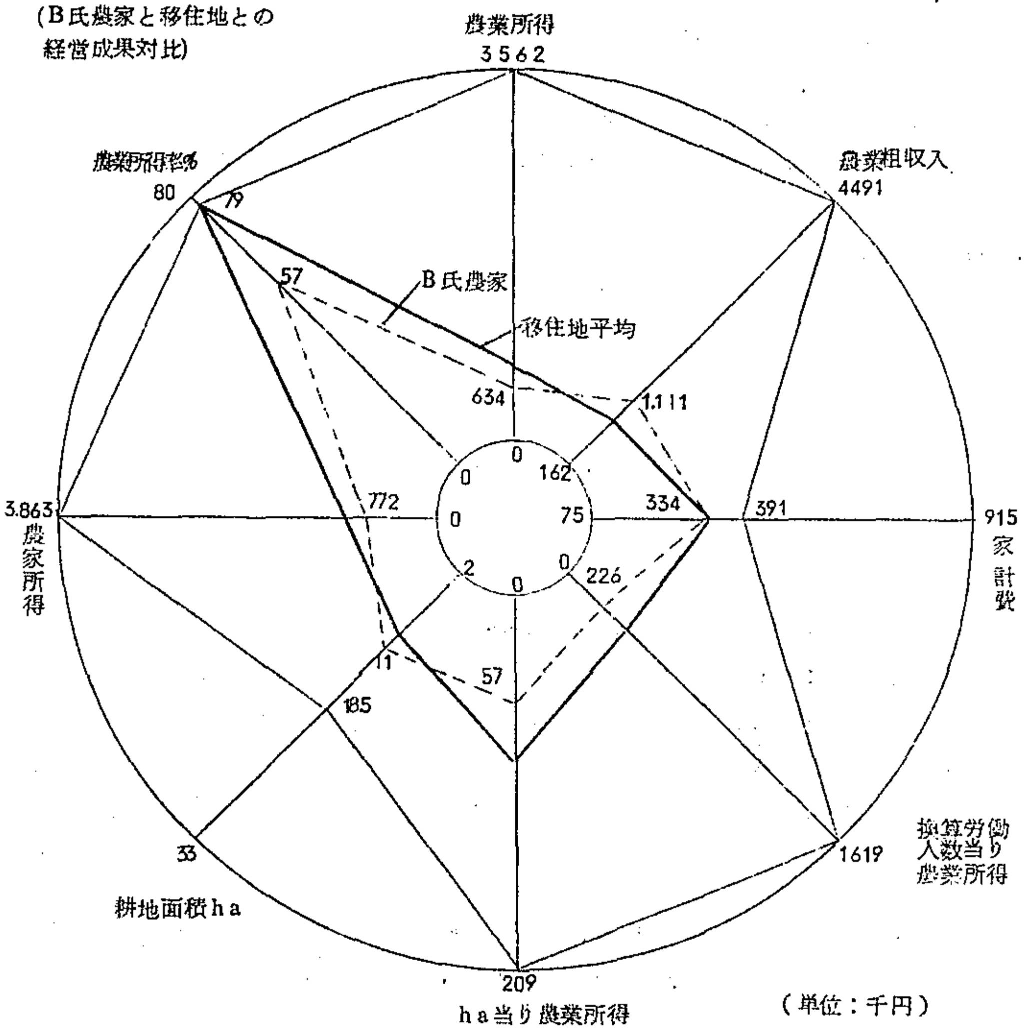
[illegible]

昭和43年1月1日～昭和43年10月31日

概観：移住地に於けるB氏農家の位置

―― 経営成果グラフ ――

(B氏農家と移住地との
経営成果対比)



（単位：千円）

（グラフの説明）

1）本グラフはガルアッペ移住地に於ける農業粗収入、農業所得等各項目ごとの規模を表わしたものである。外円は 移住地農家の各項目別の最高値を、内円は同様に各項目別の最低値を、また------線は移住地平均値を示したものである。但し最高、最低値の表示について農外部門が極端に大きなウエイトを占める農家は除外し、かつ経営収支がマイナスを示す農家は最低値を０と表示した。

2）―― 線は本移住地に於いて農業粗収入、農業所得の最も高い農家でありこの農家の農業収

入の最も大きいものは永年作物（みかん）である。このみかんは３７００本を植付ており、３２４０千ペソの粗収入をあげている。この他に松８５００本の植林を行っているが未だ樹令が若く収入をあげるに至っていない。

家族員数　６人、換算労働員数　２.２人、

（昭和４４年度移住地農家経済簡易調査より）

３）　Ｂ氏農家（太い———線）は本移住地に於いてはほぼ平均農家水準に位置している。

Ｉ　経営の概況

入植年月　：　昭和３４年１０月

入植経過年数　：　９　年

(1) 家族構成

家長４２才、妻、長男２０才、次男、長女の５人家族

（換算労働人数２.２人）

(2) 土地所有並びに利用状況

樹園地	： ８.５	（みかん、８.５ ha）
植林地	： １.０	
宅地	： ０.５	
未開墾地	： １５.０	
所有地計	： ２５.０	

(3) 建物施設・農機具等

建物・施設　：住宅１棟（４０m^2）、収納舎１棟（３２m^2）、タバコ乾燥１棟（１３２.５m^2）

農機具　：トラクター、発動機、動力噴霧機、トレーラー、チエンソー、除草機、刈取器

家畜　：鶏　１５羽

（財産台帳が不備のため参考までに昭和４４年度農家経済簡易調査より引用した）

対過年度比でみると本調査上、農業粗収入、農業所得、農家所得、農家経済余剰とも増加している。経営型態は柑橘作＋タバコ作に要約されるが当地で注目されつつある植林が少ない。

一方、入植経過年数９年に及ぶに拘らず所有面積２５ｈａのうち６割に及ぶ未開墾地をもっていることは、その理由は不詳であるがいずれにせよ残念である。

今後の課題として、できるだけ耕地化を計り植林等の資産化を企図する必要があろう。

なお次第に家計費が増加しているが生活水準が高まっている一方、教育投資が行われていることが原因である。

Ⅱ 経営分析

（農業経営成果）

項目	昭和44年度		昭和43年度	昭和42年度
	現地貨（ペソ）	邦貨（円）	邦貨（円）	邦貨（円）
農業粗収入	939,972	968,171	694,022	440,729
農業経営費	202,075	208,137	383,135	201,579
農業所得	737,897	760,034	410,887	239,150
農外収入	47,798	49,232	21,424	34,804
農外支出	271	279	—	11,300
農外所得	47,527	48,953	21,424	23,474
農家所得	785,424	808,987	432,311	262,624
被贈等収入	23,541	24,247	7,356	—
租税公課諸負担	9,751	10,044	2,305	6,578
可処分所得	899,214	823,190	337,362	256,046
家計費	328,913	338,781	273,751	169,097
農家経済余剰	570,301	484,409	163,611	(内訳) 86,949+7,858 =94,807

（昭和42～44年度邦貨換算率　1,000=1,030円）

1　農業粗収入及び農業経営費は厳密な意味では正しくない。即ち動植物の増減額、未処分農産物の在庫増減額、生産資材在庫額及び減価償却費を算出計上しなければならないが、財産台帳が不整備のため計上し得ずに農業粗収入、及び農業経営費を算出せざるを得なかった。昭和43年・42年度分についても同様である。

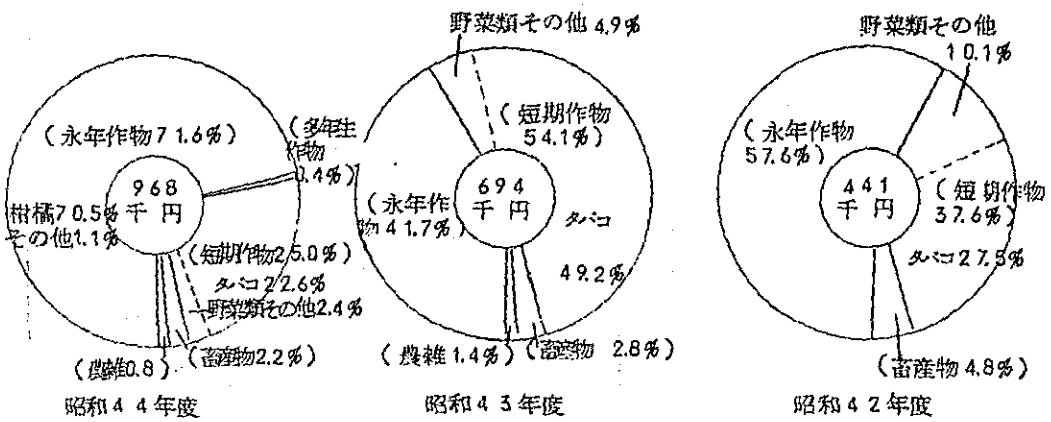
2　昭和42年度農家経済余剰については、年度始財産と年度末財産の増加額を評価算出し、もって修正を加えたものである。

(1) 農業（粗）収入

農業粗収入939,972ペソ（約968千円）のうち883,011ペソ（約910千円）が販売（現金化）されており商品化率は96.7%と極めて高い。因に43年、42年度は90.0%(動植物増殖分を除く）、62.1%である。

農業現金収入のうち柑橘が120,196ペソ（約124千円）と63%を占めている。

（農業粗収入の各作物別収入比率）



1　昭和43年度については農業粗収入673,808ペソに植物（植林・柑橘類）の年度内増殖分を評価（570,500ペソ）加算しているが評価基準が一率でないため，正確を期し難く、又、昭和42年度、44年度分との比較上、これを除外した。

2　本調査の日記帳から算出される農業粗収入は44年度246,472ペソ。43年度462,808ペソ。42年度227,892ペソであるが簡易調査と照合するに柑橘類等の販売収入が記帳漏れになっていると推定されることからこれに修正を加えた。（昭和44年分－－－－ 総括表1の通り）なお動植物の増減額及び未処分農産物在庫増加額は不明のため加算しなかった。

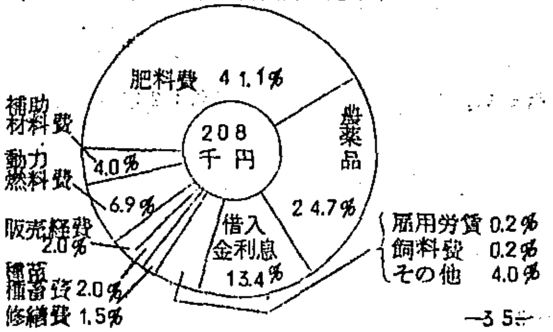
(2) 農業経営費

項目	昭和44年度		43年度	42年度
	現地貨(ペソ)	邦貨(円)	邦貨(円)	邦貨(円)
雇用労賃	500	515	206	8.277
種苗種子費	3.980	4.099	12.314	10.707
肥料費	83.000	85.490	161.195	4.017
農薬費	49.960	51.459	99.876	9.987
飼料費	395	407	2.348	(5.169)
補助材料費	8.070	8.312	8.684	23.039
修繕費	2.988	3.077	21.852	7.911
機械器具借料	0	0	0	1.622
動力燃料費	13.882	14.298	24.880	28.896
販売経費	4.098	4.221	—	317
借入金利息	27.112	27.926	50.853	77.097
減価償却費	(131.580)	(135.527)	(111.388)	(—)
その他	8.090	8.333	927	29.709
計	202.075	208.137	383.135	201.579

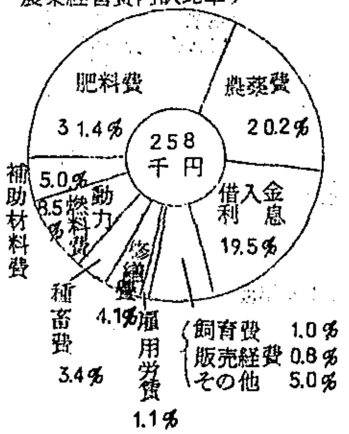
1. 減価償却費については、財産台帳より算出計上したがその評価基準が一率になく正確を期し難い為参考にとどめた、但し償却費は、27HPトラクターを始めエンジン、ミストダスタ、チエンソー等かなりの大農機具を所有していることから多額となることが推定される。
2. 昭和42年度の経営費中、飼料費は全て自給分である。

経営型態(柑橘主体)にもよるが、経営費がかなり少ない。農業所得率(78.5%)。自家労働力に比較的恵まれているが、雇用労賃をかなり抑えていること等、節約による合理的な経営を行っていることがうかがえる。

(昭和44年度農業経営費内訳比率)



(昭和44.43.42年度平均農業経営費内訳比率)



(3) 農外関係

農外収入は本特定農家経済調査日記記帳謝金、ナラシハ（柑橘）部会役員手当等である。

(4) 家計費

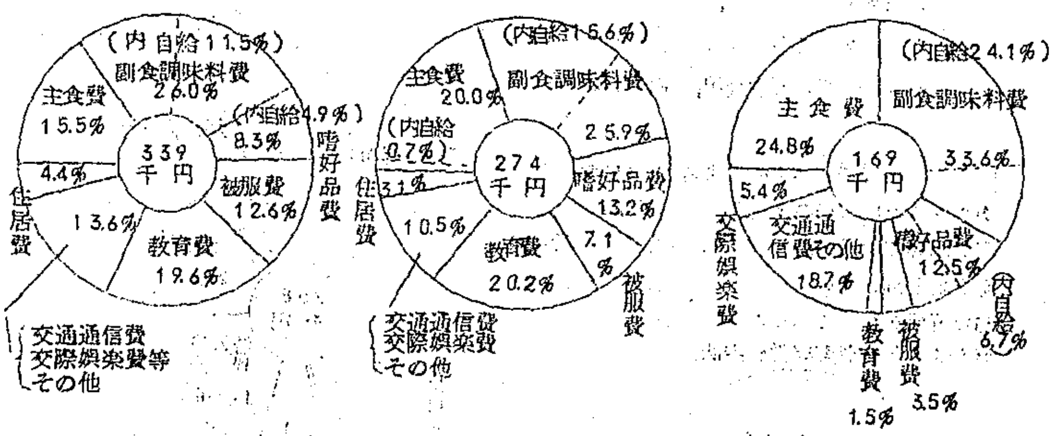
家計費328913.2ペソ（339千円）中の飲食費割合は、49.8%（エンゲル系数）又、教育費は19.6%、被服費が12.6%となっている。

昭和43年度より長男が進学したため教育関係の出費が他の費目に比べて多くなっている。
（昭和42年度2465ペソ、43年度53,540ペソ、44年度64,562ペソ）

エンゲル系数	
昭和42年度	46.4%
〃 43年度	56.8%
〃 44年度	49.8%

教育費は教科書代、教材費等も含まれるが当地区内には高等学校、大学がないためほとんどが学校近傍のアパートもしくは寄宿舎等に入居することとなりこれの経費が大きい。

（家計費内訳比率）



昭和44年度　昭和43年度　昭和42年度

主食はマンジョかを除いて他は全て購入物に頼っており食糧自給の割合は54406.2ペソ÷163761.2ペソ×100＝33.2（％）である。

42年度（52.5％）43年度（39.7％）に比べてかなり低くなっているが、開拓もある程度進み、営農基盤の確立とともに収益性、労働生産性等経営効率を計る上で栽培作物を限定せざるを得ずこの為食糧自給率の低下は或る程度やむを得ないものであろう。

労働関係分析

(1) 作業者内訳

家　長	2795.5時間 ―――― 40.1％ （労働日数342日、8時間換算日数349.4日）	
妻	1.695時間 ―――― 24.4％ （労働日数315日、8時間換算日数211.9日）	
次　男	1.725時間 ―――― 24.8％ （労働日数333日、8時間換算日数215.6日）	
長　男	747.5時間 ―――― 10.7％	
計	6.963.5時間 ―――― 100.0％	

年間総投下労働量は6963.5時間であるが、これは農業関係以外の労働時間をも総て含めた時間であり、農業労働時間は次表の通り、5.602.5時間である。

稼働力の中心は長男が上級学校へ進学した為家長と次男である。

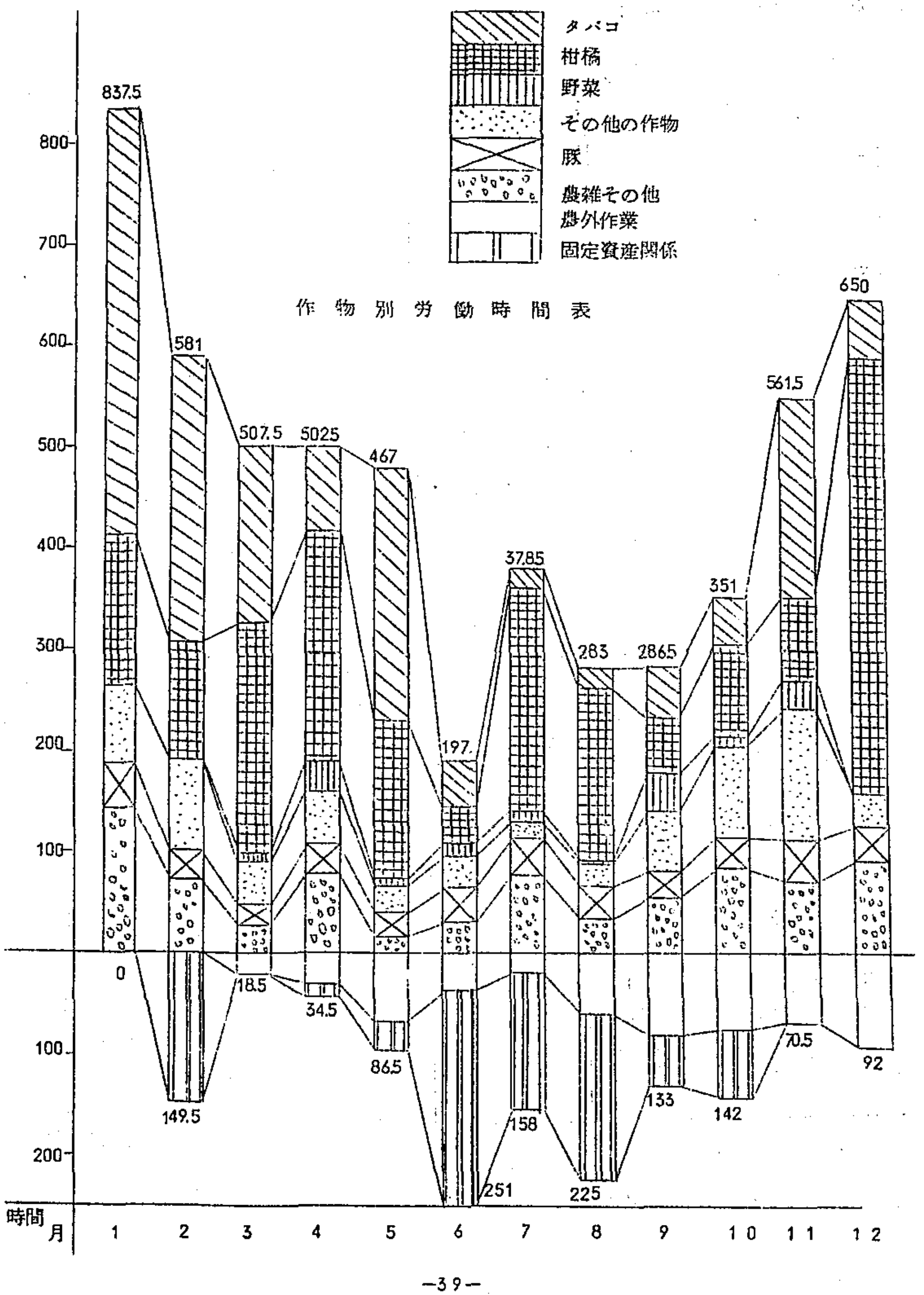
(2) 作物別作業時間

項目		労働時間	日数（8時間換算）	比率(%)
短期作物	タバコ	1,643.5	205.4	23.6
	野菜	153	19.1	2.2
柑橘		1,981.5	247.7	28.5
その他の作物		647	80.9	9.3
豚飼育		381	47.6	5.5
農雑作業		796.5	99.6	11.4
（小計）		5,602.5	700.3	80.5
共同作業出講習会等		266	33.3	3.8
固定資産造成		817	102.1	11.7
農外労働		278	34.7	4.0
計		6,963.5	870.4	100.0

"その他の作物"は、タバコ、野菜、柑橘以外のマジジョカ、ハブ茶等に対する労働時間である。

"農雑作業"は、農道清掃、倉庫整理、農機具整備業である。

"固定資産造成"の内訳は土地造成214.5時間、建物施設関係602.5時間である。


タバコ
柑橘
野菜
その他の作物
豚
農雑その他
農外作業
固定資産関係
作物別労働時間表
837.5
581
507.5
5025
467
197
37.85
283
2865
351
561.5
650
0
149.5
18.5
34.5
86.5
251
158
225
133
142
70.5
92
800
700
600
500
400
300
200
100
100
200
時間
月
1
2
3
4
5
6
7
8
9
1 0
1 1
1 2

Ⅲ 農家経済総括（単位：ペソ）

1. 農業収入

項目	品名	現金	現物労賃支払	自家生産物家計仕向	現物外部取引	計	修正金額（現金）	計
永年作物	柑橘	120.196		6.347	628	127.171	536.000	663.171
	その他			9836.2	120	9.956.2		9.956.2
多年生作物	マンジョカ	30		360		390		390
	ハブ茶	2.437				2.437		2.437
短期作物	タバコ	58.499				58.499	154.000	212.499
	野菜類			17.947.5	1.615	19.562.5		19.562.5
	豆芋類			2.443.5		2.443.5		2.443.5
	その他	454		305		759		759
畜産物	鶏卵	220		7.884	192	8.296	3.500	11.796
	豚鶏肉	6.880		1.250		8.130		8.130
	豚脂	795				795		795
農雑	みそ・しょう油			8.033		8.033		8.033
計		189.511		54.406.2	2.555	246.472.2	693.500	939.972.2

2. 農業経営費

項目	現金 金支出額	修正額 加算額 現物労賃支払（購入分） 農業経営費より	家計費より	小計	控除 固定資産関係	農業経営費より 現物労賃	現物外部取引	支払 小計	差引加算控除額	修正金額	現物（自給分） 全支出額	控除額 固定資産関係	修正金額	合計
雇用労賃	500									500				500
種苗種畜費	3.980									3.980				3.980
肥料費	83.000									83.000				83.000
農薬費	49.960									49.960				49.960
飼料費	395									395				395
補助材料費	8.070									8.070				8.070
修繕費	2.988									2.988				2.988
農機器具借料														
動力燃料費	13.915						33	33	△ 33	13.882				13.882
販売経費	4.098									4.098				4.098
借入金利息	27.112									27.112				27.112
減価償却費														
その他	8.090									8.090				8.090
計	202.108						33	33	△ 33	202.075				202.075

減価償却費は財産台帳が整備されていないので計上し得なかった

3. 家計費

項目		現金	自家生産物家計仕向	計
主食費	米	40.762		40.762
	小麦粉	9.350		9.350
	パン	415		415
	マンジョカ		360	360
	小計	50.527	360	50.887
副食調味料費	野菜類	6.239	20.391	26.630
	肉類	21.528	1.250	22.778
	調味料	12.686	8.033	20.719
	牛乳	4.960		4.960
	その他	2.229	8.189	10.418
	小計	47.642	37.863	85.505
嗜好品費	酒	545		545
	菓子・果物	8.022	16.183.2	24.205.2
	たばこ	4.772		4.772
	その他	3.329		3.329
	小計	16.668	16.183.2	32.851.2
被服費		41.448		41.448
教育費		64.562		64562
教養文化費		4.242		4.242
医療費		5.283		5.283
保健衛生費		3.986		3.986
交通々信費		7.810		7.810
交際娯楽費		5.852		5.852
水光熱費		735		735
住居費		14.604		14.604
その他		11.115		11.115
計		274.474	54.406.2	328.880.2
臨時家計費				
合計		274.474	54.406.2	328.880.2

家計費修正 項目		現金									現物	計
		全支出額	加算額(現物外部取引の購入分)			控除額(現金・家計費より支払)			差引加算控除額	修正金額	自家生産物家計仕向	
			農業経営費より支払	家計費より支払	小計	現物労賃	現物外部取引	小計				
飲食費	主食費	50.527								50.527	360	50.887
	副食調味料費	47.642								47.642	37.863	85.505
	嗜好品費(除たばこ)	11.896					710	710	△ 710	11.186	16.183.2	27.369.2
	小計	110.065					10	710	△ 710	109.355	54.406.2	163.761.2
たばこ		4.772								4.772		4.772
交際娯楽費		5.852	33	3.415	3.448				3.448	9.300		9.300
その他		153.785					2,705	2.705	△2.705	151.080		151.080
計		274.474	33	3.415	3.448		3,415	3.415	33	274.507	54.406.2	328.913.2

4. 農外収支

項目	現金	現物	修正額	計
収入	41.019	6.779.2		47.798.2
支出	271			271

5. 被贈扶助等の収入

項目	現金	現物	修正額	計
収入	12.355	11.186		23.541

6. 農業経営収支の修正

項目			金額
農業粗収入	収入		939,972.2
	修正額	動物の増減額	—
		植物の増減額	—
		未処分農産物在庫増加額	—
	計		939.972.2
農業経営費	支出		20 2,075
	修正額	農業生産資材在庫減少額	—
	計		202,075
農業所得			737,897

農業所得算出にあたっては、左表の如く農業粗収入、農業経営費の修正をしなければならないが、財産台帳不備のため修正し得なかった。

現 金 収 支 の 総 括

項目		収入	支出	収支差引額
経常的収入及び支出	農業収入及び支出	883.011	202.075	680.936
	農外収入及び支出	41.019	271	40.748
	被贈扶助等の収入	12.355		12.355
	租税公課諸負担		9.751	△ 9.751
	家計費		274.507	△274.507
	計	936.385	486.604	449.781
財産的収入及び支出	固定財産の購入・売却	—	43.929	△ 43.929
	土地 建物施設 農機具 動物 植物		43.929	△ 43.929
	準現金預入及び引出	934.109	177.446	756.663
	預貯金	934.109	177.446	756.663
	借入金の借入返済	73.907	581.217	△507.310
	借入金	73.907	581.217	△507.310
	その他	43.357	3.215	40.142
	貸付金	1.700	1.700	0
	売掛金	41.030	795	40.235
	買掛金		20	△ 20
	立替金	627	700	△ 73
	計	1.051.373	8.805.807	245.566

△ は負債の増加を示す。

<附表>

月別現金収支取引について

項目 ＼ 月別	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
収入・所得的収入・農業現金収入・永年作物	2.650		11.200	91.240	4.000		10.466		640				120.196
収入・所得的収入・農業現金収入・多年生作物	—				100			2.337	30				2.467
収入・所得的収入・農業現金収入・短期作物		22.500	7.500	7.500	2.795	7.500	8.000			2.704	20	434	58.953
収入・所得的収入・農業現金収入・畜産物		205		915				100			300	6.375	7.895
収入・所得的収入・農業現金収入・農雑	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
収入・所得的収入・農業現金収入・小計	2.650	22.705	18.700	99.655	6.895	7.500	18.466	2.437	670	2.704	320	6.809	189.511
収入・所得的収入・農外現金	1.500	18.620	3.120		8.731	5.855	1.400	700			393	700	41.019
収入・所得的収入・被贈扶助等現金					12.355								12.355
収入・所得的収入・計	4.150	41.325	21.820	99.655	27.981	13.355	19.866	3.137	670	2.704	713	7.509	242.885
収入・財産的収入・固定資産売却	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
収入・財産的収入・預貯金引出	8.310	21.842	48.133	26.500	607.649	30.270	13.262	77.060	16.123	29.970	39.970	15.020	934.109
収入・財産的収入・借入金借入			507	1.600			2.000				69.800		73.907
収入・財産的収入・貸付・売掛・立替金		627				1.700					41.030		43.357
収入・合計	12.460	63.794	70.460	127.755	635.630	45.325	35.128	80.197	16.793	32.674	151.513	22.529	1.294.258
支出・所得的支出・農業現金支出	1,980	19.873	36.380	23.020	5,275	25.005			630	2.015	84.990	2.940	202.108
支出・所得的支出・農外 〃												271	271
支出・所得的支出・租税公課諸負担		3.541					1.110	2.700		2.400			9.751
支出・所得的支出・計	1,980	23.414	36.380	23.020	5.275	25.005	1.110	2.700	630	4.415	84.990	3.211	212.130
支出・財産的支出・固定資産購入		500		13.013				15.300	3.090	4.688	7.338		43.929
支出・財産的支出・預貯金預入		22.500	7.500	58.740	12.530	11.700	9.400	26.537	2.102	22.534	3.201	700	177.446
支出・財産的支出・借入金返済			510	1.600	577.107			2.000					581.217
支出・財産的支出・貸付・売掛・買掛・立替金		720		795		1.700							3.215
支出・財産的支出・計		23.720	8.010	74.148	589.639	13.400	9.400	43.837	5.192	27.222	10.539	700	805.807
支出・家計支出	16.366	20.518	17.751	39.724	27.385	30.699	24.593	20.744	21.345	10.418	16.169	28.762	274.474
支出・合計	18.346	67.652	62,141	136.892	622.299	69.104	35.103	67.281	27.167	42.055	111.698	32.673	1.292.411

ガルアッペ移住地

C　氏

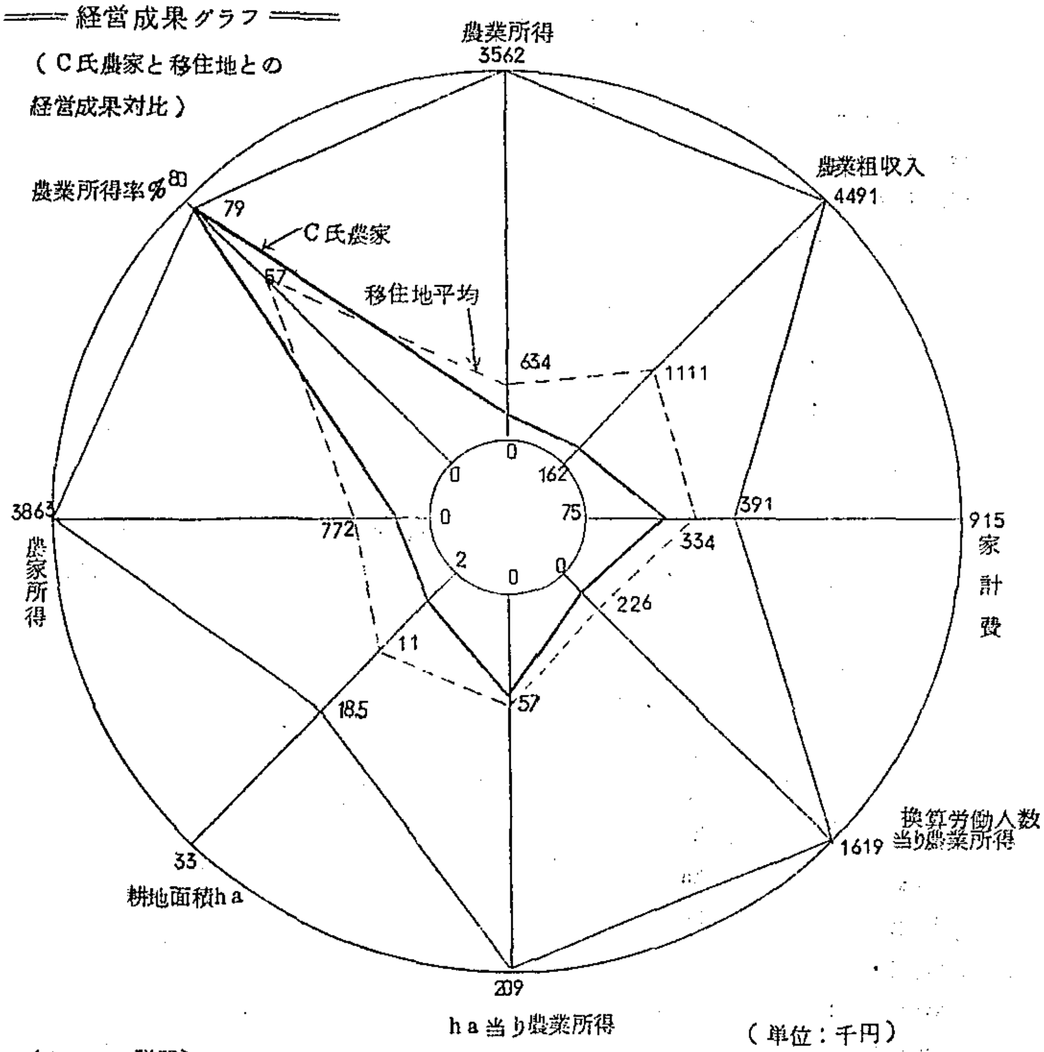
調査対象期間

昭和43年11月1日～昭和44年10月31日

概観：移住地におけるC氏農家の位置

―― 経営成果グラフ ――

（C氏農家と移住地との経営成果対比）



（単位：千円）

＜グラフの説明＞

1）本グラフはガルアッペ移住地に於ける農業粗収入、農業所得等各項目ごとの規模を表わしたものである。外円は当移住地農家の各項目別の最高値を、内円は同様に各項目別の最低値を、また－－－－－線は移住地平均値を示したものである。但し最高、最低値の表示について、農外部門が極端に大きなウエイトを占める農家は除外し、かつ経営収支がマイナスを示す農家は最低値を０と表示した。

2）――― は当移住地に於いて農業粗収入、農家所得の最も高い農家であり

この農家の農業収入の最も大きいものは永年作物（みかん）である。このみかんは３７００本を植付ており、３２４０千ペソの粗収入をあげている。この他に松８５００本の植林を行って

いるが未だ樹令が若く収入をあげるに至っていない。

家族員数6人、換算労働員数2.2人、（昭和44年度移住地農家経済簡易調査より）

3) C氏農家（太い――― 線）は当移住地のB農家に遅れをとっているし、また移住地の平均農家水準にも一歩遅れをとっている。

この原因は種々あろうがタバコという現金化の容易な作物に依存し拡大再生産が考慮されなかったことに因るものと思われる。

I 経営の概況

入植年月 ： 昭和38年5月

入植後経過年数 ： 7年6月

(1) 家族構成

家長60才、妻、長男19才、次男17才、長女10才、4男の7人家族であるが1968年8月長男が就職のためブエノスアイレスに転出しているので6名である。（換算労働人数3.0人）

(2) 土地所有並びに利用状況

畑	4.0ha（タバコ2 豆類）
樹園地	1.0ha（柑橘）
宅地	0.5ha
廃耕地	4.5ha
未開墾地	19.7ha
所有地計	29.7ha

(3) 建物施設・農機具等

建物施設 ： 住宅1棟（33㎡）、タバコ乾燥室1棟（330㎡）、作業場1棟

農機具：チェンソー　家畜：鶏30羽

（財産台帳が不備のため参考までに昭和44年度農家経済簡易調査より引用した）

入植経過年数7年半だが耕地化は約2割に過ぎず（廃耕地を除く）未耕地（未伐開地及び廃耕地）は約8割と依然として営農拡大が見られない。また耕地のうち、いわゆる永年作物は1haに過ぎず先行きの安定的収入源に乏しい。

従って家族労働の充実（長男を呼び戻す等）により経営の立直しを計る必要があろう。

なお、少なくとも当面廃耕地を含めた既耕地の効率的利用を目指すべきではなかろうか。

Ⅲ 経営分析

（農業経営成果）

項目	昭和44年度		43年度	42年度
	現地貨（ペソ）	邦貨（円）	邦貨（円）	邦貨（円）
農業粗収入	345.952	356.331	323.967	386.863
農業経営費	79.489	81.873	77.505	97.670
農業所得	266.463	274.458	246.462	289.193
農外収入	40.380	41.591	94.750	24.025
農外支出	5.400	5.562	589	—
農外所得	34.980	36.029	94.161	24.025
農家所得	301.443	310.487	340.487	313.218
被贈等収入	—	—	1.504	—
租税公課諸負担	—	—	2.730	1.766
可処分所得	301.443	310.487	339.392	311.452
家計費	268.810	276.874	259.784	275.186
農家経済余剰	32.633	33.613	79.613	36.266

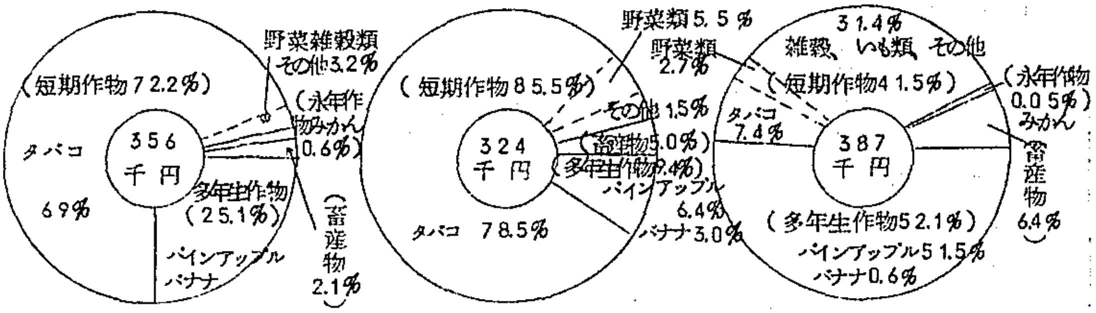
（昭和42～44年度邦貨換算率　1.000=1.030円）

昭和43年、42年度分の農業経営費は厳密な意味では正しくない。即ち動植物の増減額未処分農産物在庫増減額、生産資材在庫増減額及び減価償却費を算出計上しなければならないが、財産台帳が不整備のため計上し得ずに農業粗収入及び農業経営費を算出せざるを得なかった。但し44年度分農業粗収入ついては動植物の増減額未処分農産物在庫増減額を算出計上している。

(1) 農業（粗）収入

1年間の日記帳取引による農業粗収入は、339.352ペソ（350千円）であるがその年の明らかな資産評価増等を加えて345.952ペソ（356千円）となる。この内農業現金収入は311.502ペソ（321千円）で商品化率は90％とかなり高い、主作物はタバコとパインアップルであり両者で粗収入（資産増加分を除）の90％を占めている。畜産物（たまご、鶏肉）豆類、いも類、野菜類は全て自給用となっている。

（農業粗収入の各作物別収入比率）



昭和44年度　　　昭和43年度　　　昭和42年度

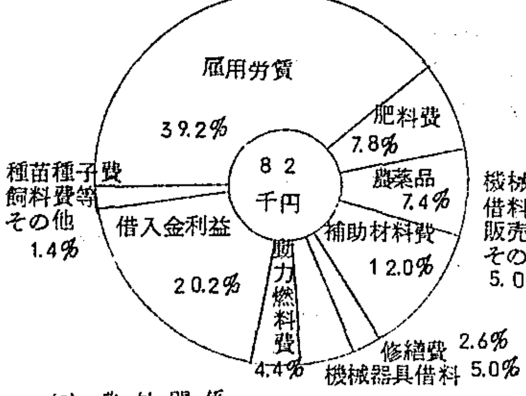
〔本農業収入内訳比率は1年間の日記帳による現金収入（販売）、現物労賃支払、自家生産物家計仕向、現物外物取引をもって算出したものである。〕

(2) 農業経営費

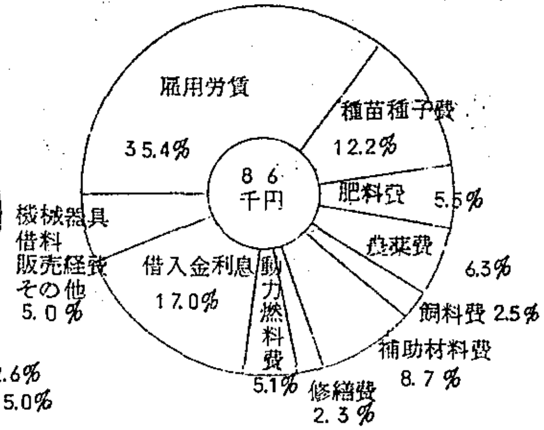
項目	昭和44年度		43年度	42年度
	現地貨	邦貨	邦貨	邦貨
雇用労賃	31.130	32.064	16.715	42.098
種苗種子費	396	408	17.798	13.154
肥料費	6.200	6.386	597	7.253
農薬費	5.846	6.021	10.058	—
飼料費	265	273	—	6.079
補助材料費	9.519	9.805	9.610	3.028
修繕費	2.110	2.173	278	3.450
機械器具借料	3.940	4.058	—	—
動力燃料費	3.500	3.605	175	9.320
販売経費	—	—	1.134	1.288
借入金利息	16.083	16.565	17.998	9.064
減価償却費	（33.601）	（34.609）	（24.775）	（23.988）
その他	500	515	3.142	2.936
計	79.489	81.873	77.505	97.670

（注） 減価償却費については、財産台帳より算出計上したが、その評価基準が一率になく正確を期し難い為参考にとどめた。

昭和44年度農業経営費内訳



昭和44.43.42年度平均農業経営費内訳



(3) 農外関係

兼業はしていないが本調査日記記帳謝金及び長男の送金が主なものである。

(4) 家計費

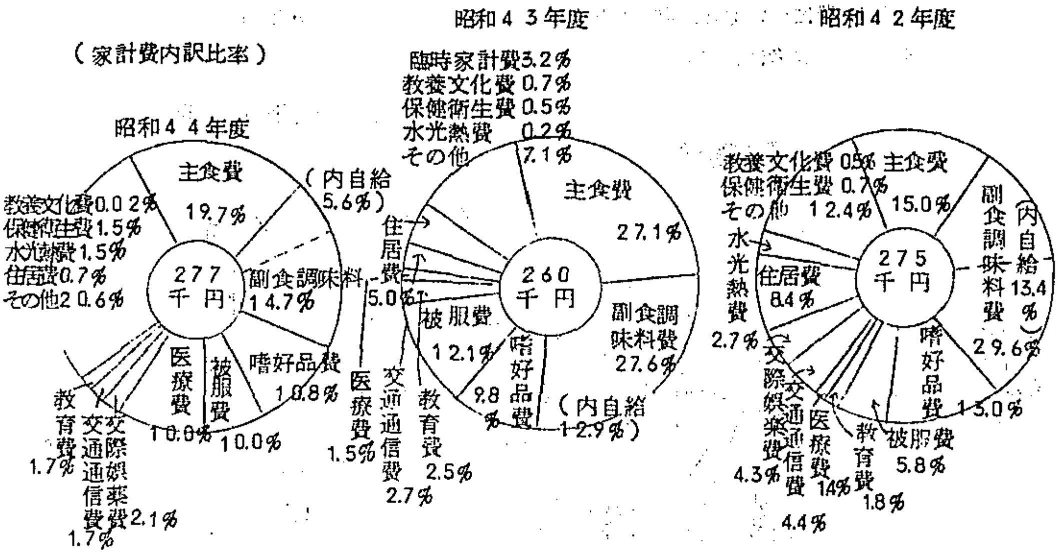
家計費総額268.810ペソ（277千円）の内飲食費は130.745ペソ（135千円）でエンゲル系数は46.8%である。

飲食費の内、自家生産物家計仕向分は27.850ペソ（29千円）で食糧自給率は21.3%と低率である。鶏卵・肉及び野菜類等の自給を高める必要がある。

なお家計費中「その他」が55.666ペソとかなり多額になっているが、これは当農家の日記々帳に品目の不明なものがあり項目分類が出来ぬ為これを"その他"に一括計上した為である。

エンゲル系数	
昭和42年度	44.4%
43年度	63.1%
44年度	46.8%

（家計費内訳比率）



労働関係分析

(1) 作業者内訳

家　長　　3.1 0 2時間 ―――――― 3 2.8％

（労働日数３４３日　８時間労働換算３８７.８日）

妻　　2.5 1 1.5時間 ―――――― 2 6.5％

（労働日数３１９日　８時間労働換算３１３.９日）

二　男　　2.5 3 7時間 ―――――― 2 6.8％

（労働日数２０９日　８時間労働換算３１７.１日）

三　男　　8 9 2時間 ―――――― 9.4％

人　夫　　4 0 5.5時間 ―――――― 4.3％

その他　　2 2.5時間 ―――――― 0.2％

計　　9.4 7 0.5時間 ―――― 1 0 0.0％

“その他”は共同作業手伝い受（１４時間）、長男（８.５時間）、が含まれる。

年間総投下労働量は９４７０.５時間であるがこれは農業関係以外の労働時間をも総て含めた時間であり農業労働時間は次表の通り８６１３時間である。

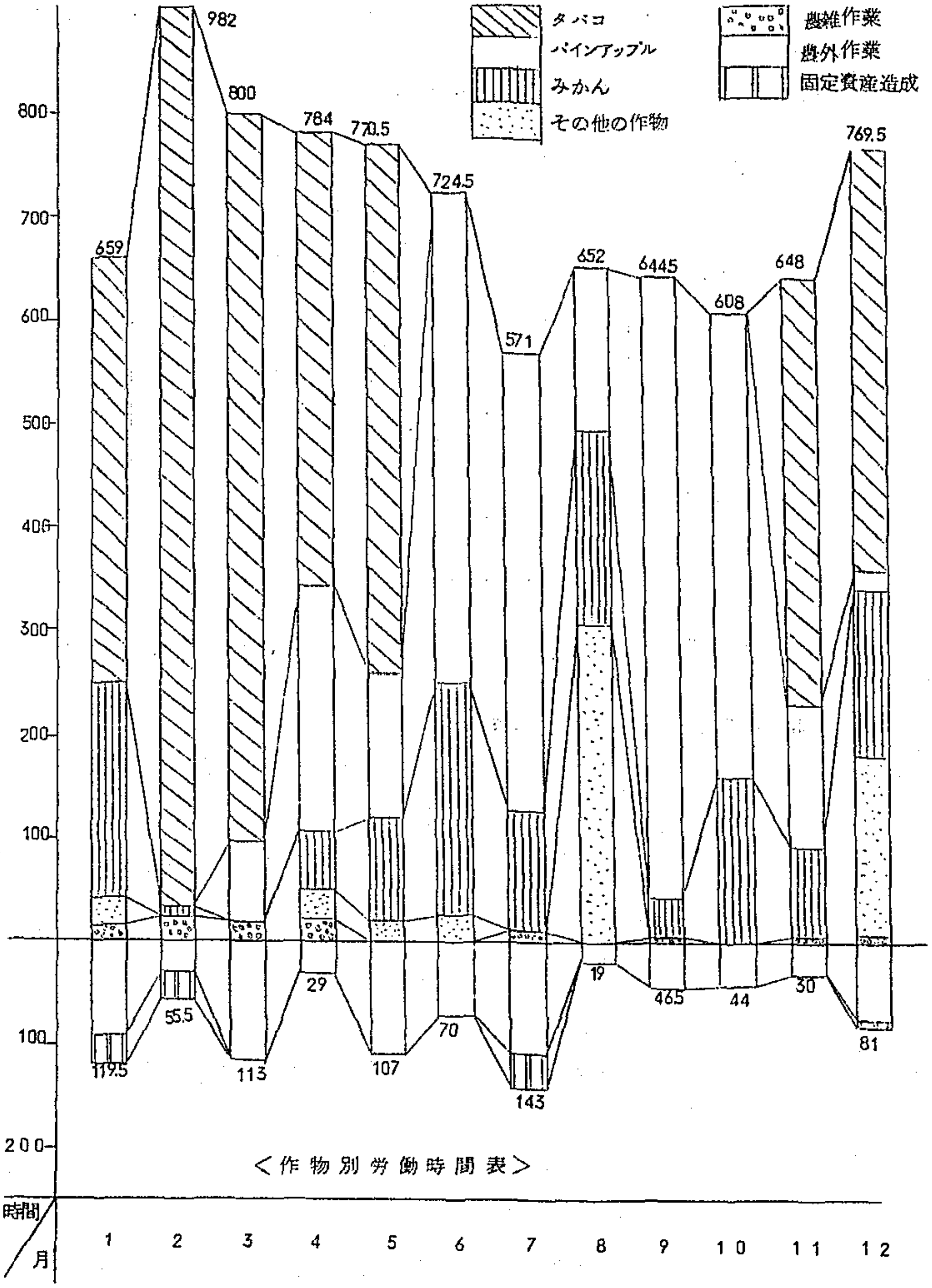
稼働力の中心は長男がブエノスアイレスに転出，就職している為家長及び次男である。

(2) 作物別作業時間

項目	労働時間	日数（８時間換算）	比率（%）
タバコ	3.843.5	480.4	40.6
パインアップル	2.731	341.4	28.8
みかん	1.358	169.8	14.3
その他の作物	579	72.4	6.1
農雑作業	101.5	12.7	1.1
（小計）	8.613	1.076.7	90.9
農外労働	139	17.4	1.5
共同作業出席会等	622	77.8	6.6
固定資産造成	96.5	12.1	1.0
計	9.470.5	1.184.0	100.0

“その他の作物”はバナナ，大豆，スイカ，メロン，マンジョカ，馬鈴薯等に対する作業時間である。

“農雑作物”は、農機具の手入れ、農道関係作業である。


タバコ
パインアップル
みかん
その他の作物
農雑作業
農外作業
固定資産造成
800
700
600
500
400
300
200
100
100
200
時間
月
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
659
982
800
784
770.5
724.5
571
652
644.5
608
648
769.5
119.5
55.5
113
29
107
70
143
19
46.5
44
30
81

＜作物別労働時間表＞

Ⅲ 農家経済総括表（単位：ペソ）

1. 農業収入

項目	品名	現金	現物労賃支払	自家生産物家計仕向	現物外部取引		計
永年作物	柑橘類	2.000	—	—	—		2.000
多年生作物	パイナップル	68.375	—	9.920	—		85.325
	バナナ	7.030	—		—		
短期作物	煙草	234.097	—	—	—		234.097
	豆類	—	—	3.665	—		3.665
	いも類（マンジョカ含む）	—	—	3.629	—		3.629
	野菜類	—	—	2.765	—		2.765
畜産物	鶏（鶏肉）	—	—	1.500	—		1.500
	鶏卵	—	—	5.756	—		5.756
農雑	みそ・醤油その他	—	—	615	—		615
計		311.502	—	27.850	—		339.352

2. 農業経営費

項目	現金：全支出額	現金：修正：加算額：現物労賃支払（購入分）：農業経営費より	現金：修正：加算額：現物労賃支払（購入分）：家計費より	現金：修正：加算額：現物労賃支払（購入分）：小計	現金：修正：控除額：固定資産関係	現金：修正：控除額：農業経営費より：現物労賃	現金：修正：控除額：農業経営費より：現物外部取引	現金：修正：控除額：支払：小計	現金：差引加算控除額	現金：修正金額	現物（自給分）：全支出額	現物（自給分）：控除額：固定資産関係	現物（自給分）：修正金額	合計
雇用労賃	31.130									31.130				31.130
種苗種子費	396									396				396
肥料費	6.200									6.200				6.200
農薬費	5.846									5.846				5.846
飼料費	265									265				265
補助材料費	9.519									9.519				9.514
修繕費	2.110									2.110				2.110
機械器具借料	3.940									3.940				3.940
動力燃料費	3.500									3.500				3.500
販売経費	—									—				—
借入金利息	16.083									16.083				16.083
減価償却費	—									—			(58.451)	(58.451)
その他	500									500				500
計	79.484	—	—	—	—	—	—	—	—	79.489	—	—	(58.451)	79.489

減価償却費は現金として支出されないので現物の方へ計上（但し参考にとどめた）

3 家計費

項目		現金	自家生産物家計仕向	計
主食費	米	38,520	—	38,520
	小麦粉パン類	9,736	2,789	12,525
	メン類	1,790	—	1,790
	小計	50,046	2,789	52,835
副食調味料費	野菜類	2,930	2,765	5,695
	肉類	13,083	7,256	20,339
	調味料	14,740	615	15,355
	乳製品	1,310	—	1,310
	その他	5,660	4,505	10,165
	小計	37,723	15,141	52,864
嗜好品費	タバコ	4,075		4,075
	飲物類	7,510		7,510
	果物類	66	9,920	9,986
	菓子類	6,656		6,656
	その他	894		894
	小計	19,201	9,920	29,121
被服費		26,831		26,831
教育費		4,265		4,265
教養文化費		70		70
医療費		26,825		26,825
保健衛生費		4,071		4,071
交通々信費		4,600		4,600
交際娯楽費		5,681		5,681
水光熱費		3,953		3,953
住居費		2,028		2,028
その他		55,666		55,666
計		240,960	27,850	268,810
臨時家計費		—	—	—
合計		240,960	27,850	268,810

家計費修正

項目		現金 全支出額	加算額(現物外部取引の購入分) 農業経営費より支払	加算額 家計費より支払	加算額 小計	控除額(現金家計費より支払) 現物労賃	控除額 現物外部取引	控除額 小計	差引加算控除額	修正金額	現物 自家生産物家計仕向	計
飲食費	主食費	50,046								50,046	2,789	52,835
	副食調味料費	37,723								37,723	15,141	52,864
	嗜好品費(除たばこ)	15,126								15,126	9,920	25,046
	小計	102,895								102,895	27,850	130,745
たばこ		4,075								4,075		4,075
交際娯楽費		5,681								5,681		5,681
その他		128,309								128,309		128,309
計		240,960								240,960	27,850	268,810

4 農外収支

項目	現金	現物	修正額	計
収入	40,380			40,380
支出	5,400			5,400

5 被贈扶助等の収入

項目	現金	現物	修正額	計
収入				—

6 農業経営収支の修正

項目			金額
農業粗収入		収入(1表より)	339,352
	修正額	動物の増減額	△ 600
		植物の増減額	9,200
		未処分農産物在庫増加額	△ 2,000
	計		345,952
農業経営費		支出(2表より)	79,489
	修正額	農業生産資材在庫減少額	—
	計		79,489
	農業所得		256,463

7　現金収支の総括

項目		収入	支出	収支差引額
経常的収入及び支出	農業収入及び支出	311,502	79,489	232,013
	農外収入及び支出	40,380	5,400	34,980
	被贈扶助等の収入	—	—	—
	租税公課諸負担	—	—	—
	家計費	—	240,960	△240,960
	計	351,882	325,849	26,033
財産的収入及び支出	固定資産購入及び売却	—	37,820	△ 37,820
	土地	—	—	—
	建物施設	—	—	—
	農機具	—	22,820	△ 22,820
	動物	—	—	—
	植物	—	15,000	△ 15,000
	準現金預入及び引出等	113,500	30,000	83,500
	預貯金	113,500	30,000	83,500
	借入金の借入及び返済	22,290	2,000	20,290
	借入金	22,290	2,000	20,290
	その他	71,235	61,679	9,556
	買掛金	71,235	58,471	12,764
	売掛金	—	3,208	△ 3,208
	計	207,025	131,499	75,526

<付表>　月別現金収支取引について

項目			月別	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
収入	所得的収入	農業現金収入	永年作物	—	—	—	—	—	—	—	2.000	—	—	—	—	2.000
			多年生作物	—	—	3.040	2.400	4.740	—	3.700	—	1.900	22.980	31.745	4.900	75.405
			短期作物	—	—	28.718	—	96.284	—	109.095	—	—	—	—	—	234.097
			小計	—	—	31.758	2.400	101.024	—	112.795	2.000	1.900	22.980	31.745	4.900	311.502
		農外現金		5.000	8.200	17.960	—	5.820	1.600	—	1.800	—	—	—	—	40.380
		計		5.000	8.200	49.718	2.400	106.844	1.600	112.795	3.800	1.900	22.980	31.745	4.900	351.882
	財産的収入	預貯金引出		30.000	30.000	—	—	—	10.000	—	35.000	—	—	8.500	—	113.500
		借入金借入		—	—	4.000	—	—	3.290	—	—	—	15.000	—	—	22.290
		買掛未払		42.435	20.585	4.265	3.950	—	—	—	—	—	—	—	—	71.235
	合計			77.435	58.785	57.983	6.350	106.844	14.890	112.795	38.800	1.900	37.980	40.245	4.900	558.907
支出	所得的支出	農業現金支出		9.715	31.970	13.748	5.140	11.440		880	130	1.975	1.930	2.561	—	79.489
		農外〃		5.000	—	400	—	—		—	—	—	—	—	—	5.400
		計		14.715	31.970	14.148	5.140	11.440	—	880	130	1.975	1.930	2.561	—	84.889
	財産的支出	固定資産購入		—	22.820	9.000	—	—	—	—	6.000	—	—	—	—	37.820
		預貯金預入		30.000	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	30.000
		借入金返済		—	—	—	—	2.000	—	—	—	—	—	—	—	2.000
		その他		11.255	—	29.154	—	480	6.498	528	—	416	2.522	10.666	160	61.679
		計		41.255	22.820	38.154	—	2.480	6.498	528	6.000	416	2.522	10.666	160	131.499
	家計支出			23.203	14.457	41.478	3.067	25.105	25.144	30.269	21.071	26.056	9.627	17.728	3.755	240.960
	合計			79.173	69.247	93.780	8.207	39025	31.642	31.677	27.201	28.442	14.079	30.955	3.915	457.348

サ ン フ ァ ン 移 住 地

D 氏

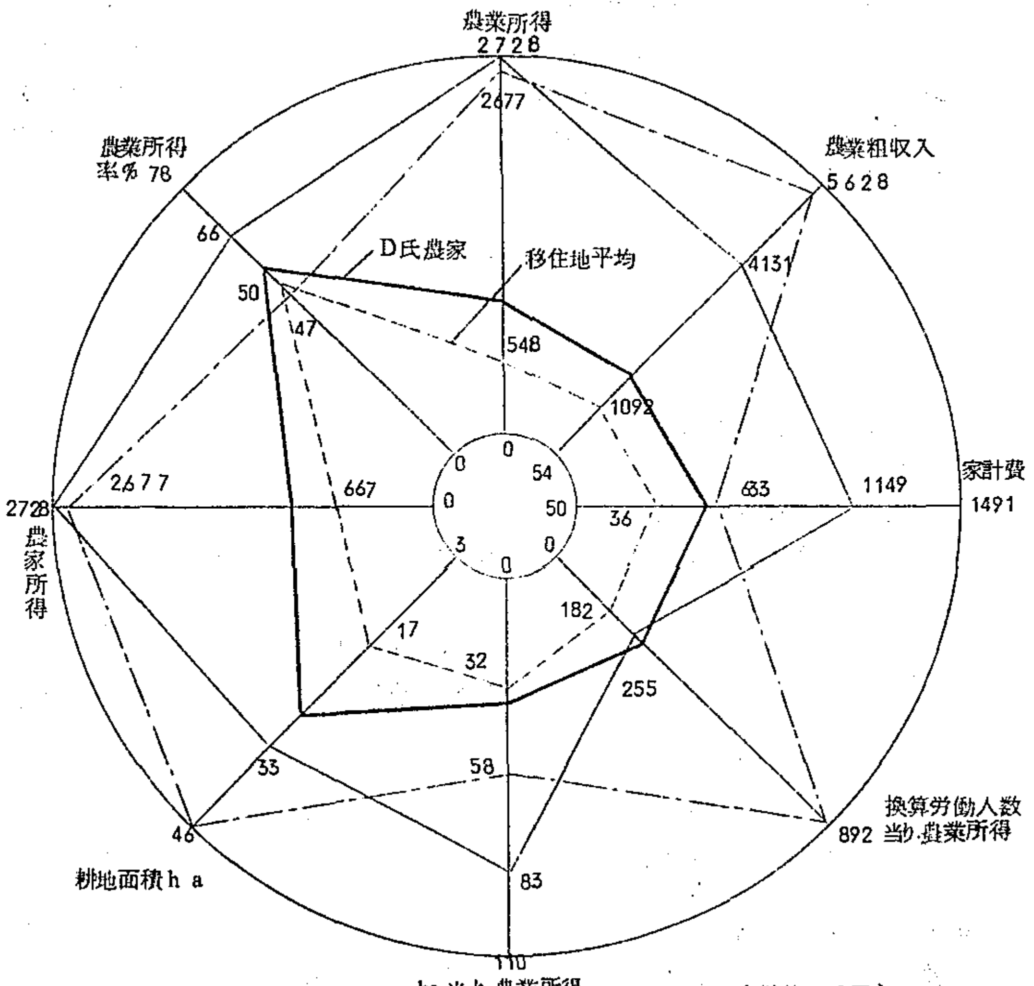
調査対象期間

昭和43年11月1日～昭和44年10月31日

概観：移住地に於けるD氏農家の位置

―― 経営成果グラフ ――

（D氏農家と移住地との経営成果対比）



（単位：千円）

〔グラフの説明〕

1） 本グラフは、サンファン移住地に於ける農業粗収入、農業所得等各項目ごとの規模を表したものである。外円は　移住地農家の各項目別の最高値を、内円は同様に各項目別の最低値を、また………線は移住地平均値を示したものである。但し、最高、最低値の表示について農外部門が極端に大きなウェイトを占める農家は除外し、かつ経営収支がマイナスを示す農

家は最低値を0と表示した。

2) ——— 線は当移住地に於ける農業所得、農家近得の最も高い農家であり、この農家の農業収入の主なものは陸稲みかん及び畜産（肉牛）である。これらの作付面積（飼育頭数）、粗収入は、陸稲：（31ha、500千円）みかん（1ha200本990千円）肉牛（5頭135千円）である。換算労働員数10.7人。又—·—·—は農業粗収入の最も高い農家でありこの農家は陸稲及び養鶏を営農の中心としている。陸稲は46ha作付で3,950千円の粗収入を、又養鶏部門で1,212千円の粗収入をあげている。但し、農業所得率は47%と移住地平均を下回っており、かなり低い。換算労働員数3.0人（昭和44年度移住地農家経済簡易調査より）

3) D氏農家（太い—— 線）は当移住地の平均ないし平均をやや下回る農家と云えよう

I 経営の概況

入植年月 ：昭和36年9月

入植経過年数：8年1月

(1) 家族構成

家長48才、妻、長男、二男、長女の5人家族

（換算労働人数3.3人 換算消費人数4.6人）

(2) 土地所有並びに利用状況

畑 ：	20.0ha	みかん20本、バナナ30本を植付けているが、大半が畑である。なお、畑のうち約10.0 haが機械造成畑である。
樹口地：		
採草地：	6.0ha	
宅 地：	1.0ha	
廃耕地：	3.0ha	
未開墾地：	120.0ha	
所有地計：	150.0ha	

(3) 建物設備・農機具等

建物施設 住宅2棟（延90m²）鶏舎1棟（72m²）畜すう舎1棟（34m²）収納舎2棟（155m²）

農機具 エンジン、脱穀機、噴霧機、脱粒機、粉砕機、トラクター、精米機、馬車各1台

家 畜 馬1頭、鶏300羽

［財産台帳が不備のため参考までに昭和44年度農家経済簡易調査より引用した］

ここ数年米作、養鶏と云う手慣れた作目を行っているが、積極的な多角化（肉牛、永年作物）

と経営規模拡充についての意図が乏しいようである。

今後の課題としては、移住地の基幹作目である畜産（肉牛）について再投資を進めるべきであろう。

なお、卵価不安定の養鶏については今後不断にコスト面の把握と合理化を計り部門別収支を健全化していく必要があろう。

Ⅱ 経営分析

（農業経営成果）

	昭和44年度		43年度	42年度
	現地貨	邦貨（円）	邦貨（円）	邦貨（円）
農業粗収入	56,663.6	1,699,908	1,711,362	1,555,219
農業経営費	25,662.5	769,875	929,199	842,259
農業所得	31,001.1	930,033	782,163	712,960
農外収入	1,108	33,240	83,805	72,699
農外支出	540	16,200	72,480	0
農外所得	568	17,040	11,325	72,699
農家所得	31,569.1	947,073	793,488	785,659
被増等収入	—	—	—	—
租税公課諸負担	406	12,180	14,595	9,696
可処分所得	31,163.1	934,893	778,893	775,963
家計費	18,452.9	553,587	583,850	551,561
農家経済余剰	12,710.2	381,306	195,043	224,402

（昭和42～44年度邦貨換算率　1＄b＝30円）

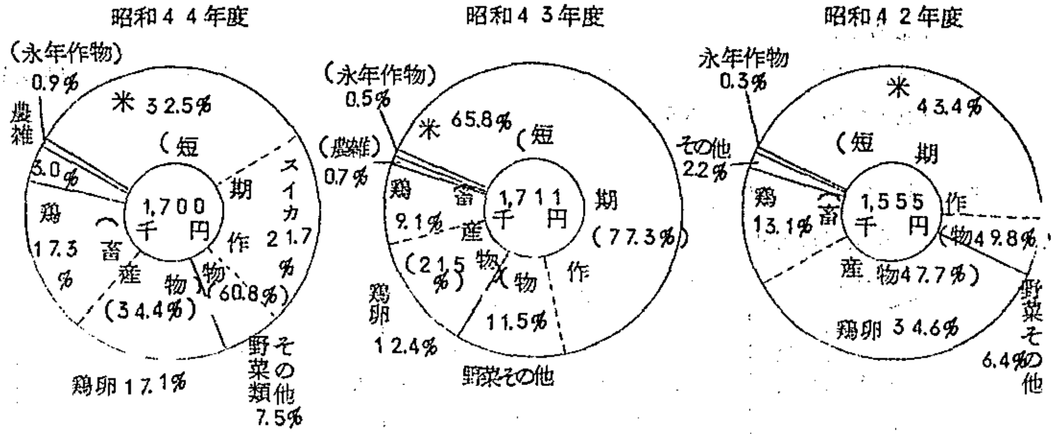
農業粗収入及び農業経営費は厳密な意味で正しくない即ち、動植物増減額、未処分農産物在庫額、生産資材在庫増減額及び減価償却費を算出計上しなければならないが、財産台帳が不整備のため、計上し得ずに農業粗収入及び農業経営費を算出せざるを得なかった。昭和43年、42年度についても同様である。（なお、本表農業経営費には借入金を含まず）

(1) 農業（粗）収入

昭和44年度農業粗収入は、ほぼ前年度並と伸びていないが、短期作物収入が2割強（21.9％）の減収に対して畜産物が6割弱（59.0％）と増収している。なお短期作物中特に米の収入が5割強（51.0％）と大巾に減収となっている。

近年米価も不安定（低落気味）となっていることから、今後は米作主体経営から、多角的経営で安定した収入を得て、経営を拡大することが肝要と思われる。

（農業粗収入の各作物別収入比率）



(2) 農業経営費

	昭和44年度		43年度	42年度
	現地貨（$b）	邦貨（円）	邦貨（円）	邦貨（円）
雇用労賃	10,906.2	327,186	266,124	395,340
種苗種畜費	1,752.5	52,575	62,400	44,760
肥料費	1,855	55,650	26,460	23,250
農薬費	1,901	57,030	19,410	5,280
飼料費	3,158	94,740	93,696	130,746
補助材料費	1,251.5	37,545	33,315	11,471
修繕費	1,548.5	46,455	6,510	12,900
機械器具借料	383.5	11,505	250,920	135,402
動力燃料費	1,404.3	42,129	19,992	9,048
販売経費	1,417	42,510	78,012	73,177
借入金利息	（134）	（4020）	（759）	（—）
減価償却費	（—）	（—）	（—）	（—）
その他	85	2,550	72,360	885
計	25,662.5	769,875	929,199	842,259

借入金利息については、対過年度と比較上参考にとどめた。

昭和42.43年度は、機械器具借料が大きなウェイトを占めていたが、この借料は農協機械利用部のトラクター等、耕地の熟畑化を計るための農機具借料である。

今年度に至って、これが一応一段落したものと思われ大巾に減少している。

雇用労賃は、ここ3年平均をしても38.5%と大きく、人夫依存度はかなり高い。なお、この人夫は主に米作、マイス等の除草、収獲、脱穀等にむけられている。

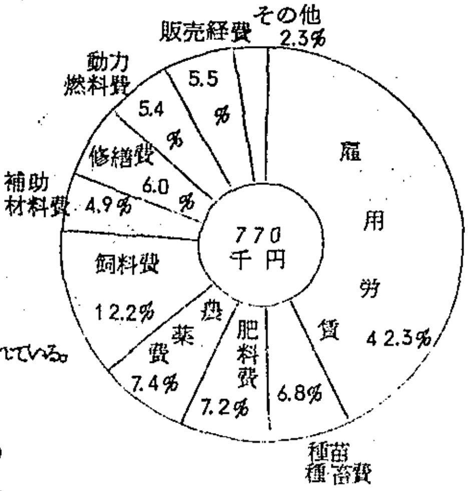
(3) 家 計 費

食糧自給率は67.5%(前年度61.6%)と自給化が進み特に主食である米については100%自給である。

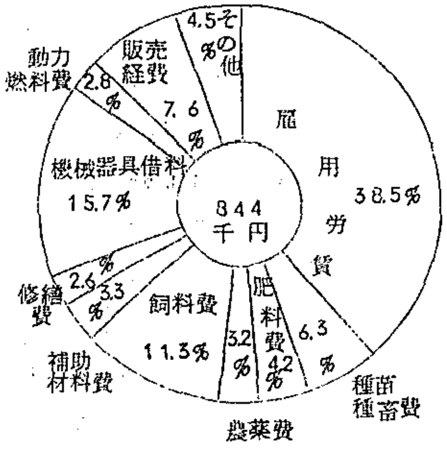
従って、経営部門と家計部門の完全に分離していない開拓地農家にあって、当農家の如く自給率が高いのは、開拓営農が堅実に進められている証拠と云えよう。

特に、柑橘類、バナナ、パパイヤ等及び畜産物(鶏卵)が自給されるに至っており、厳しい農作業に終始する開拓生活の栄養のバランスからみて賢明であろう。

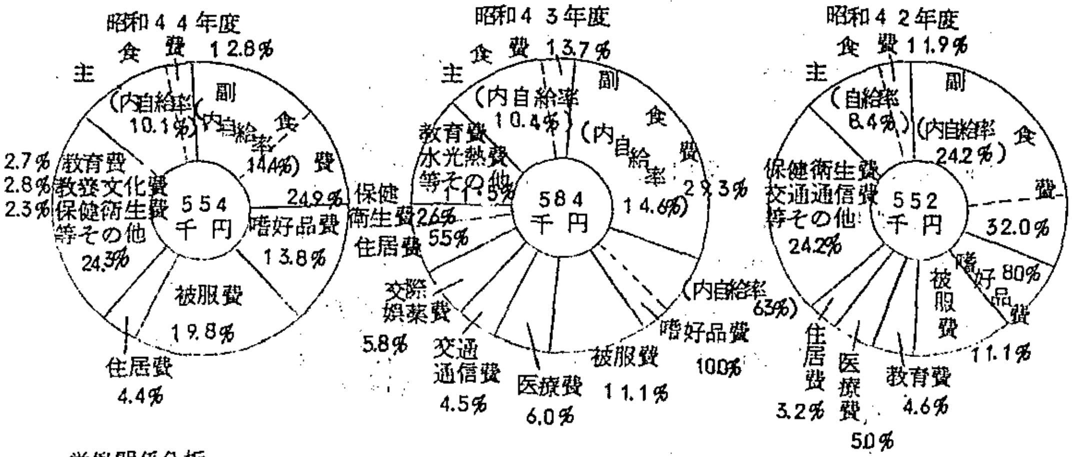
昭和44年度農業経営費内訳比率



昭和44、43、42年度平均



（家計費内訳比率）



労働関係分析

(1) 作業者内訳

家　長	3,179.5時間 ――――	17.8%
	（労働日数349日　8時間労働換算392.7日）	
妻	3,017時間 ――――	16.9%
	（労働日数352日　8時間労働換算377.1日）	
長　男	1,341.5時間 ――――	7.6%
	（労働日数155日　8時間労働換算167.7日）	
次　男	1,585時間 ――――	8.9%
	（労働日数195日　8時間労働換算198.1日）	
長　女	1,731.5時間 ――――	9.7%
人夫（請負）	6,206時間 ――――	34.8%
（臨雇）	756 〃 ――――	4.2%
（小計）	6,682.5 〃 ――――	（39.0%）
その他	11時間 ――――	0.1%
計	17,832.5時間 ――――	100.0%

（注）

総雇用労働時間6,682.5時間中、固定資産造成関係（主に牧野造成）に279.5時間投下されている。農業経営費に於いて、この分の雇用労賃を控除修正した。

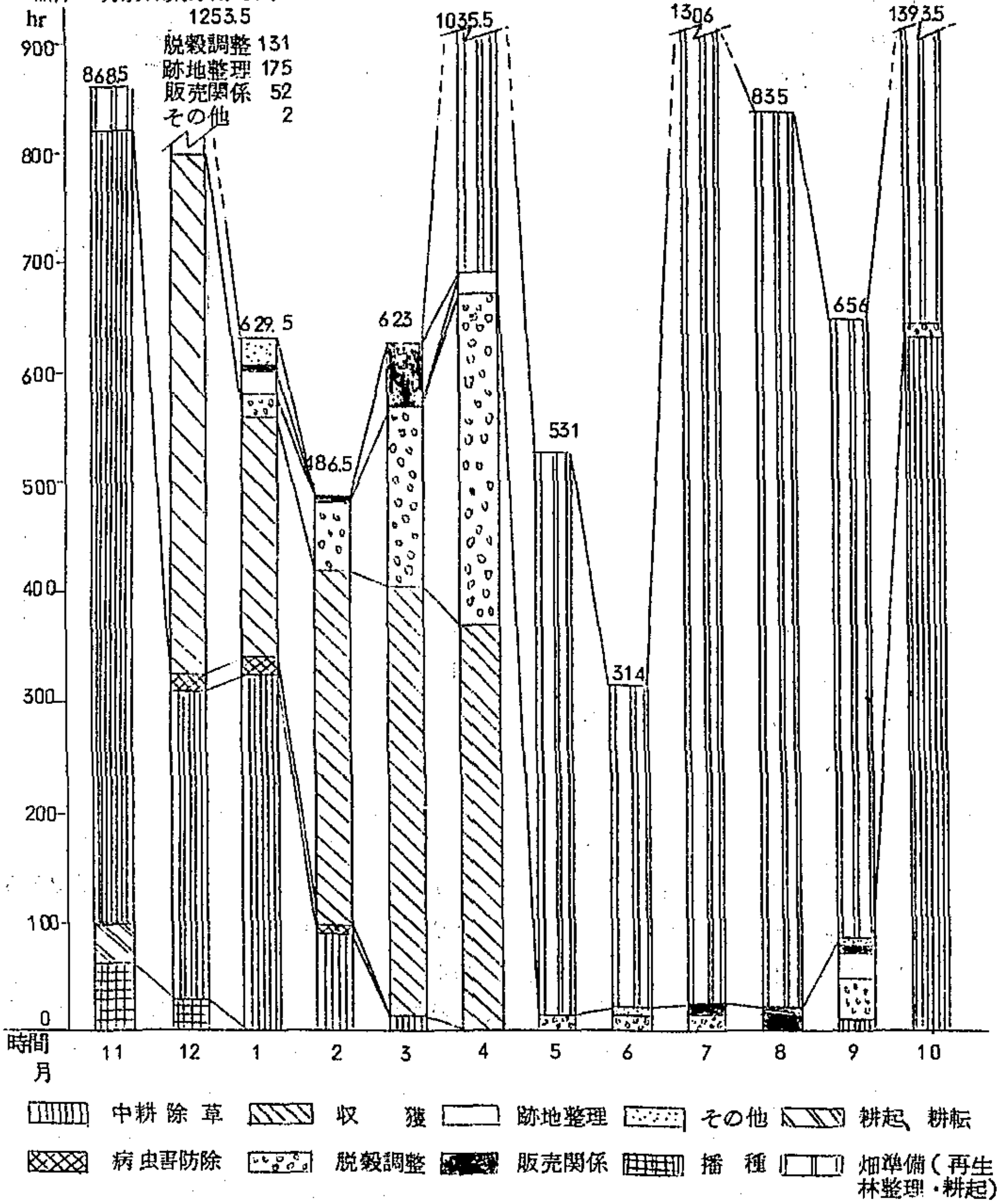
年間総投下労働量は、17,832.5時間であるが、これは農業関係以外の労働時間をも総て含めた時間でありこのうち農業労働時間は次表の通り16,371.5時間である。人夫は、ほとんど請負の型で雇用されており(米作、マイス作の除草、収獲、脱穀調整等)農繁期には、多い時で10~15名の人夫をもって請負雇用している。

(2) 作物別作業時間

項目		労働時間	日数(8時間換算)	比率(%)
短期作物	米	5,088.5	636.1	28.5
	とうもろこし	796	99.5	4.5
	スイカ	1,314.5	164.2	7.4
みかん		34.5	4.3	0.2
その他の作物		884.5	110.6	5.0
牧草関係		317.5	39.7	1.8
養鶏		1,653.5	206.7	9.3
農雑作業		446	55.8	2.5
再生林伐開		5,388.5	673.6	30.2
その他		448	56.0	2.5
(小計)		16,371.5	2,046.5	91.9
共同作業出、講習会等		781.5	97.7	4.3
固定資産造成		679.5	84.9	3.8
計		17,832.5	2,229.1	100.0

1. "農雑作業"とは、農道管理、機械器具、農具の修理、手入れその他人夫さがし等である。
2. "その他"には家庭用農産加工品、自給用食糧調整等が含まれる。
3. "講習会"には長女の洋裁勉強が多くを占める。
4. "固定資産造成"の内訳は土地造成9時間、牧野造成317.5時間、建物施設関係353時間である。

稲作の 月別作業労働時間



当農家の稲作（陸稲）作業内訳は上表の通りである。なお再生林伐開作業については、ほとんどの場合伐開後直ちに稲作が行なわれており、又稲作作業に入るべき畑準備作業が再生林伐開作業と区分できない為本表に併せ表示した。

機械造成畑　（ほ場）、約１０ｈａ及び再生林伐開跡地約１０ｈａを耕しており機械造成耕畑（ほ場）では、陸稲及びその裏作として大豆、スイカ、を栽培しており、又再生林伐開跡地では陸稲、マイス（飼料用）を栽培している。

III 農家経済総括表 (単位：$b)

1. 農業収入

項目	品名	現金	現物労賃支払	自家生産物家計仕向	現物外部取引	計
永年作物	柑橘類			501		501
多年生作物	バナナ・パパイヤ	70		173		243
短期作物	米	14,257	2,266.5	1,831.9		18,375.4
	スイカ	11,080	38	1,197		12,315
	豆類・イモ類 野菜類	2,945.1	60.5	787.5		3793.1
畜産物	鶏卵	8,859.1	15.6	808.7		9,683.4
	鶏（鶏・肉）	9,081.3	38.5	650.5		9,770.4
	その他			10		10
農雑		1,496	5	471.3		1,972.3
計		47,788.6	2,424.1	6,450.9		56,663.6

2. 農業経営費

項目	現金 全支出額	加算額 現物労賃支払（購入分） 農業経営費より	家計費より	小計	控除額 固定資産関係	農業経営費より支払 現物労賃	現物外部取引	小計	差引加算控除額	修正金額	現物（自給分） 全支出額	控除額 固定資産関係	修正金額	合計
雇用労賃	8,178.5	3	600.6	603.6	250			△250	353.6	8,532.1	2,424.1	50	2,374.1	10,906.2
種苗種畜費	1,752.5									1,752.5				1,752.5
肥料費	1,855									1,855				1,855
農薬費	1,901									1,901				1,901
飼料費	3,158									3,158				3,158
補助材料費	1,251.5									1,251.5				1,251.5
修繕費	1,548.5									1,548.5				1,5485
機械器具借料	383.5									383.5				383.5
動力燃料費	1,407.3					3		△3	△3	1,404.3				1,404.3
販売経費	1,417									1,417				1,417
借入金利息	134									134				134
減価償却費	—									—				—
その他	85									85				85
計	23,071.8	3	600.6	630.6	250	3		△253	350.6	2,34224	2,424.1	50	2,374.1	25,796.5

減価償却費は財産台帳が整備されていないので計上し得なかった。

3. 家　計　費

項　目		現　金	自家生産物家計仕向	計
主食費	米		1,851.7	1,851.7
	小麦粉及びパン類	422	15	437
	うどん類その他	130	3.5	133.5
	小　計	552	1,870.2	2,422.2
副食調味料費	野菜類	521.4	719	1,240.4
	肉類	552.3	650.5	1,202.8
	卵魚類	48.4	808.7	857.1
	調味料その他	1,309.5	481.3	1,790.8
	小　計	2,431.6	2,659.5	5,091.1
嗜好品費	飲物	219		219
	果物類	47.5	1,871	1,918.5
	たばこ	417		417
	その他	403		403
	小　計	1,086.5	1,781	2,957.5
被服費		3,658.2		3,658.2
教育費		503		503
教養文化費		515		515
医療費		322		322
保健衛生費		422.6		422.6
交通通信費		376		376
交際娯楽費		464		464
水光熱費		250		250
住居費		774		774
その他		1,298		1,298
計		8,582.8		8,582.8
臨時家計費				
合　計		12,652.9	6,400.7	19,053.6

4. 農外収支

項目	現金	現物	修正額	計
収入	1,108			1,108
支出	540			540

5. 被贈扶助等の収入

項目	現金	現物	修正額	計
収入				

6. 農業経営収支の修正

項目			金額
農業粗収入	収入（1表より）		56,663.6
	修正額	動物の増減額	—
		植物の増減額	—
		未処分農産物在庫増加額	—
		計	56,663.6
農業経営費	支出（2表より）		25,796.5
	修先額	農業生産資材在庫減少額	—
計			25,796.5
農業所得			30,867.1

農業所得算出にあたっては左表の如く農業粗収入、農業経営費の修正をしなければならないが、財産台帳不備のため修正し得なかった。

家 計 費 修 正

項目		全支出額	現金						差引加算控除額	修正金額	現物	計
			加算額（現物外部取引の購入分）			控除額（現金家計費より支払）					自家生産物家計仕向	
			農業経営費より支払	家計費より支払	小計	現物労賃	現物外部取引	小計				
飲食費	主食費	552				66.9		66.7	△66.9	485.1	1,870.2	2,355.3
	副食調味料費	2,431.6				504		504	△504	1,927.6	2,659.5	4,587.1
	嗜好品費（除たばこ）	669.5								669.5	1,871	2,540.5
	小計	3,653.1				570.9		570.9	△570.9	3,082.2	6,400.7	9,482.9
たばこ		417				29.8		29.8	△29.8	387.2		387.2
交際娯楽費		464								464		464
その他		8,118.8								8,118.8		8,118.8
計		12,652.9				600.7		600.7	△600.7	12,052.2	6,400.7	18,452.9

7. 現金収支の総括

項目		収入	支出	収支差引額
経営的及び収支入出	農業収入及び支出	47,788.6	23,422.4	24,366.2
	農外収入及び支出	1,108	540	568
	被増扶助等の収入	—	—	—
	租税公課諸負担		406	△406
	家計費		12,052.2	▲12,052.2
	計	48,896.6	36,420.6	12,476
財産的収入及び支出	固定資産の購入及び売却	200	9,080	△8,880
	土地		※250	△250
	建物施設			
	農機具	200	8,830	△8,630
	動物			
	植物			
	借入金の借入及び返済	9,200		9,200
	借入金（事現団及び個人）	9,200		9,200
	その他		15,400	△15,400
	仮払金		14,700	△14,700
	出資金		700	△700
	計	9,400	24,480	△15,080

※ 固定資産関係の支出250 $b は雇用労賃より支払ったものである。

△ は負債の増加を示す。

＜付表＞

月別現金収支取引について

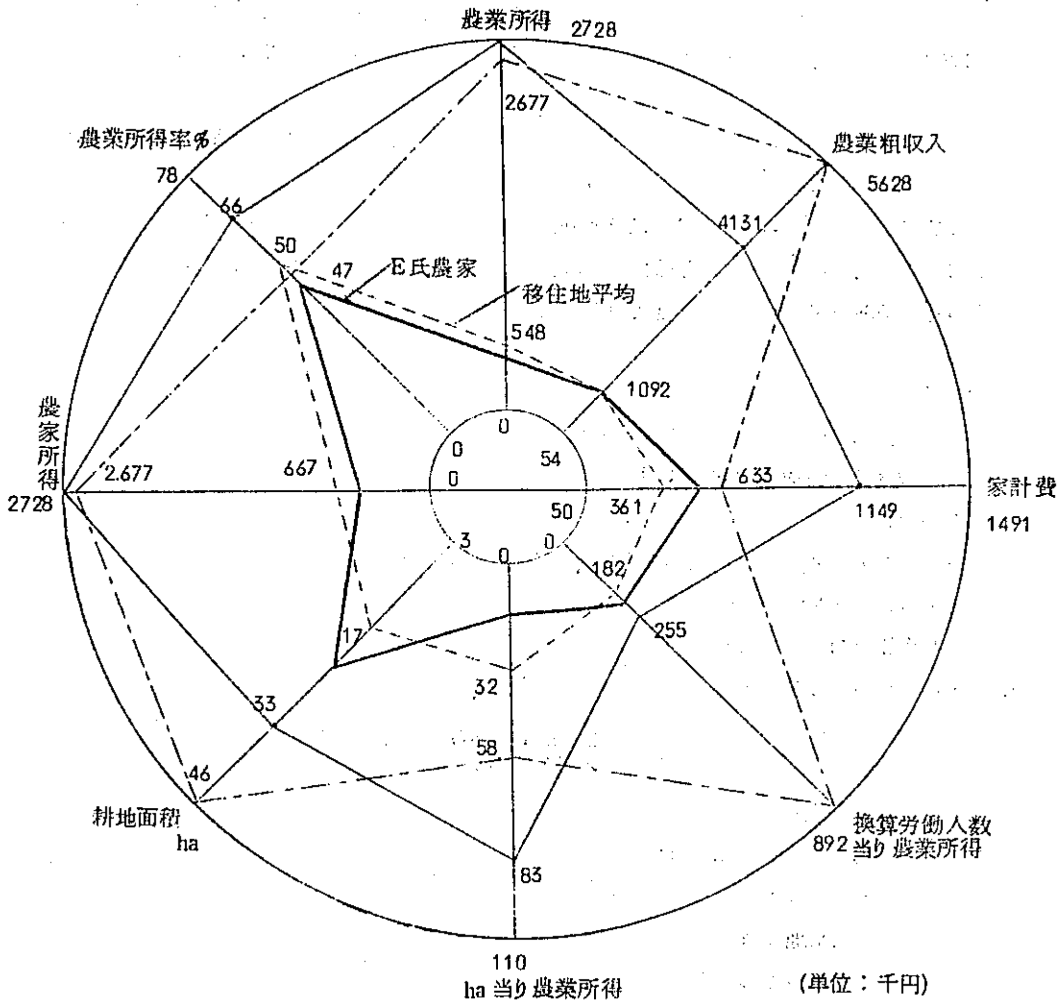
（単位 $b ）

項目			月別 11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
収入	所得的収入	農業現金収入 多年生作物	70.00												70.00
収入	所得的収入	農業現金収入 短期作物	7,394.60	3,742.00	1,000.00	267.50	6,870.00			40.00	1,650.00	3,100.00	645.00	3,573.00	28,282.10
収入	所得的収入	農業現金収入 畜産物	315.70	2,408.30	5.270.50		571.50	934.50	1,108.40	1,639.00	2,415.20	1,208.90	1,955.20	113.30	17,940.50
収入	所得的収入	農業現金収入 農雑						40.00		20.00	403.00	696.00	216.00	121.00	1,496.00
収入	所得的収入	農業現金収入 小計	7,780.30	6,150.30	6,270.50	267.50	7,441.50	974.50	1,108.40	1,699.00	4,468.20	5.004.90	2,816.20	3,807.30	47,788.60
収入	所得的収入	農外現金								33.00	500.00			575.00	1,108.00
収入	所得的収入	計	7,780.30	6,150.30	6,270.50	267.50	7,441.50	974.50	1,108.40	1,732.00	4,968.20	5.004.90	2,816.20	4,382.30	48.896.60
収入	財産的収入	固定資産売却			200.00										200.00
収入	財産的収入	借入金借入						4,200.00						5.000.00	9,200.00
収入	財産的収入	その他													
収入	合計		7,780.30	6,150.30	6,470.50	267.50	7,441.50	5,174.50	1,108.40	1,732.00	4,968.20	5.004.90	2,816.20	9,382.30	58,296.60
支出	所得的支出	農業現金支出	2,957.00	3,313.30	1,278.50	1,457.50	1,061.00	1,838.50	683.50	804.00	2,253.00	3,2 61.50	1,752.00	2,412.00	23,071.80
支出	所得的支出	農外 〃									20.00	500.00		20.00	540.00
支出	所得的支出	租税公課諸負担	67.00		55.00		77.00	10.00	58.00	22.50	54.00	22.50	17.50	22.50	406.00
支出	所得的支出	計	3,024.00	3,313.30	1,333.50	1,457.50	1,138.00	1,848.50	741.50	826.50	2,327.00	3,784.00	1,769.50	2,454.50	24,017.80
支出	財産的支出	固定資産購入		2,230.00	4,000.00			2,000.00				600.00			8,830.00
支出	財産的支出	出資金	200.00	500.00											700.00
支出	財産的支出	仮払金	1,500.00		4,200.00		2,000.00	2,000.00						5.000.00	14,700.00
支出	財産的支出	計	1,700.00	2,730.00	8,200.00	—	2,000.00	4,000.00	—	—	—	600.00	—	5.000.00	24,320.00
支出	家計支出		1,438.40	909.90	1,145.00	708.50	1,349.60	728.50	755.00	824.00	1,215.00	1,459.70	969.10	1,150.20	12,652.90
支出	合計		6,162.40	6,953.20	10,678.50	2166.00	4,487.60	6,577.00	1,496.50	1,650.50	3,542.00	5.843.70	2,738.60	8604.70	60,900.70

概観：移住地に於けるＥ氏農家の位置

── 経営成果グラフ ──

（Ｅ氏農家と移住地との経営成果対比）



(単位：千円)

〔グラフの説明〕

1） 本グラフは、サンファン移住地に於ける農業粗収入、農業所得等各項目ごとの規模を表わしたものである。外円は、当移住地農家の各項目別の最高値を、内円は同様に各項目別の最低値を、また………線は移住地平均値を示したものである。但し最高、最低値の表示について農外部門が極端に大きなウェイトを占める農家は除外し、かつ経営収支がマイナ

スを示す農家は最低値を0と表示した。

2）——— 線は当移住地に於ける農業所得、農家所得の最も高い農家であり、この農家の農業収入の主なものは、陸稲、みかん、及び畜産（肉牛）である。これらの作付面積（飼育頭数）粗収入は陸稲：（31ha、1,500千円）、みかん（1ha、200本、990千円）肉牛（5頭、135千円）である。換算労働員数10.7人。

又、—・—・—線は農業粗収入の最も高い農家であり、この農家は陸稲及び養鶏を営農の中心としている。陸稲を46ha作付、3,950千円粗収入を、又養鶏部門で1,212千円の粗収入をあげている。

但し、農業所得率は47％と移住地平均を下回っており、かなり低い。換算労働員数3.0人
（昭和44年度移住地農家経済簡易調査より）

3） E氏農家（太い——— 線）はほぼ移住地平均並みであるが、現在畜産主体営農に移行する段階にあり、過渡的なものと思料される。なお現在自家労働力にめぐまれていないことかから将来子供の成長に伴って大きく伸びることも期待される。

I 経営の概況

入植年月　　：昭和39年6月

入植後経過年数：5年4月

(1) 家族構成

家長39才、妻、長男9才、次男6才、三男、長女3才の7人家族。妻は副業として僅かであるがカリント作りを行っている。

（換算労働人数　2.3人）

(2) 土地所有並びに利用状況

畑　：
樹口地：} 8.0ha（米6.5ha、雑穀類その他0.5ha、みかん100本 マンゴ20本）

採牧草地：15.0ha

放牧地：10.0ha

宅　地：　1.0ha

未開墾地：16.0ha

所有地計：50.0ha

畑のうち約5haを機械造成（永久耕地化）している。

(3) 建物施設、農機具等

建物施設：住宅1棟（45㎡）、収納舎1棟（40㎡）、牛舎1棟（40㎡）
鶏舎1棟（24㎡）

農機具：発動機、精米機、噴霧機、馬車各1台

家　　畜：肉牛（仔１４頭、成１４頭）馬１頭、鶏１５０羽

〔財産台帳が不備のため参考までに昭和４４年度農家経済簡易調査より引用した。〕

本農家は子供５人で先行き楽しみであるが、現在のところ自家労働力に恵まれていない。しかし、その経営内容は当移住地の平均水準以上にあり、その進め方は堅実でこれは経営者の努力と手腕によるものであろう。従って、今後畜産の堅実な伸びを計る必要から経営収支の改善、合理化を計って再投資を進めなければと思われる。なお、養鶏部門が逐年ウェイトを占めて来ているが卵価不安定と云うリスクを持つ作目であるので特に部門収支を明らかにし、全体の経営収支に影響させないよう配慮する必要があろう。

Ⅱ　経営分析

（農業経営成果）

	昭和４４年度		４３年度	４２年度
	現地貨$b	邦貨（円）	邦貨（円）	邦貨（円）
農業粗収入	35,656	1,069,680	634,563	949,962
農業経営費	19,021.7	570,651	278,790	308,603
農業所得	16,634.3	499,023	355,773	641,359
農外収入	2,877.6	86,328	216,294	159,609
農外支出	1,733.5	52,005	72,297	0
農外所得	1,144.1	34,323	143,997	159,609
農家所得	17,778.4	533,364	499,770	800,968
被増等収入	831	24,930	22,761	[illegible]
租税公課諸負担	396.5	11,895	11,940	7,410
可処分所得	18,212.9	336,399	510,591	793,558
家計費	16,751.7	502,551	400,014	519,400
農家経済余剰	1,461.2	43,848	110,577	（修正額）274,158＋21,402＝295,260

（昭和４２～４４年度邦貨換算率$b＝30円）

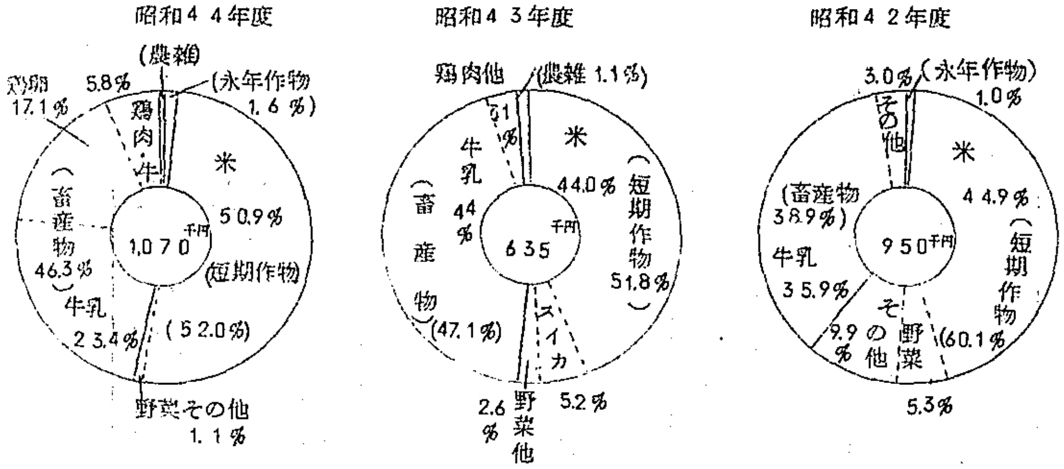
農業粗収入及び農業経営費は厳密な意味で正しくない。即ち動植物の増減額、未処分農産物在庫額、生産資材在庫増減額及び減価償却費を算出計上しなければならないが、財産台帳が不整備のため計上し得ずに農業粗収入及び農業経営費を算出せざるを得なかった。昭和４３年、４２年度分についても同様である。

(1) 農業(粗)収入

農業粗収入35,656$b(1,070千円)のうち、約85%が現金化(販売)されており、又この現金収入の内米が53%、牛乳が24%と全体の77%を占めている。牛乳が前年より1割強減収したが、それに対し鶏卵、鶏肉が大巾に増収となっている。

なお、本農家の飼育している牛は肉牛(ゼブー系統牛)であるが、牛乳はこの肉牛種のものである。

(農業粗収入の各作物別収入比率)



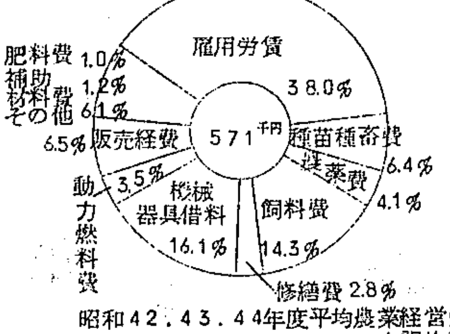
本農粗収入は1年間の日記帳による現金収入(販売)、現物労賃支払、自家生産物家計仕向、現物外部取引をもって算出したものである。なお、農産物の未処分在庫、掛売り等により現金化されていないものは財産台帳不備のため算出し得なかった。

(2) 農業経営費

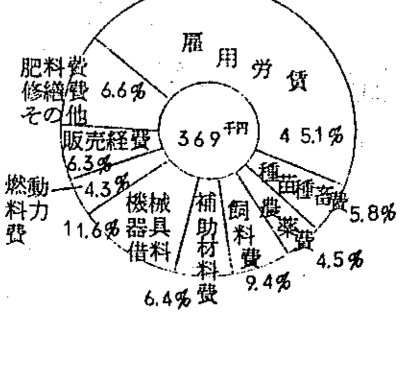
	昭和44年度		43年度	42年度
	現地貨($b)	邦貨(円)	邦貨(円)	邦貨(円)
雇用労賃	7,221.5	216,645	84,816	198,570
種苗種畜費	1,215	36,450	15,435	12,710
肥料費	188.5	5,655	4,950	1,643
農薬費	783.7	23,511	18,270	8,100
飼料費	2,727.9	81,837	19,044	3,615
補助材料費	226.5	6,795	7,914	56,428
修繕費	528	15,840	—	240
機械器具借料	3,070.4	92,112	35,730	660
動力燃料費	673.7	20,211	12,411	19,122
販売経費	1,228	36,840	30,510	3,000
借入金利息				
減価償却費	(—)	(—)	49,710	(—)
その他	1,158.5	34,755		4,515
計	19,021.7	570,651	278,790	308,603

昭和43年度より機械器具借料が大巾に増えている(42年22$b、43年1191$b、44年3070$b)がこの借料は農協機械利用部のトラクター等耕地の熟畑化る計るための大農機具借料である。

昭和44年度農業経営費内訳比率



昭和42.43.44年度平均農業経営費内訳比率



(3) 農外関係

農外所得1144$b(34千円)は主に副業としてのカリント売上げ収入によるものであるが、昨年度4,800$b 1昨年度の5,320$bに比べて大きく減収している。

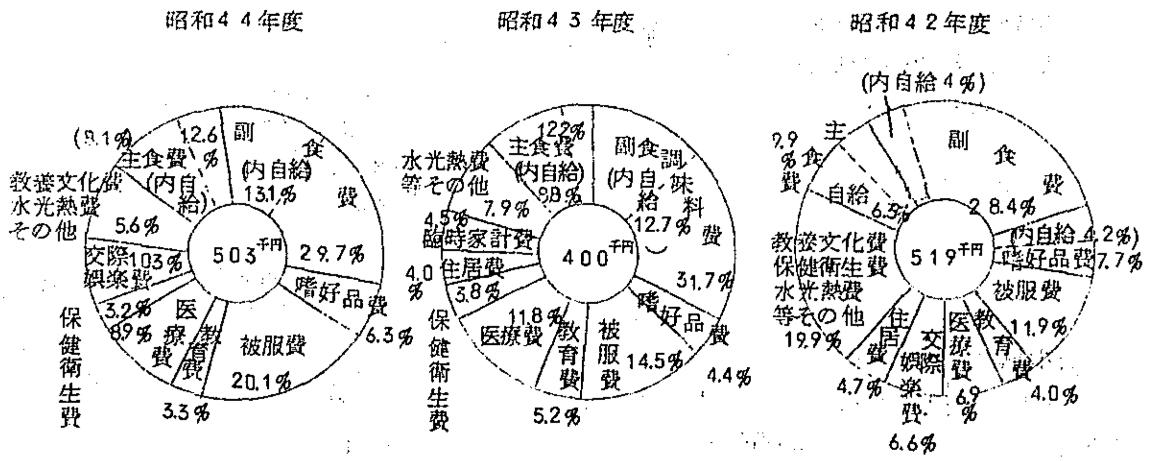
(4) 家　計　費

家計費総額１６,７５１.７＄b（５０２.５千円）中飲食費が８,１４６.３＄b（244,4千円）を占めエンゲル係数は４８.６％である。また、家計費の飲食費に対する自給農産物割合（食糧自給率）は２３％である。

４３年度４６.７％、４２年度の３１.６％に比べて食糧自給率は低くなっている。（生産物家計仕向額は４３年度に比べて必ずしも減ってはいないが、飲食費が大巾に増加している為である。主食費、副食調味料費、嗜好品費ともに一率増加を示しており、食生活が向上したものと思料される）

エンゲル系数	
４３年度	４７.７％
４４年度	４８.６％

（家計費内訳比率）



労働関係分析

(1) 作業者内訳

家長 2,752時間 29.5%(労働日数360日、8時間換算344日)

妻 335時間 3.6%

子供 4.5時間 —%

人夫 6,242時間 66.9%

計 9,333.5時間 100.0%

総雇用労働時間6,242時間中固定資産造成関係に767.5時間投下されている。農業経営費に於いて、この分の雇用労賃を控除修正した。

年間総投下労働量は9,333.5時間であるが、これは農業関係以外の労働時間をも総て含めた時間であり、農業労働時間は次表の通り7,862.5時間である。

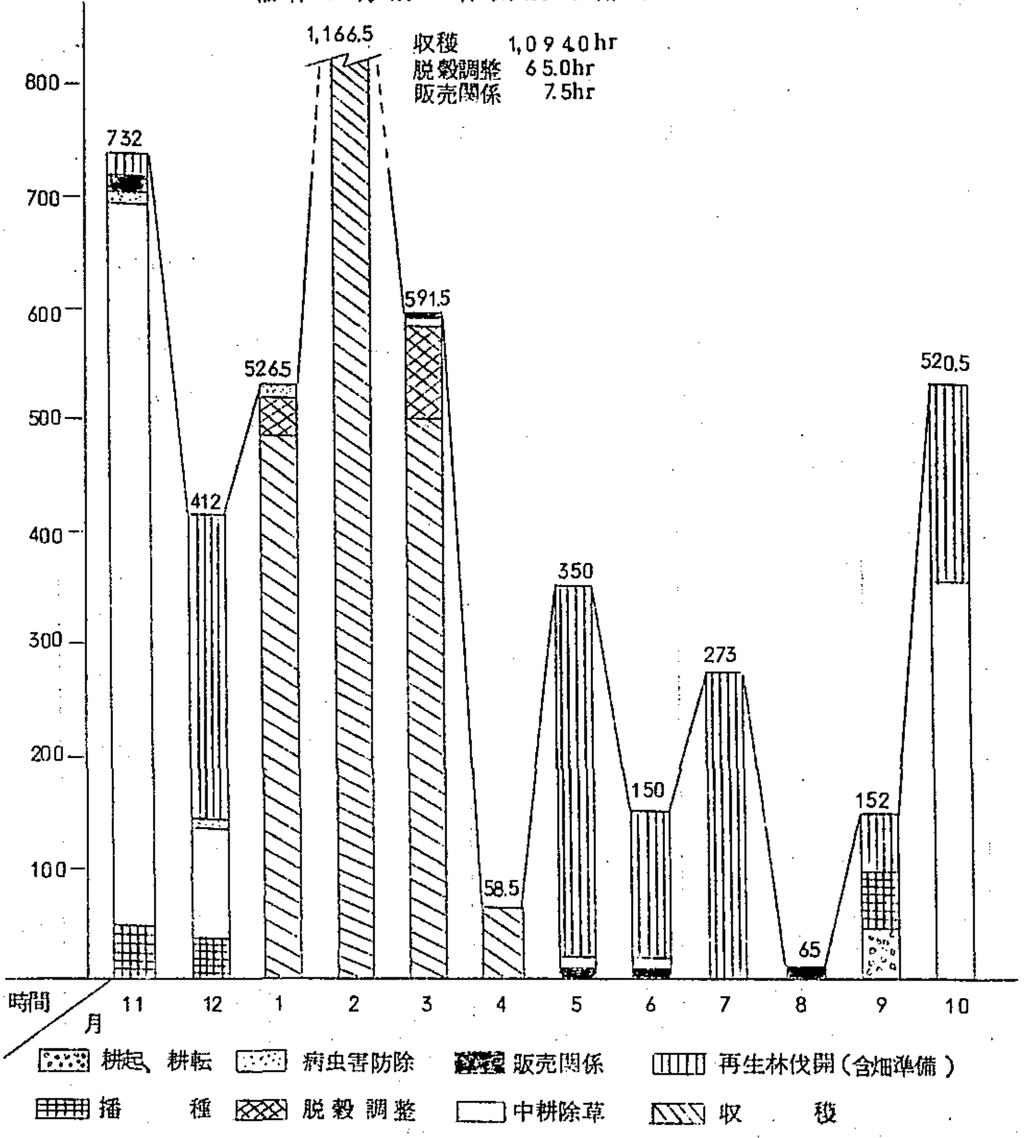
長男、二男、三男とも未だ若年少の為、農業稼働力となっていない。

(2) 作物別作業時間

項目		労働時間	日数(8時間換算)	比率(%)
短期作物	米	3,665.5	458.2	39.3
	マイス	820.5	102.6	8.8
	その他	186.5	23.3	2.0
みかん		2.5	0.3	—
牧草関係		221.5	27.7	2.4
牛乳関係		1,249	156.1	13.4
農維作業		445	55.6	4.8
再生林伐開		1,272	159.0	13.6
小計		7,862.5	982.8	84.3
固定資産造成		992	124	10.6
共同作業出講習会等		229.5	28.7	2.4
その他		249.5	31.2	2.7
計		9,333.5	1,166.7	100.0

"固定資産造成"の内訳は牧野造成271時間、牧柵関係386時間、建物施設関係335時間である。

稲作の月別・作業別労働時間



当農家の稲作（陸稲）作業内訳は上表のとおりである。なお、再生林伐開作業については、ほとんゝどの場合伐開後直ちに稲作が行われており、又稲作作業に入るべき畑準備作業が再生林伐開作業と区分出来ない為、本表に併せ表示した。

一般に再生林伐開跡地で直ちに稲作（陸稲）等を行なう場合、耕起耕耘をせず直接人力点播器でもって播種している。当農家は約５ｈａの機械造成耕地をもっており、本表耕起、耕耘作業（９月）は本ほ場のものと思われる。なお、同移住地Ｄ氏農家と比べて陸稲作付面積はかなり少ないが、畜産部門の拡充に主体をおいている為である。

Ⅲ 農業経済総括 （単位：$b）

1 農業収入

項目	品名	現金	現物労賃支払	自家生産物家計仕向	現物外部取引	計
永年作物	みかん	246.1		253.5	84	583.6
多年生作物						
	米	16,079	696	1,356.3	9	18,140.3
短期作物	とうもろこし		4		80	84
	野菜類	120	12	164	13	309
	その他			20		20
畜産物	牛乳	7,327	49	944.1	26	8,346.1
	鶏卵	5,405.7	28.5	643.3	5	6,082.5
	鶏肉	1,095	46.5	429		1,570.5
	牛				500	500
農雑					20	20
計		30,272.8	836	3,210.2	737	35,656

2 農業経営費

項目	現金 全支出額	現金 修正 加算額 現物労賃支払（購入分） 農業経営費より	現金 修正 加算額 現物労賃支払（購入分） 家計費より	現金 修正 加算額 現物労賃支払（購入分） 小計	現金 修正 控除額 固定資産関係	現金 修正 控除額 農業経営費より支払 現物労賃	現金 修正 控除額 農業経営費より支払 現物外部取引	現金 修正 控除額 農業経営費より支払 小計	現金 修正 差引加算控除額	現金 修正金額	現物（自給分） 全支出額	現物（自給分） 控除額 固定資産関係	現物（自給分） 修正金額	合計
雇用労賃	6,747		508.5	508.5	768				△259.5	6,487.5	836	102	734	7,221.5
種苗．種畜費	1,215									1.215				1,215
肥料費	188.5									188.5				188.5
農薬費	783.7									783.7				783.7
飼料費	2,727.9									2,/27.9				2,727.9
補助材料費	226.5									226.5				226.5
修繕費	528									528				528
機械器具借料	3,070.4									3,070.4				3,070.4
動力燃料費	673.7									673.7				673.7
販売経費	1,228									1,228				1,228
借入金利息														（—）
減価償却費※														（—）
その他	1,158.5									1,158.5				1,158.5
計	18,547.2		508.5	508.5	768				△259.5	18,287.7	835	102	734	19,021.7

※ 減価償却費は財産台帳が整備されていないので計上し得なかった。

3 家計費

項目		現金	自家生産物家計仕向	計
主食費	米	98	1,356.3	1,454.3
	パン	492		492
	その他	167		167
	小計	757.	1,356.3	2,113.3
副食調味料費	野菜類	365.4	164	529.4
	肉類	1,805.9	1,072.3	2,878.2
	調味料	355		355
	その他	418.4	964.1	1,382.5
	小計	2,944.7	2,200.4	5,145.1
嗜好品費	酒類	100		100
	果物	65.4	253.5	318.9
	菓子	387		387
	たばこ	45		45
	その他	221.2	35	256.5
	小計	818.9	288.5	1,107.4
被服費		3,375.1		3,375.1
教育費		550.5		550.5
教養文化費				
医療費		1,495.6		1,495.6
保健衛生費		530.8		530.8
交通通信費		195.5		195.5
交際娯楽費		429.5		429.5
水光熱費		142.3		142.3
住居費		403.6		403.6
その他		1,034.5		1,034.5
計		8,157.4		8,157.4
臨時家計費				
合計		12,678.	3,845.2	16,523.2

4　農外収支

項　　目	現　　金	現　　物	修　正　額	計
収　　入	2,842.6	35		2,877.6
支　　出	1,733.5			1,733.5

5　被増扶助等の収入

項　　目	現　　金	現　　物	修　正　額	計
収　　入		831		831

6　農業経営収支の修正

項　　目			金　　額
農業粗収入	収　　入		35,656
	修正額	動物の増減額	
		植物の増減額	
		未処分農産物在庫増加額	
	計		35,656
農業経営費	支　　出		19,021.7
	修正額	農業生産資材在庫減少額	
	計		19,021.7
農　業　所　得			16,634.3

農業粗収入算出にあたっては左表の如く農業粗収入、農業経営費の修正をしなければならないが財産台帳不備のため修正し得なかった。

家計費修正

項目		全支出額	現金								現物	計
			加算額（現物外部取引の購入分）			控除額（現金．家計費より支払）			差引加算控除額	修正金額	自家生産物家計仕向	
			農業経営費より支払	家計費より支払	小計	現物労賃	現物外部取引	小計				
飲食費	主食費	757								757	1,356.3	2,113.3
	副食調味料費	2,944.7				165		165	△165	2,779.7	2,200.4	4,980.1
	嗜好品費（除たばこ）	773.9				9.5		9.5	△9.5	764.4	288.5	1,052.9
	小計	4,475.6				174.5		174.5	△174.5	4,301.1	3,845.2	8,146.3
たばこ		45								45		45
交際娯楽費		429.5		561.5	561.5				561.5	991	737	1,728
その他		7,727.9				334	561.5	895.5	△895.5	6,832.4		6,832.4
計		12,678		561.5	561.5	508.5	561.5	1,070.0	△508.5	12,169.5	4,582.2	16,751.7

現金収支の総括

項目		収入	支出	収支差引額
経常的収入及び支出	農業収入及び支出	30,272.8	18,287.7	11,985.1
	農外収入及び支出	2,842.6	1,733.5	1,109.1
	被増扶助等の収入			
	租税公課諸負担		396.5	△ 396.5
	家計費		12,169.5	△12,169.5
	計	33,115.4	32,587.2	528.2
財産的収入及び支出	固定資産の購入・売却	4,920	3,528.3	1,391.7
	土地	4,920	※768	
	建物施設		2,367.3	
	農機具		343	
	動物		50	
	植物			
	準現金預入及び引出	3,783	2,865.5	917.5
	預貯金	3,783	2,865.5	917.5
	借入金の借入・返済		2,700	△ 2,700.0
	借入金		2,700	△ 2,700.0
	計	8,703	9,093.8	390.8

※ 固定資産関係の支出768＄bは雇用労賃から支払ったものである。

△ は負債の増加を示す。

＜ 付 表 ＞

月別現金収支取引について

区分			月別	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
収入	所得的収入	農業現金収入	永年作物					85.00	100.00			3.90		57.20		246.10
			多年生作物													
			短期作物	55.00		4,369.00	3,807.00	5,465.00	714.00		1,252.50	536.50				16,199.00
			畜産物	1,503.00	1,133.80	952.50	686.00	1,250.30	1,589.00	1,196.90	635.60	986.00	1,034.50	1,256.70	1603.40	13,827.70
			小計	1,558.00	1,133.80	5,321.50	4,493.00	6,800.30	2,403.00	1,196.90	1,888.10	1,526.40	1,034.50	1,313.90	1,603.40	30,272.80
		農外現金		168.00	430.80	70.40	30.00	375.00			124.40	341.00	24.00	176.00	1,103.00	2,842.60
		被増扶助等現金														
		計		1,726.00	1,564.60	5,391.90	4,523.00	7,175.30	2,403.00	1,196.90	2,012.50	1,867.40	1,058.50	1,489.90	2,706.40	33,115.40
	財産的収入	固定資産売却			420.00			700.00	2,300.00	1,000.00			500.00			4,920.00
		預貯金引出								26.00	3,160.00				597.00	3,783.00
		合計		1,726.00	1,984.60	5,391.90	4,523.00	7,875.30	4,703.00	2,222.90	5,172.50	1,867.40	1,558.50	1,489.90	3,303.40	41,818.40
支出	所得的支出	農業現金支出		794.90	949.80	998.90	1,076.50	5,436.50	972.10	1,781.00	610.10	3,391.00	707.50	708.10	1.120.80	18,547.20
		農外 〃		73.00	195.00	228.00	26.00	21.00	5.00	14.00	308.00	298.50	126.00	169.50	269.50	1,733.50
		租税公課諸負担			19.00			285.50		20.00	19.00	34.00		19.00		396.50
		計		867.90	1,163.80	1,226.90	1,102.50	5,743.00	977.10	1,815.00	937.10	3,723.50	833.50	896.60	1,390.30	20,677.20
	財産的支出	固定資産購入		126.00	10.50		21.00	300.00	853.00	727.00	127.80	224.00	119.50		251.50	2,760.30
		預貯金預入		232.00	252.00	252.50	106.50	200.00	255.00	307.50	75.00	270.00	275.00	320.00	320.00	2,865.50
		借入金返済					2,000.00				700.00					2,700.00
		計		358.00	262.50	252.50	2,127.50	500.00	1,108.00	1,034.50	902.80	494.00	394.50	320.00	571.50	8,325.80
	家計支出			738.20	881.70	1355.60	1,307.40	1083.70	1,614.20	1,381.50	1,494.00	774.10	629.50	532.50	885.60	12,678.00
	合計			1,964.10	2,308.00	2,835.00	4,537.40	7,326.70	3,699.30	4,231.00	3,333.90	4,991.60	1,857.50	1,749.10	2,847.40	41,681.00

グァタパラ移住地

F氏

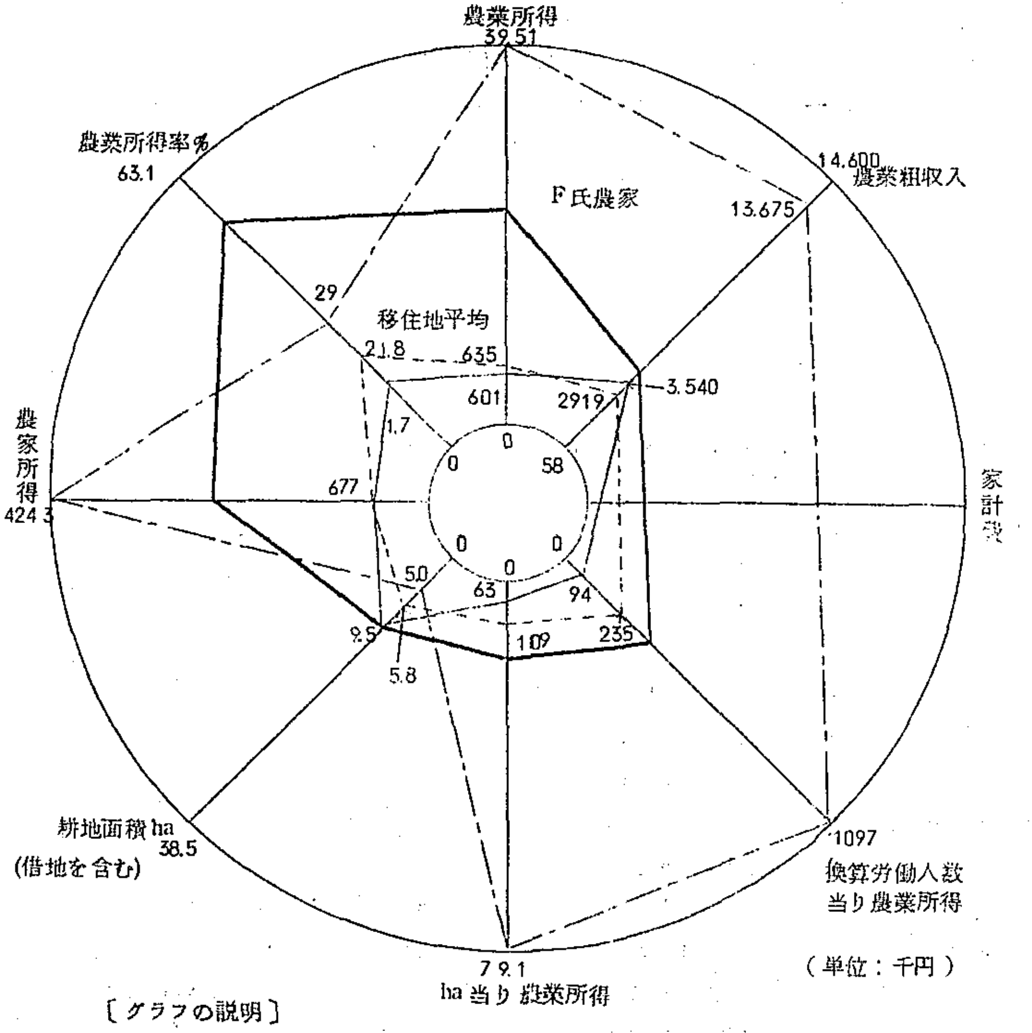
調査対象期間

昭和44年1月1日～昭和44年12月31日

概観：移住地に於けるＦ氏農家の位置

══ 経営成果グラフ ══

（Ｆ氏農家と移住地との経営成果対比）



〔グラフの説明〕

１） 本グラフはグァタパラ移住地に於ける農業粗収入、農業所得等各項目ごとの規模を表わしたものである。外円は当移住地農家の各項目別の最高値を、内円は同様に各項目別の最低値を、また………線は移住地平均値を示したものである。但し、最高、最低値表示について、農外部門が極端に大きなウェイトを占める農家は除外し、かつ経営収支がマイナスを示す農家は最低値を０と表示した。

2）——・————線は当移住地で農業所得、農家所得の最も高い農家でありこの農家は、養鶏養豚を営農の中心としている。卵鶏7,200羽を飼育しており、この養鶏部門の売上高は鶏卵12,307千円、廃鶏323千円、鶏糞12千円である。なお、豚は5頭飼育し、この部門で79千円の売上高を持っている。換算労働員数3.6人。

また、——— 線に示す農家は水稲収入の最も高い農家（水稲主体農家）である。水稲16haを作付1,545千円の粗収入をあげている。又、この他裏作に玉蜀（8ha、842千円）、西瓜（742千円）、トウモロコシ（187千円）等を栽培している。換算労働員数6.4人（昭和44年度移住地農家経済簡易調査より）

3） F氏農家（太い——— 線）は当移住地の平均水準を一段と抜きんでている。特に農業所得率は極めて高い。自家労働力に恵まれかなり合理的な経営がなされているものと思われる。

I 経営の概況

入植年月　：昭和37年1月

入植経過年数：7年11月

(1) 家族構成

家長（58才）、妻、長男、次男、三男、四男、長女 の 7人家族

（換算労働人数 6.4人）

(2) 土地所有並びに利用状況

田	6.0ha
畑	3.5ha
宅地	0.5ha
未開墾地	15.0ha
所有地計	25.0ha
借地	9.0ha

(3) 建物施設：住宅1棟（117m^2）、畜舎1棟（20m^2）、鶏舎1棟（20m^2）収納舎1棟（180m^2）、井戸1基

農機具等：トラクター2台、動噴2台、揚水機1台、運搬用機械1台、発動機1台

〔財産台帳が不備のため、参考までに昭和44年度農家経済簡易調査より引用した。〕

本農家は平均水準を一段と抜きんでており、とり組んでいる作目も多角的である。これは豊富な自家労働力と、その適当な配分によって進められたものと推定される。（過年度実績がなく対比が困難である）

入植歴約8年に及ぶが所有地25haのうち6割の未利用地があることは、理由は何としても残念で少なくとも土地のより効率的利用を計るべきと思う。

II　経　営　分　析

（農業経営成果）

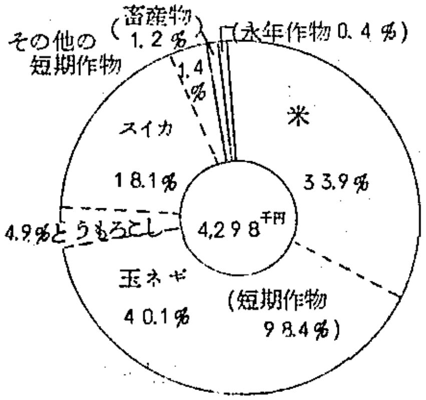
項目	昭和44年度 現地貨(Ncr$)	昭和44年度 邦貨（円）
農業粗収入	48,589.28	4,298,207.7
農業経営費	22,370.36	1,978,882.0
農業所得	26,218.92	2,319,325.7
農外収入	408.00	36,091.7
農外支出	—	—
農外所得	408.00	36,091.7
農家所得	26,626.92	2,355,417.4
被贈等収入	—	—
租税公課諸負担	1,470.12	130,046.8
可処分所得	25,156.80	2,225,370.6
家計費	10,058.10	889,739.5
農家経済余剰	15,098.70	1,335,631.1

（昭和44年度邦貨換算率　1Ncr$＝88.46円）

農業粗収入及び農業経営費は厳密な意味では正しくない。即ち動植物の増減額、未処分農産物のの在庫増減額、生産資材在庫額及び減価償却費を算出計上しなければならないが、財産台帳が不整備のため計上し得ずに農業粗収入及び農業経営費を算出せざるを得なかった。

(1)　農業（粗）収入

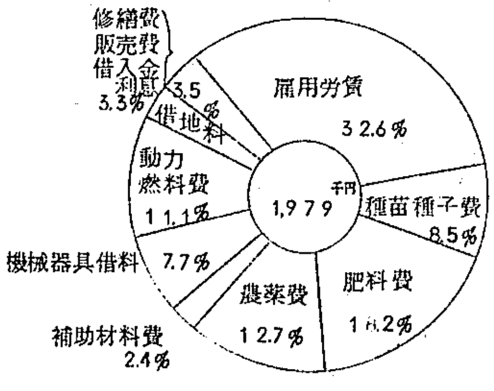
（農業粗収入の各作物別収入比率）　昭和44年度



(2) 農業経営費

項目	昭和44年度	
	現地貨（Ncr$）	邦貨（円）
雇用労賃	7,285.08	644,436.4
種苗種子費	1,905.55	168,560.5
肥料費	4,064.30	359,528.0
農薬費	2,837.90	251,040.6
飼料費	—	—
補助材料費	528.50	46,751.1
修繕費	319.50	28,263.0
機械器具借料	1,716.50	151,841.6
動力燃料費	2,482.70	219,619.6
販売経費	160.00	14,153.6
借入金利息	335.40	29,669.5
減価償却費	（ —）	（ —）
借地料	735.00	65,018.1
計	22,370.36	1,978,882.0

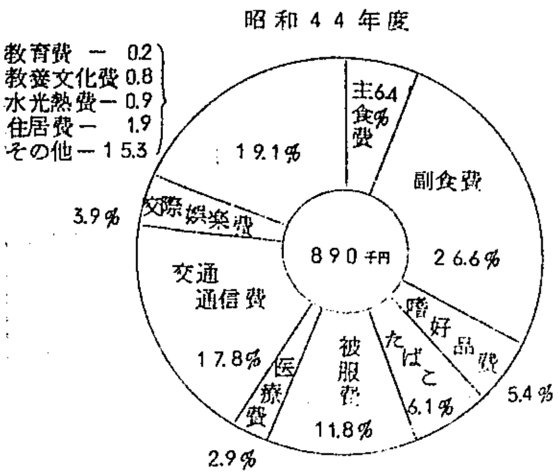
昭和44年度農業経営費内訳比率



(3) 家計費

家計費総額10,058.10Ncr$（890千円）のうち飲食費が4,474.50Ncr$（396千円）を占めエンゲル係数は44.5%である。なお、食糧自給率は40.3%、特に主食である米はすべて自給されている。

（家計費内訳比率）



“交通通信費”が17.8%とかなりの割合を占めるが、生産資材の購入その他の目的での近郊都市への出張旅費が主なものであり、又、それには出張中の食事代等も含まれている。

“その他”についても15.3%と大きいが、これは品目不明の為費目分類できぬものを一括含めたためである。

労働関係分析

(1) 作業者内訳

家長	1,283　時間	4.9%
妻	1,297　時間	5.0%
長男	2,653　時間	10.1%
二男	2,654.5時間	10.1%
三男	2,517.5時間	9.6%
四男	2,116.5時間	8.1%
長女	379.5時間	1.4%
人夫	13,322.5時間	50.8%
計	26,223.5時間	100.0%

年間総投下労働量は26,223.5時間であるが、これは農業関係以外の労働時間をも総て含めた時間数であり、農業労働時間は次表の通り25,330時間である。

(2) 作物別作業時間

項目		労働時間	日数(8時間換算)	比率(%)
短期作物	米	6,607.5	825.9	25.2
	玉葱	11,567	1,445.9	44.1
	とうもろこし	2,045	255.7	7.8
	スイカ	2,217	277.1	8.5
	その他	1,297	162.1	4.9
豚		63	7.9	0.3
農雑作業		1,533.5	191.7	5.8
(小計)		25,330	3,166.3	96.6
共同作業手伝出		185	23.1	0.7
その他		451.5	56.4	1.7
固定資産造成		257	32.1	1.0
計		26,223.5	3,277.9	100.0

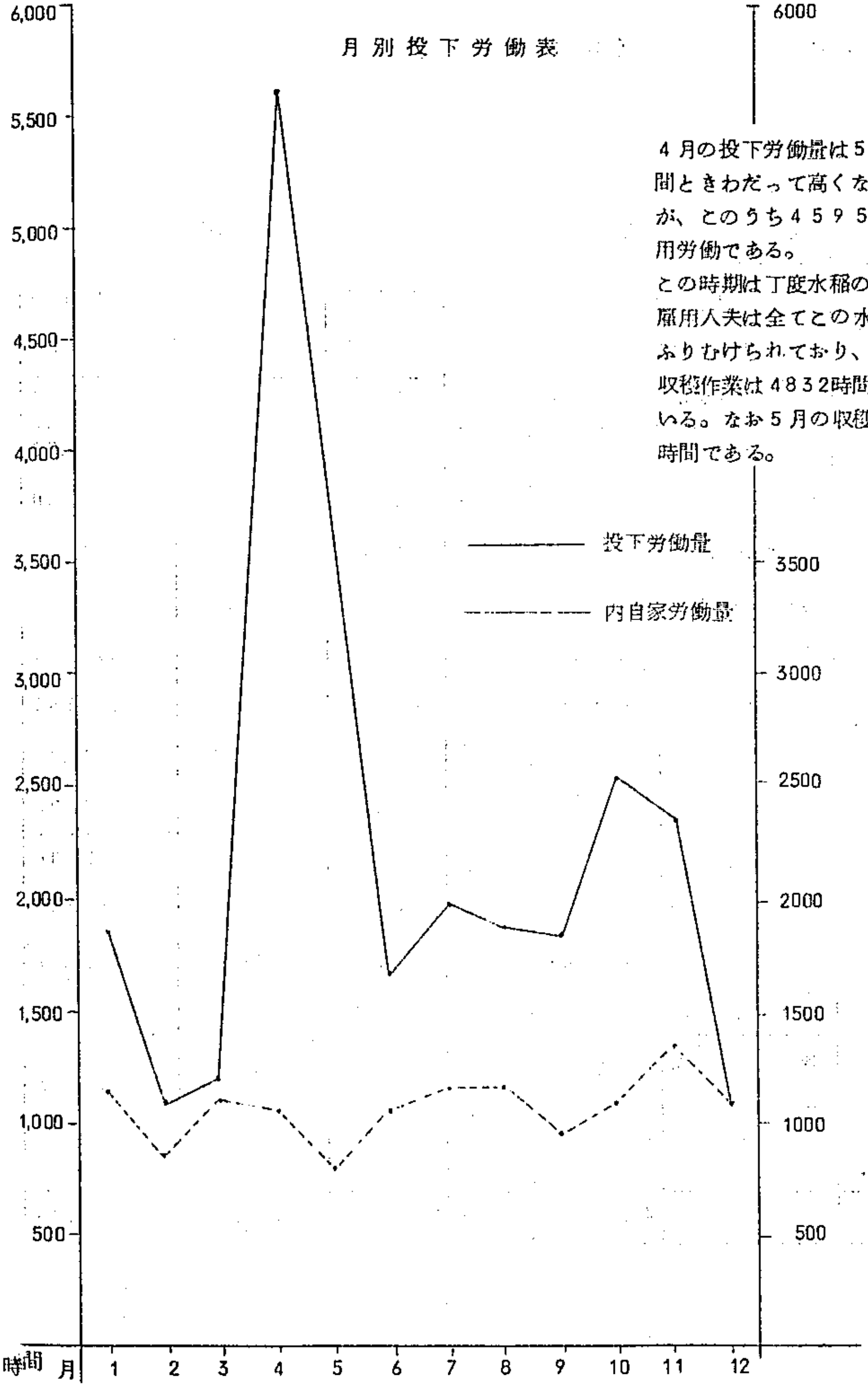
" タマネギ "について、11567時間中2,736時間はタマネギの種子球(苗床)作りである。

" 短期作物のその他 "はフエジョン、大豆、等が含まれている。

" 農雑作業 "は用排水路清掃117時間、鼠駆除の24時間その他である。

" 固定資産造成 "の内訳は、建物施設関係(畜舎修理等)65時間 牧柵支柱関係2時間 用排排水路関係190時間である。

月別投下労働表



4月の投下労働量は5644時間ときわだって高くなっているが、このうち4595時間は雇用労働である。

この時期は丁度水稲の収穫期で雇用人夫は全てこの水稲収穫にふりむけられており、この月の収穫作業は4832時間を要している。なお5月の収穫作業は40時間である。

Ⅲ 農家経済総括　　（単位：Ncr$）

1. 農業収入

項目	品名	現金	現物労賃支払	自家生産物家計仕向	現物外部取引	計
永年作物	ポンカン	—	—	123.00		123.00
	バナナ	—	—	53.00		53.00
多年生作物	パインアップル	—	—	20.00		20.00
短期作物	米	15,926.00	—	540.50		16,466.50
	大豆	269.00	—	20.50		289.50
	フェジョン	—	—	41.00		41.00
	さやえんどう	—	—	120.00	7.00	127.00
	とうもろこし	2,307.61	—	50.00		2,357.61
	玉ねぎ	19,232.60	—	144.00	129.00	19,505.60
	カボチャ	—	—	15.00		15.00
	大根	—	—	46.00		46.00
	キューリ	—	—	78.00		78.00
	キャベツ	—	—	95.00	15.00	110.00
	スイカ	8,662.07	—	80.00	70.00	8,782.07
	ピーマン		—	10.00		10.00
畜産物	豚肉	200.00	—	365.00		565.00
	豚油	—	—			
農雑		—	—			
計		46,567.28	—	1,801.00	221.00	48,589.28

2. 農業経営費

項目	現金										現物(自給分)			合計
	全支出額	修正									全支出額	控除額	修正金額	
		加算額			控除額				差引加算控除額	修正金額		固定資産関係		
		現物労賃支払(購入分)			固定資産関係	農業経営費より支払								
		農業経営費より	家計費より	小計		現物労賃	現物外部取引	小計						
雇用労賃	7,301.50				16.44				△16.44	7,285.06	—	—	—	7,285.06
種苗種子費	1,905.50									1,905.50				1,905.50
肥料費	4,064.30									4,064.30				4,064.30
農薬費	2,837.90									2,837.90				2,837.90
飼料費	—									—				—
補助材料費	528.50									528.50				528.50
修繕費	319.50									319.50				319.50
機械器具借料	1,716.50									1,716.50				1,716.50
動力燃料費	2,482.70									2,482.70				2,482.70
販売経費	160.00									160.00				160.00
借入金利息	335.40									335.40				335.40
減価償却費※	—									—				(—)
その他	—									—				—
借地料	735.00									735.00				735.00
計	22,386.80				416.44				△16.44	22,370.36				22,370.36

※ 減価償却費は、財産台帳が整備されていない為計上し得なかった。

3. 家　計　費

項　目		現　金	自家生産物家計仕向	計
主食費	パン	99.00	—	99.00
	米		540.50	540.50
	小計	99.00	540.50	639.50
副食調味料費	雑穀類	1,694.90	231.50	2,679.40
	野菜類		388.00	
	豚肉・油		365.00	
	その他		—	
	小計	1,694.90	984.50	2,679.40
嗜好品費	酒	205.60	—	205.60
	菓子	64.00	—	64.00
	タバコ	610.00	—	610.00
	スイカ	—	80.00	80.00
	パインアップル	—	20.00	20.00
	バナナ	—	53.00	53.00
	ポンカン	—	123.00	123.00
	小計	879.60	276.00	1,155.60
被服費		1,190.50		1,190.50
教育費		25.00		25.00
教養文化費		78.00		78.00
医療費		290.00		290.00
保健衛生費				
交通通信費		1,790.20		1,790.20
交際娯楽費		395.80		395.80
水光熱費		92.60		92.60
住居費		187.00		187.00
その他		1,534.50		1,534.50
計		8,257.10	1,801.00	10,058.10
臨時家計費		—	—	—
合計		8,257.10	1,801.00	10,058.10

4. 農外収支

項目	現金	現物	計
収入	408.00	0.00	408.00
支出	0.00	0.00	0.00

5. 農業経営収支の修正

項目			金額
農業粗収入	収入		48,589.28
	修正額	動物の増減額	—
		植物の増減額	—
		未処分農産物在庫増加額	—
	計		48,589.28
農業経営費	支出		22,370.36
	修正額	農業生産資材在庫減少額	—
	計		22,370.36
農業所得			26,218.92

注）農業所得算出にあたっては左表の如く農業粗収入、農業経営費の修正をしなければならないが財産台帳不備のため修正し得なかった。

家計費修正

項目		全支出額	現金							修正金額	現物	計
			加算額（現物外部取引の購入分）			控除額（現金・家計費より支払）			差引加算控除額		自家生産物家計仕向	
			農業経営費より支払	家計費より支払	小計	現物労賃	現物外部取引	小計				
飲食費	主食費	99.00	—	—	—	—	—	—	—	99.00	540.50	639.50
	副食調味料費	1,694.90	—	—	—	—	—	—	—	1,694.90	984.50	2,679.40
	嗜好品費(除・たばこ)	269.60	—	—	—	—	—	—	▲ —	269.60	276.00	545.60
	小計	2,063.50	—	—	—	—	—	—	—	2,063.50	1,801.00	3,864.50
たばこ		610.00	—	—	—	—	—	—	—	610.00	—	610.00
交際娯楽費		395.80	—	—	—	—	—	—	—	395.80	—	395.80
その他		5,187.80	—	—	—	—	—	—	—	5,187.80	—	5,187.80
計		8,257.10	—	—	—	—	—	—	—	8,257.10	1,801.00	10,058.10

現金収支の総括

項目		収入	支出	収支差引額
経常的収入及び支出	農業収入及び支出	46,567.28	22,370.36	24,196.92
	農外収入及び支出	408.00	—	408.00
	被贈扶助等の収入	—	—	—
	租税公課諸負担	—	1,470.12	▲ 1,470.12
	家計費	—	8,257.10	△ 8,257.10
	計	46,975.28	32,097.58	14,877.70
財産的収入及び支出	固定資産の購入・売却	—	48.94	△ 48.94
	土地	—	※ 16.44	△ 16.44
	建物施設	—	32.50	△ 32.50
	農機具	—	—	—
	動物	—	—	—
	植物	—	—	—
	準現金預入及び引出	29,216.00	30,425.92	△ 1,209.92
	預貯金	23,638.50	28,536.80	△ 4,898.30
	貸付金	370.00	—	370.00
	立替金	14.00	1.70	12.30
	買掛・金	5.193.50	1,887.42	3,306.08
	借入金の借入・返済	11,890.00	27,609.14	△15.719.14
	現地銀行	7,930.00	14,384.97	△ 6,454.97
	その他	3,960.00	13.224.17	△ 9,264.17
	積立・出資金等	—	1,090.38	△ 1,090.38
	組合出資金	—	68.69	△ 68.69
	農村基金	—	1,000.00	△ 1,000.00
	米.保証金	—	21.69	△ 21.69
	計	41,106.00	59,174.38	△18,068.38

△ は負債の増加を示す。

※ 固定資産関係の支出 1 6.4 4 Ncr$は雇用労賃から支払ったものである。

< 付 表 >

月別現金収支取引について

区分			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
収入	所得的収入	農業現金収入 短期作物	1,460.80	—	170.00	88.00	10,720.61	8,435.15	3,711.65	—	4,633.56	9,138.51	1,715.00	6,294.00	46,367.28
		農業現金収入 畜産物												200.00	200.00
		農業現金収入 小計	1,460.80	—	170.00	88.00	10,720.61	8,435.15	3,711.65	—	4,633.56	9,138.51	1,715.00	6,494.00	46,567.28
		農外現金	125.00	25.00	243.00						15.00				408.00
		計	1,585.80	25.00	413.00	88.00	10,720.61	8,435.15	3,711.65	—	4,648.56	9,138.51	1,715.00	6,494.00	46,975.28
	財産的収入	貸付金回収					1,400						70.00	300.00	384.00
		預貯金引出	700.00	400.00			1,400.00	9,518.10	3,591.70	1,000.00	1,300.00	3,928.70		1,800.00	23.638.50
		借入金借入	830.00		2,150.00	2,950.00			300.00	4,500.00	500.00		660.00		11,890.00
		買掛未払金		168.00	255.80	228.50		—	3,186.50	363.90	452.50	538.30			5.193.50
		合計	3,115.50	593.00	2,818.80	3,266.50	12,134.61	17,953.25	10,789.85	5.863.90	6,901.06	13,605.51	2,445.00	8,594.00	88,081.28
支出	所得的支出	農業現金支出	1,497.50	384.25	1,746.80	2,513.30	3,261.50	1,873.00	4,216.30	1,325.40	1,811.40	1,924.35	924.50	908.50	22,386.80
		租税公課諸負担	350.40					100.00		28.00	0.50	286.00		705.22	1,470.12
		計	1,847.90	384.25	1,746.80	2,513.30	3,261.50	1,973.00	4,216.30	1,353.40	1,811.90	2,210.35	924.50	1,613.72	23,856.92
	財産的支出	預貯金預入	430.00		600.00	5,892.00	1,500.00	7,193.00	700.00	1,100.00	1,654.29	7,066.51		2,401.00	28,536.80
		買掛支払金					255.80	228.50				770.40		632.72	1,887.42
		借入金返済						1,188.57	4391.69	2,485.48	3,000.00	2,647.00	700.00	3,196.40	27,609.14
		その他					90.38		1,000.00				32.50	1.70	1,124.58
		計	430.00	—	600.00	5,892.00		8,610.07	6,091.69	3,585.48	4,654.29	10,483.91	732.50	6231.82	59,157.94
	家計支出		378.00	264.70	396.50	527.20		915.50	826.10	602.00	742.00	1,111.00	840.50	1,079.60	8,257.10
合計			2,655.90	648.95	2,743.30	8,932.50		1,498.57	11,134.09	5.540.88	7,208.19	13,805.26	2,497.50	8,925.14	91,271.96

ピニヤール移住地

G　氏

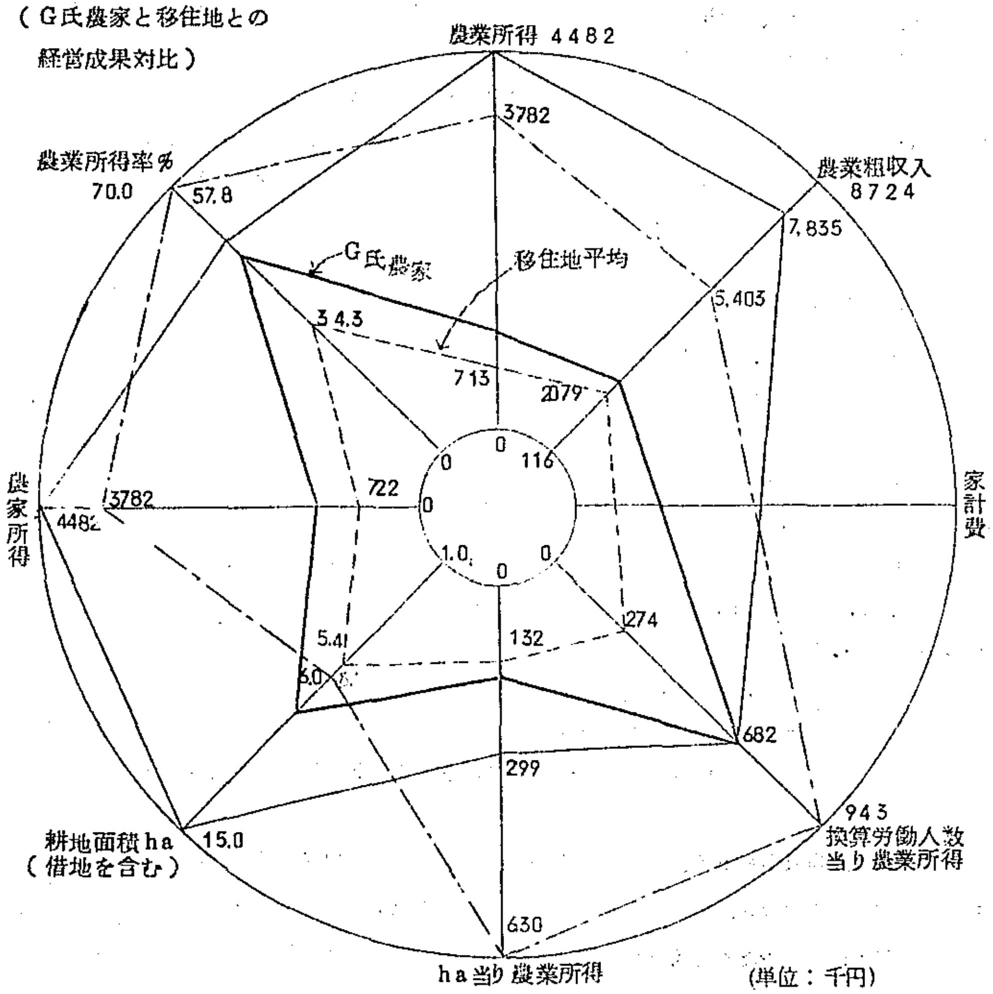
調査対象期間

昭和43年9月1日～昭和44年8月31日

概観：移住地に於けるG氏農家の位置

――経営成果グラフ――

（G氏農家と移住地との経営成果対比）



(単位：千円)

〔グラフの説明〕

1）　本グラフはビニャール移住地に於ける農業粗収入、農業所得等各項目ごとの規模を表わしたものである。外円は当移住地農家の各項目別の最高値を、内円は同様に各項目別の最低値を、また……線は移住地平均値を示したものである。但し、最高、最低値の表示について、農外部門が極端に大きなウェイトを占める農家は除外し、かつ経営収支がマイナスを示す農家は最低値を0と表示した。

2）——— 線は当移住地に於いて農業所得、農家所得の最も高い農家であり、この農家の農業収入の主なものは、トマト、タマネギ、エンドウで、これら作物の作付面積・売上高はトマト（2ha、7,727千円）、タマネギ（10.3ha、44千円）エンドウ（58千円）である。なお、借地2.4haを利用している。

又、農業所得率、及びha当り農業所得の最も高い農家を－－－——－線で示したがこの農家は、ほとんどトマト作のみ（作付面積0.8ha）である。

（昭和44年度移住地農家経済簡易調査より）

3）G氏農家（太い —— 線）は移住地平均を上回る水準にある。換算労働人数（1.8人）当り農業所得はかなり高く、又、農業所得率も上位に位置することからかなり効率的な経営を行っているものと思料される。

I 経営の概況

入植年月　：昭和37年12月

入植経過年数：6年8月

(1) 家族構成

家長（39才）、妻、長女、次女の4人家族（換算労働人数1.8人）

(2) 土地所有並びに利用状況

畑　－ha　樹園地　8.0ha　宅地　0.5ha

未開墾地　2.4ha　所有地計　10.9ha

(3) 建物施設・農機具等

建物施設　住宅1棟（90㎡）、収納舎1棟（90㎡）、井戸1基

農機具等　発動機、揚水ポンプ、動噴等その他各1台

〔財産台帳が不備のため参考までに昭和44年度農家経済簡易調査より引用した。〕

本農家は家族構成からみて、よくやっている農家といえる。入植歴約6年半に及ぶが着実に果樹（ブドウ、ポンカン、桃）の導入を計り、この間の蔬菜（トマト、タマネギ、エンドウ、人参）の収入により少なくとも無理のない形で拡大されたものであろうが、今日では果樹専業農家として成長している。

今後は少くとも全所有地の土地利用と効率化（自給率のアップのための）を計る必要があろう。

果樹も漸時収入が増えつつあり、今後が楽しみである。

Ⅱ 経営分析

（農業経営成果）

項目	昭和44年度	
	現地貨(Ncr$)	邦貨 (円)
農業粗収入	25.347.83	2,353,546.0
農業経営費	11,727.37	1,088,886.3
農業所得	13,620.46	1,264,659.7
農外収入	296.90	27,567.2
農外支出	0.00	0.0
農外所得	296.90	27,567.2
農家所得	13,917.36	1,292,226.9
被贈等収入	32.00	2,971.2
租税公課諸負担	246.21	22,860.6
可処分所得	13,703.15	1,272,337.5
家計費	1,939.24	180,058.4
農家経済余剰	11,763.91	1,092,279.1

（昭和44年度邦貨換算率 1Ncr$=92.85）

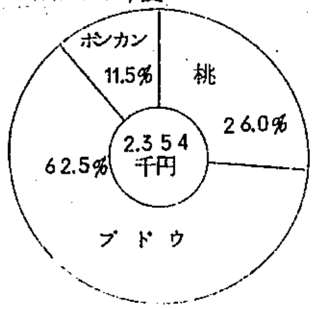
農業粗収入及び農業経営費は厳密な意味で正しくない、即ち動植物の増減額、未処分農産物の在庫増減額、生産資材在庫額及び減価償却費を算出計上しなければならないが、財産台帳が不整備のため計上し得ずに農業粗収入及び農業経営費を算出せざるを得なかった。

(1) 農業（粗）収入

農業粗収入25.347.83Ncr$(2,354千円)のうち、25,301.83Ncr$(2,349千円)が現金収入であり、商品化率は99.8%と極めて高い。

（農業粗収入の各作物別収入比率）

昭和44年度



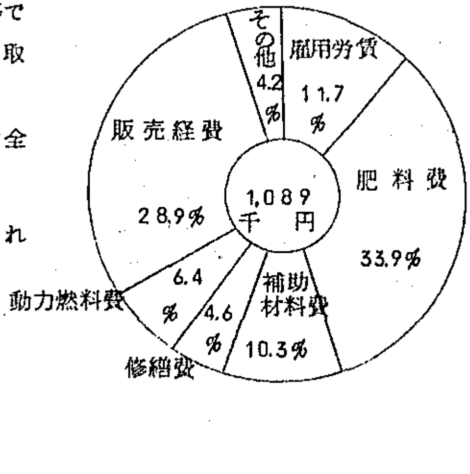
(2) 農業経営費

項目	昭和44年度	
	現地貨 (Ncr$)	邦貨 (円)
雇用労賃	1,367.06	126,931.5
種苗種子費	0.62	57.6
肥料費	3,969.89	368,604.3
農薬費	239.76	22,261.7
飼料費	0.00	0.0
補助材料費	1,213.52	112,675.3
修繕費	544.40	50,547.5
機械器具借料	0.00	0.0
動力燃料費	746.77	69,337.6
販売経費	3,318.35	308,108.8
借入金利息	0,00	0.0
減価償却費	(　　　ー)	(　　　ー)
その他	327.00	30,362.0
計	11,727.37	1,088,886.3

農業経営費11,727.37Ncr$(1,089千円)のうち肥料費、販売経費で全体の62.8%を占めているが販売経費は生産物の出荷運賃、桃出荷箱代等であり、これらのほとんどが対組合(南伯産組)取引となっている。

なお、出荷箱材料である板、釘等については全て補助材料費に含めており、補助材料費1,213.52Ncr$(113千円)のうち、これらが大半を占めている。

(昭和44年度農業経営費内訳比率)



(3) 農外関係

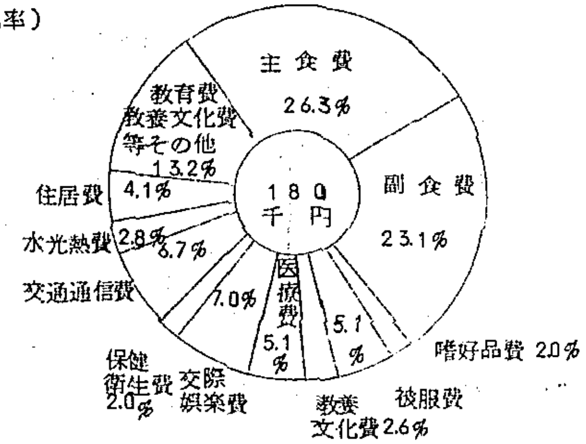
農外収入296.90Ncr$(27.5千円)は主としてジープによる他家の物資運搬による賃稼ぎ収入である。なお、これのジープ燃料費等は本来農外支出に計上されるべきものであるが、厳密に把握することが出来ないので、農外事業に使用した燃料費等も農業経営費に含め一括計上した。

(4) 家計費

家計費1,939.24Ncr$(180千円)のうち、飲食費995.79Ncr$(92千円)の占める割合(エンゲル係数)は51.3%である。

昭和44年度

(家計費内訳比率)



"嗜好品費"2.0%には煙草を除外している。

労働関係分析

(1) 作業者内訳

家長	3,412時間	――――	27.7%
	(労働日数338日、8時間換算日数426.5日)		
妻	2,708時間	――――	22.0%
	(労働日数340日、8時間換算日数338.5日)		
人夫	6,206.5時間	――――	50.3%
計	12,326.5時間	――――	100.0%

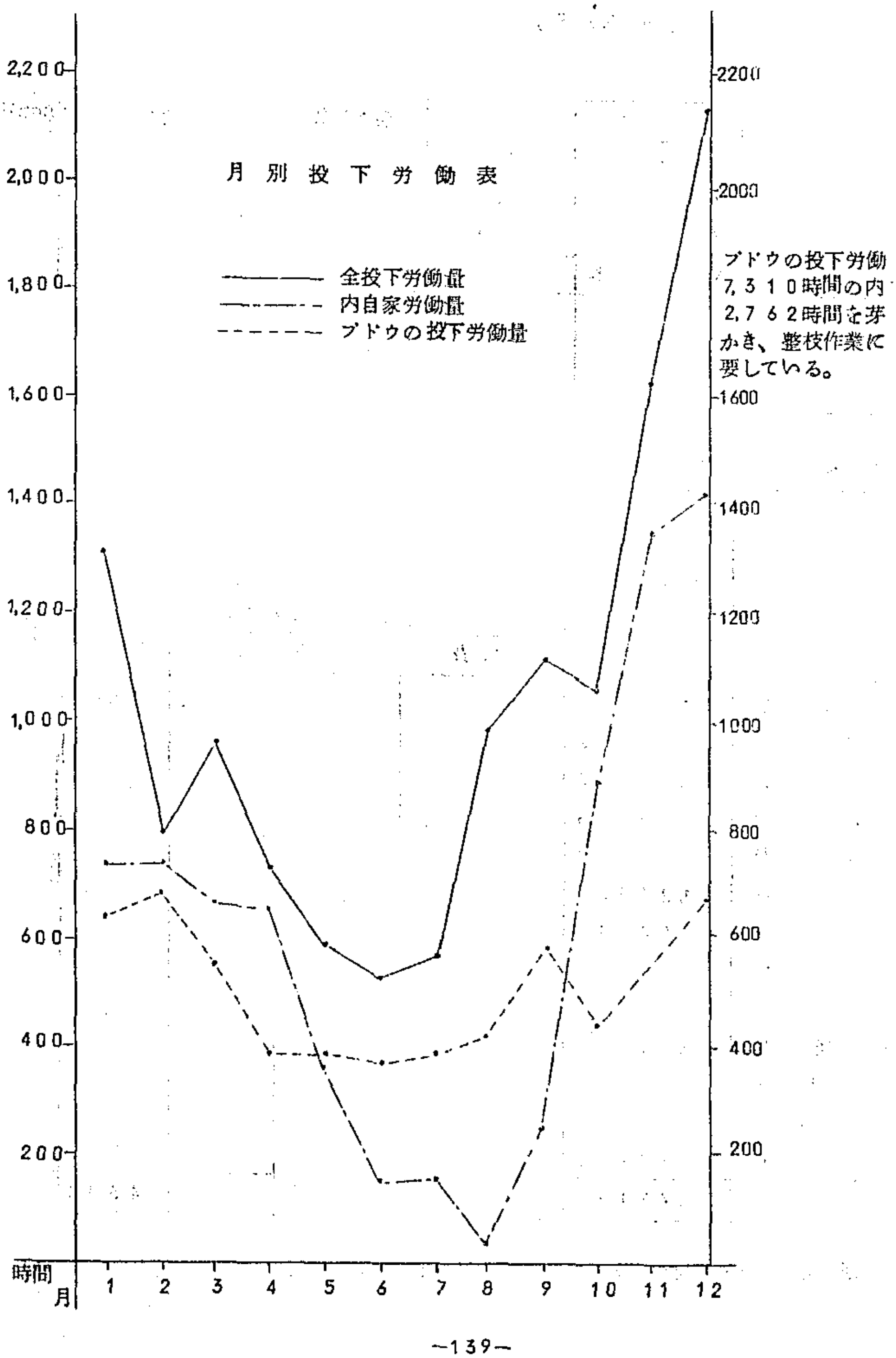
年間総投下労働量は１２,３２６.５時間であるが、これは、農業関係以外の労働時間をも総て含めた時間であり、農業労働時間は次表の通り１１,６７５.５時間である。

自家労働力は家長、妻のみである。年間投下労働量の５割強を雇用人夫によっており、特に収穫、出荷期には常時７～１０名の人夫を使用している。

(2) 作物別作業時間

項目		労働日数	日数（８時間換算）	比率（％）
フエジョン		６０	７.５	０.５
永年作物	ブドウ	７,３１０	９１３.８	５９.４
	桃	２,７０５	３３８.１	２１.９
	ポンカン	１,５４６.５	１９３.３	１２.５
農雑作業		５４	６.８	０.４
（小計）		１１,６７５.５	１,４５９.５	９４.７
共同作業出、その他		２６５	３３.１	２.１
固定資産造成		３８６	４８.３	３.２
計		１２,３２６.５	１,５４０.９	１００.０

“固定資産造成”の３８６時間はブドウの支柱切り準備である。


月別投下労働表
全投下労働量
内自家労働量
ブドウの投下労働量
ブドウの投下労働
7,310時間の内
2,762時間を芽かき、整枝作業に要している。
2,200
2,000
1,800
1,600
1,400
1,200
1,000
800
600
400
200
時間
月
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12

Ⅲ 農業経営費総括 （単位Ncr$）

1 農業収入

項目	品名	現金	現物労賃支払	自家生産物家計仕向	現物外取引	計
永年作物	桃	6,560.85			38.00	6,598.85
	ブドウ	15,826.88				15,826.88
	ポンカン	2,914.10			7.00	2,921.10
短期作物	人参				1.00	1.00
畜産物						
農雑						
計		25,301.83			46.00	25,347.83

2 農業経営費

項目	現金										現物（自給分）			合計
	全支出額	修正額									全支出額	控除額	修正金額	
		加算額			控除額				差引加算控除額	修正金額		固定資産関係		
		現物労賃支払（購入分）			固定資産関係	農業経営費より支払								
		農業経営費より	家計費より	小計		現物労賃	現物外部取引	小計						
雇用労賃	1,410.90				43.84				△43.84	1,367.06				1,367.06
種苗種子費	0.62									0.62				0.62
肥料費	3,969.89									3,969.89				3,969.89
農薬費	239.76									239.76				239.76
飼料費	0.00									0.00				0.00
補助材料費	1,213.52									1,213.52				1,213.52
修繕費	544.40									544.40				544.40
機械器具借料	0.00									0.00				0.00
動力燃料費	746.77									746.77				746.77
販売経費	3,318.35									3,318.35				3,318.35
借入金利息	0.00									0.00				0.00
減価償却費※	—									—				（ — ）
その他	327.00									327.00				327.00
計	11,771.21				43.84				△43.84	11,727.37				11,727.37

※ 減価償却費は財産台帳が不整備のため計上し得なかった。

3 家 計 費

項目		現金	自家生産物家計仕向	計
主食費	米	284.46		284.46
	小麦粉・パン・麺類	160.26		160.26
	その他	65.00		65.00
	小計	509.72	—	509.72
副食調味料費	野菜類	38.65		38.65
	肉類	139.70		139.70
	調味料	81.62		81.62
	その他	187.66		187.66
	小計	447.63	—	447.63
嗜好品費	果物類	7.93		7.93
	菓子・飲物	12.91		12.91
	たばこ	38.00		38.00
	その他	17.60		17.60
	小計	76.44	—	76.44
被服費		99.20		99.20
教育費		7.60		7.60
教養文化費		49.50		49.50
医療費		99.50		99.50
保健衛生費		38.34		38.34
交通通信費		129.70		129.70
交際娯楽費		90.00		90.00
水光熱費		53.50		53.50
住居費		78.00		78.00
その他		214.11		214.11
計		1,893.24		1,893.24
臨時家計費		—		—
合計		1,893.24	—	1,893.24

4. 農外収支

項目	現金	現物	計
収入	296.90	—	296.90
支出	—	—	—

5. 被贈扶助等の収入

項目	現金	現物	計
収入	—	32.00	32.00

6. 農業経営収支の修正

項目			金額
農業粗収入	収入		25,347.83
	修正額	動物の増減額	
		植物の増減額	
		未処分農産物在庫増加額	
		計	25,347.83
農業経営費	支出		11,727.37
	修正額	農業生産資材在庫減少額	
		計	11,727.37
農業所得			13,620.46

注）農業所得算出にあたっては左表の如く農業粗収入、農業経営費の修正をしなければならないが財産台帳不備のため修正し得なかった。

家計費修正

項目		現金									現物	計
		全支出額	加算額（現物外部取引の購入分）			控除額（現金・家計費より支払）			差引加算控除額	修正金額	自家生産物家計仕向	
			農業経営費より支払	家計費より支払	小計	現物労賃	現物外部取引	小計				
飲食費	主食費	509.72							—	509.72		509.72
	副食調味料費	447.63							—	447.63		447.63
	嗜好品費(除たばこ)	38.44							—	38.44		38.44
	小計	995.79							—	995.79		995.79
たばこ		38.00							—	38.00		38.00
交際娯楽費		90.00							—	90.00	46.00	136.00
その他		769.45							—	769.45		769.45
計		1,893.24							—	1,893.24	46.00	1,939.24

現金収支の総括

項目		収入	支出	収支差引額
経常的収入及び支出	農業収入及び支出	25,301.83	11,727.37	13,574.46
	農外収入及び支出	296.90	—	296.90
	被贈扶助等の収入	—	—	—
	租税公課諸負担	—	246.21	△ 246.21
	家計費	—	1,893.24	△ 1,893.24
	計	25,598.73	13,866.82	11,731.91
財産的収入及び支出	固定資産の購入・売却	2,080.00	6,553.28	△ 4,473.28
	土地	—	※ 43.84	△ 43.84
	建物施設	—	2,533.64	△ 2,533.64
	農機具	2,080.00	3,975.80	△ 1,895.80
	動物	—	—	—
	植物	—	—	—
	準現金等預入及び引出	23,118.39	18,757.94	4,360.45
	預貯金	22,975.17	18,697.94	4,277.23
	貸付金	—	—	—
	売掛金	—	—	—
	買掛金	143.22	60.00	83.22
	借入金の借入返済	3,000.00	5,000.00	△ 2,000.00
	借入金	3,000.00	5,000.00	△ 2,000.00
	その他	635.20	1,898.11	△ 1,262.91
	組合員勘定	635.20	1,878.11	△ 1,242.91
	その他		20.00	△ 20.00
	計	28,833.59	32,209.33	△ 3,375.74

△ は負債の増加を示す
※ 固定資産関係の支出 43.84 Ncr$ は雇用労賃から支払ったものである。

＜ 付 表 ＞

月別農業収支取引表について

(単位：Ncr$)

区分			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
収入	所得的収入	農業現金収入 永年作物	17.00	1,206.00	17,423.53	3,272.00	8.00	122.00	1,750.00	1,034.10	—	—	—	469.20	25,301.83
		農業現金収入 小計	17.00	1,206.00	17,423.53	3,272.00	8.00	122.00	1,750.00	1,034.10	—	—	—	469.20	25,301.83
		農外現金			242.50	35.00		18.00				1.40			296.90
		計	17.00	1,206.00	17,666.03	3,307.00	8.00	140.00	1,750.00	1,034.10		1.40		469.20	25,598.73
	財産的収入	固定資産売却				2,080.00									2,080.00
		預貯金引出	220.00	200.00	6,690.73	7,051.11	1,280.00	3,113.25	2,050.00	117.00	768.08	85.00	2,950.00	450.00	22,975.17
		借入金借り入											3,000.00		3,000.00
		組合員勘定	買掛金未払 (143.22)					3,512	60.00	117.00		49.81	173.27	200.00	778.42
		合計	380.22	1,406.00	24,356.76	12,438.11	1,288.00	1,288.37	3,860.00	1,268.10	768.08	136,21	6,123.27	1,119.20	54,432.32
支出	所得的支出	農業現金支出	242.40	127.06	5.558.05	1,990.68	527.00	376.25	715.13	648.50	580.75	83.78	347.37	574.24	11,771.21
		租税公課諸負担			15.00			216.00		5.00		10.21			246.21
		計	242.40	127.06	5.573.05	1,990.68	527.00	592.25	715.13	653.50	580.75	93.99	347.37	574.24	12,017.42
	財産的支出	固定資産購入		75.80	100.00		490.00	259.00	2,309.50	303.30			2,500.00		6,037.60
		預貯金預入			10,425.94	5.272.00							3,000.00		18,697.94
		借入金返済			5.000.00										5.000.00
		その他	148.22			1,154.50	5.00	40.12	60.00	117.00		60.00	173.27	200.00	1,958.11
		計	148.22	75.80	15.525.94	6,426.50	495.00	299.12	2,369.50	420.30	—	60.00	5.673.27	200.00	31,693.65
	家計支出		36.10	94.40	90.20	391.30	156.49	270.98	194.70	144.05	180.49	116.08	109.35	109.10	1,893.24
	合計		426.72	297.26	21,189.19	8,808.48	1,178.49	1,162.35	3,279.33	1,217.85	761.24	270.07	6,129.99	883.34	45.604.31

〔参考〕

イ グ ア ス 移 住 地

H 氏

調査対象期間

昭和42年4月1日～昭和43年3月31日

昭和43年4月1日～昭和44年3月31日

Ⅰ 経営の概況

(1) 家族構成　家長41才、妻、次男、三男、四男、長女の7人家族
（換算労働人数3.2人、換算消費人数4.8人）

(2) 土地所有並びに利用概況

水田：1.0 ha

畑：17.0 ha（大豆3.0 ha、マイス5.0 ha、棉1.0 ha、マンジョカ1.0 ha 蔬菜類 1.0 ha 焼畑放置6.0 ha）

樹園地2.5 ha（柑橘類2.3 ha、桃0.2 ha）　放牧草地：4.5 ha　宅地：0.5 ha

再生林地：5.0 ha　未開墾地：25.0 ha　所有地計：55.5 ha

(3) 建物施設・農機具等

建物施設　住宅1棟（60㎡）、炊事場1棟（32㎡）、倉庫1棟（42㎡）

農機具　脱穀機、籾摺機、精米機、エンジン、動力噴霧器、馬車等各1台

家畜　豚（成4頭、仔6頭）、鶏20羽

Ⅱ 経営分析

項目	43 年度	42 年度
	邦貨（円）	邦貨（円）
農業粗収入	242,056	345,328
農業経営費	214,986	145,703
農業所得	27,070	199,625
農外収入	78,707	40,406
農外支出	126	4,290
農外所得	78,581	36,196
農家所得	105,651	235,821
被贈等収入	78,587	8,938
租税公課諸負担	1,030	572
可処分所得	183,208	244,187
家計費	329,506	293,668
農家経済余剰	△146,298	△49,481

（昭和42～43年度邦貨換算率1₡S=2.86）

1. 農業粗収入及び農業経営費は厳密な意味では正しくない。即ち、動植物増減額、未処分農産物の増減額、生産資材在庫額の増減額を計上、算出されなければならないが、財産台帳が不整備のため、これらを計上せずに農業粗収入、及び農業経営費を算出せざるを得なかった。

2. 農家経済余剰が42年度(△49,481円)43年度(△146,298円)といずれもマイナスを示したが、これは厳密な意味では正しくない。

これを更に修正しなければならず、その要素として次のことが考えられる。

動植物の増減額：年度末価額、年度始め価額が共に不明

永年作物に要した費用が不明

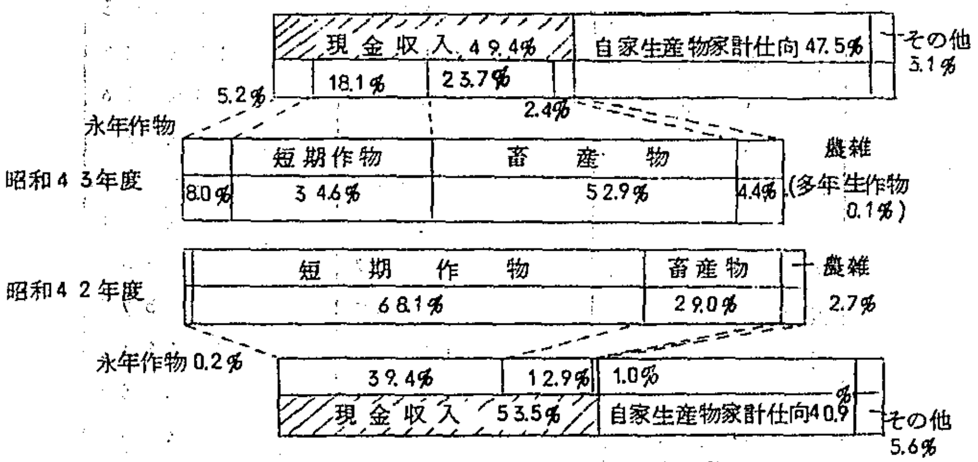
兼用農外資産の償却額：農外事業として精米、大豆の脱粒を行っており、本来ならば償却額に農外使用割合を乗じて、その分を差引かねばならないがその割合が不明の為、分離計算できなかった。

上述の理由で増加額の算出が不可能なため、この計算では計上し得なかった。但し、建物大農具については減価償却費を計上した。

(1) 農業(粗)収入

粗収入は、昭和43年度242千円で、前年度345千円に比し、大巾に減少しているが特にこの収入の大きなウェイトを占める短期作物について、その減収が著るしい。なお、この短期作物の43年度売上収入(43,632円)は作付面積に比し、余りにも低く何らかの災害にあったものか、これが低い原因は不明である。

畜産物販売収入は、43年度、57,300円で豚肉29,000円、鶏卵27,300円が主である。



内訳……永年作物：みかん　短期作物：梳、トマト、落花生、その他

畜産物：鶏卵、鶏肉、豚肉、豚油、その他　農雑：みそ

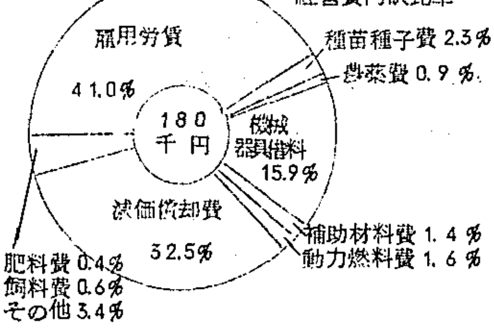
販売比率(商品化率)は42年度、53.5%、43年度49.4%とかなり低い。一方農業粗収入に対し、家計仕向に利用されている自家生産物評価額は40.9%、47.5%と高い。

(2) 農業経営費

項目	43年度	42年度
	邦　貨(円)	邦　貨(円)
雇用労賃	60,340	87,593
種苗種子費	7,036	1,116
肥料費	1,616	—
農薬費	3,369	—
飼料費	1,916	343
補助材料費	4,319	872
修繕費	—	—
機械器具借料	57,200	—
動力燃料費	2,474	3,140
販売経費	143	—
借入金利息	—	—
減価償却費	65,723	51,449
その他	10,850	—
(修正分) 生産資材在庫減少	—	1,190
計	214,986	145,703

昭和43年、42年度の両年度に於ける平均経営費内訳を右表の通り示したが、農業経営費180,344円(平均)のうち、雇用労賃73,968円(41.0%)が最も多く、次いで減価償却費58,586円(32.5%)機械器具借料28,600円(15.9%)等である。但し、減価償却費については、農外使用資産との分離計算が出来なかった為、実際額より多額となっている。

昭和43、42年度平均農業経営費内訳比率



(3) 農外関係

精米代、大豆の脱粒等の収入、賃稼ぎ、所有地内にある原木の売却、当調査日記の記帳謝金等が含まれる。

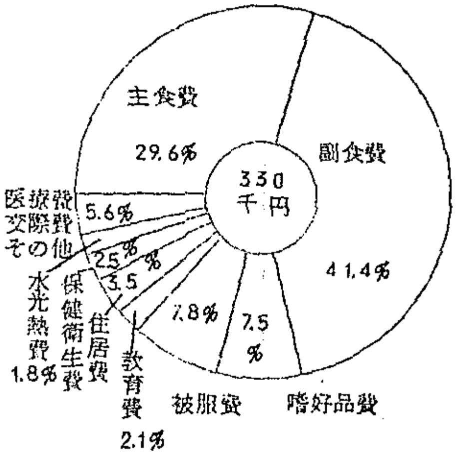
(4) 家計費

家計費の内飲食費の占める割合（エンゲル係数）は４２年度（５２.４％）、４３年度（７０.１％）である。又、自給率は同じく５１.７％、６８.７％と自給程度はかなり高い。

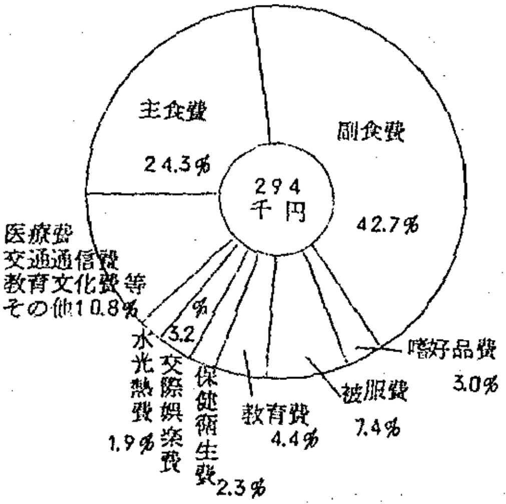
エンゲル係数	
昭和４２年度	５２.４％
４３年度	７０.１％

（家計費内訳比率）

昭和４３年度



昭和４２年度



当農家の経営の特徴は表面的にみた場合、農業所得で如何に家計費を充足せしめていくか、特に飲食費を満足せしめて行くかが当面の目標となっているようであるが、残念ながら農業所得でもってしては、家計費の８％しか充足出来ない状況である。開拓が確実に進展するためには先ずこれを改善して行かねばならないと考える。